

材、木炭等なり。

工業は機械油房二戸、焼鍋七戸、織物業五戸、鐵工業五戸、皮革業四戸、密業一戸等あるも油坊と焼鍋とを除く外は、規模小にして殆ど問題とならざるなり。

(二) 湯崗子

一、沿革及位置

當地は素と山間の僻村にして、鐵道の開通前にありては、人之を訪ふものなかりしが、停車場置かれ温泉場開かるゝに及び、浴客及千山探勝客の逐年増加すると共に漸次其名を知らるゝに至れり。

當地は南滿鐵道の沿線大連の北方百八十三哩五分、縣城の東北四十五支里の地點にあり、東方十八支里を隔て、千山の連峯を擁し、西北方五支里に鐵山聳む鞍山川此間を西流して遼陽縣界をなす。

二、戸數及人口

住民は多く日本人にして、二十の戸數と七十八の人口、外に支那人六戸六十五の人口を算するのみ。

三、市街の狀況

當地は未だ市街を爲すに至らざれども、資本金二百萬圓の温泉株式會社を中心に銳意此地の發展策に腐心し、滿鐵沿線に於ける中央樂園地たらしむるの計畫にて客を呼ぶべく卒先宿料を低下する等の努力を拂ひつゝあるを以て早晚面目を一新するに至るべし。

四、官公衙其他の諸機關

日本警察官吏派出所ありて附近の治安に任ずるのみ。

五、一般産物及特産物

當地に於ける産物は、他地方のそれと同じく、農産品にして大豆、高粱、粟等なり、又近年水田經營者増加し、年收穫約三百石に達すと云ふも元來一個の娛樂地なるが故に、産物として特筆するに足るものなし。

六、商工業

商業と稱すべきものなく僅に驛附近に一戸の小商店あるも、單に飲食物の販賣を爲すに過ぎず、最近當地停車場より發送せし貨物を擧ぐれば左の如し。(單位噸)

品目	數量	品目	數量	品目	數量
大豆	七二三	粟	九〇	煙草	一二
米	一二	雜穀	四〇	柞蚕	八八
高粱	八〇一	果實	一九八	豆粕	一七〇九

工業としては「サイド」及炭酸水製造業稍々見るに足るものあり、資本金二萬圓にして、一箇年間に製



造する價格は三千圓内外なりと、而して内六百圓は當地にて消費され他は總て沿線各地に發送せらる。  
七、雜件

温泉の概況。當地は北に遼陽、鞍山、南に海城大石橋等の市街地を控へ其外鐵道に依り遠く南北滿の大都市への往來至便なるを以て、滞在客若くは一泊の浴客多數に上り四季絶ゆることなし、殊に最近露國人の浴客逐年増加しつゝあり、彼等は五月下旬より九月下旬迄の間を主とし、長きは四十日短きも一週日を降る事なく、昨年如きも累計百人を越へ其大部分は哈爾濱在住者なり。

温泉は無色透明の亞爾加里性にして「ラヂウム」を含有すと稱せらる、溫度は攝氏七十三度半、而して「リウマチス」、慢性濕疹、「ヒステリー」、脊髓病、婦人生殖器の諸病、腺病等に効ありと聞く、目下旅館としては、温泉株式會社の經營に係る對翠閣、玉泉館、清林館及華人専用投宿の爲め特に建築したる龍泉別墅あり、孰れも設備完全加ふるに四圍の眺望佳良なり、故に南北滿の塵芥に包まれ活躍する者に取りては、單に一浴するも、其塵を流し勞を醫するに十分なり、又夏季中は「リウマチス」患者のため及露國人のため砂風呂の準備あり、敢て會社の肩を持つ譯には非らざれとも、懷中の冷かならざるの士は、往いて其實否を檢せらるべし。

(ホ) 虎庄屯

當地は南滿鐵道分水驛を距る西方三支里、營口の東方六十五支里に在り。戸數七百二十、人口五千八

百を算し巡警局、保甲團、税局、郵便局、商務會、小學校等あり。

市街は商家櫛比し、雷に附近村落の物資集散市場たるのみならず、遠く奥地と商關係を有す、即ち此地に於て練紬(柞蚕の屑糸を以て織りたるもの)を赤色或は黄色に染色して蒙古喇嘛僧の法衣を製するものにして、當地が蒙古貿易の名ある亦理由なきにあらざるなり。

元來當地は全く營口の商圏内にありて移出入物資は馬車により輸送せられ鐵道を利用するは夏期に限られしが、近來綿糸布の如きは大部分大連に供給を仰ぐに至れり。商家の主なるものには染坊七、綿布屋五、燒鍋一、油房二、雜貨屋四十戸等ありて、就中最も有力なるは綿糸布、染坊にして、當地商業の發展は此二者の盛衰により左右せらるゝと云ふも敢て不可なし。即ち此地に於て移入或は織布せる無地の綿布を染色して、海城、鳳凰城、遠くは開原、公主嶺、長春方面迄取引關係を有するものにして、大正五年本邦尾張製足踏機五十台を据付け、織布工場を經營するに至れり。

産物は燒酒、綿布、粟を主とし、通常一年間に移出する數量は燒酒約五十萬斤、綿布百八十噸、粟三千石内外なりと。

(イ) 騰鰲堡

二、沿革及位置

當地は單に騰鰲とも稱す、湯崗子驛を距る西北十五支里、鞍山驛を距る西二十支里にありて、營口、



遼陽間の街道上に位置する邑鎮なり。

二、戸數及人口

戸數一千五百戸内外、人口一萬内外を算す。

三、市街の狀況

街衢は稍々整ひ、大小の商家百四・五十戸軒を並べ、南街最も繁盛にして、店舗の體裁は略ぼ海城に彷彿し、只同地の如き堂々たる城壁なく、又一般に稍々小規模なりと云ふにあるのみ。

四、官公衙其他の諸機關

巡警局、保甲團、税局、郵便局、初等高等小學校、商務會、鄉會等あり。

五、一般産物及特産物

當地に於ける産物は大豆、高粱、大小麥其他雜穀等にして、大麥のみにも、一年二萬石内外の集散ありと云ふ。附近一帯は地味農耕好適地なる爲め穀類を産す、而して當地は其集散地たる關係上、毎

六、商工業

商業の範圍は、東西各六十支里、南北各三十支里内外の需用供給に過ぎざれども、小河口（小河と太子河との合流點に在り）に依り營口との商關係最も密接なり、從て穀類雜貨の移出入比較的多く、而

して主なる商賈は燒鍋、油坊、粮店、藥舖及雜貨店等にして、其數八十内外に達す。

毎日魚菜、糧、牛馬等の市を開かれ、開市中は附近村落より多數顧客來往し賑かにして、特に賣買に就ては、其群衆中に幾百の經紀介在せる様、田舎市として、珍らしき盛況を呈す。

油坊は三戸（内一戸は機械油坊）にして一年の製造高は、豆粕約六萬枚、豆油三十萬斤、大豆の消費高約一萬石なりと。

燒鍋は一戸にして一年の燒酒釀造高は約二十四萬斤、原料高粱の消費高約二千石なりと。外に磨坊二十余戸、染坊九戸等あれども、何れも舊式且つ小規模にして、單に周圍の部落に供給するに止まり、特記の價値なし。

(ト)、高力房

牛莊城を距る北方五十支里弱にあり。戸數約二百二十、人口千三百を算し、内小規模なれども商家三十戸あり。

元來農村なれども一部街形を成し、巡警局、郵便局、税局、小學校等あり。

燒鍋二戸の外商工業者として特に記すべき程度のものなきも、四季を通じ附近部落との間に小取引行はる。

附近一帯は土地肥沃にして、穀類の産額多く、四圍の部落は一般に富裕なり。



## (チ) 柝木城

海城の東南約七十支里、朝鮮街道上に位し、往昔の一驛站地にして、半農半商的一邑鎮なり。

戸數四百五十、人口約二千二百にして、其内商家約七十を算す、而して巡警局、郵便局、税局、小學校等の諸機關あり。

日清、日露の兩戰役に於ける戰場として知られ、又近く其西北に存在する紅窩嶺は、日露戰役當時我第四軍が露國の「ザスリーチ」中將の二十八大隊を撃破せし歴史と、三陵瑠璃瓦の製造場なるを以て有名なり。

當地は柝蚕の放養地にして、手工的なれども製糸亦稍々盛なり、從て産物としては、柝蚕及其製糸を主とし、農産及薪材類を従とす。

元と此地に一邦人の賣藥と醫院とを營む者ありしが、意外の成功を收め歸國せし筈にて、現今は我居留者なし。

## 一三、錦縣

## (イ) 錦州

## 一、沿革及位置

錦州は秦漢時代の創設に係る舊都市にして、當時其周圍は頗る不規律なる形狀を成せる城壁を繞らせ

しが、明の洪武二十四年（我紀元二〇五一年）指揮官、曹某命を奉じて舊來の城壁に一大修築を加へ、周圍五支里、三百二十步、高さ三丈五尺とせり、次て成化十二年、指揮官王鏊増更に南北四十五丈、東西九十五尺を擴張し、弘治十七年、時の參將胡忠併、各門の一部に修繕を施し形を變じて若盤（圓形）となせり、之れ俗に盤城池と稱する所以なり、後又周圍を七里五百七十三步、幅三丈五尺、高さ三丈七尺に改めたり、現時の城壁は即ち是なり。

鐵路營口を距る九十七哩、奉天驛を距る百四十七哩、山海關驛を距る百十四哩、小凌河の左岸に在りて、遼西に於ける一大都市として、京奉線の重要驛として、錦縣所在地として廣く其名を知らる、東北西の三方は遙かに山岳を望み、南は茫漠たる平野を控へ、僅に三十支里にして渤海灣に出つ。

## 二、戸數及人口

戸數九千八百五十、人口五萬千六百と稱せられ、其城内外に於ける分布は、城内三、城外七の割合なりと、在留本邦人は時に増減あるも、最近の調査に依れば七十餘名なり。

## 三、官公衙其他の諸機關

其一、日本側。牛莊領領事館、警察官吏派出所、赤十字社出張所及救療所、撫順炭坑出張所、日本人會、小學校、帝國在郷軍人會、正隆銀行支店、商品陳列館、正金銀行支店、朝鮮銀行支店及振興、營銀の二銀行



其二、支那側。縣公署、地方審判廳、地方檢察廳、警察所、稅捐總局、鹽務局、郵便局、電話局、電報局、商埠局、常關稅分局、京奉鐵路四段巡警局、京奉鐵路錦縣驛、奉天第六監獄、奉天西路清鄉局、奉天憲兵營錦縣分遣所、錦縣地方收捐處、錦縣保甲總局、商務會、農務會、教育公所、教養工廠、陸軍各兵營。

此外教育に關しては、相當の注意を拂ひ、新時代の要求に應ずべき新人物の養成に努力しつつありて、目下開校十九の外、鐵道附屬の特殊學校一校あり、其種別左の如し。

省立第二中學校、縣立師範學校、縣立第四高等學校、縣立第五國民學校、縣立第一女子國民學校、縣立第四女子國民學校、縣立第二高等小學校、縣立第三女子國民學校、私立達成高等小學校、縣立第三高等小學校、僧立國民學校、清真國民學校、縣立女子高等學校、縣立第六國民學校、育英女子學校、育英國民小學校、縣立模範女學校、縣立第一高等小學校、第十四車輪小學校（京奉鐵路從業員の子弟のみ入學す）。

四、一般產物及特產物

麻、各種皮革、豆粕、土布、毡鞋、水膠、燒酎、豆油、染物、麥粉、石綿、繩、石綿板、馬具、帽、筆、絨毯、靴、木材、小菜（小胡瓜等に蝦を混じて漬けたるもの）碼瑙石細工品等にして、此内絨毯、毡鞋、石綿及土布は特產として其名を知らる。

五、商工業

（イ、商業。城内外を通じ、商鋪は大小合せて二百五十餘戸にして、其主なるものを類別すれば左の如し。

石油會社出張所二、蠟燭及油商一、砂糖販賣二、葺商四、ミシン商一、酒店二、當舖十九、磁器鋪、藥鋪、菓子鋪二十、皮店六、糧棧六、倉庫業六、船店二、客店四十六、粮店十二、書鋪五、估衣鋪十六、砂子鋪一、油漆鋪五、馱子店十三、烟草代售處三、雜貨鋪上等十二、中等十九、下等十五、皮鋪百三十餘、布店百餘、鐵器鋪四、金店兼兩替店十、石印局七、入浴場八、牛馬皮鋪十一、鞋鋪五十餘、裁縫鋪附軍衣莊四十餘、絲線房五、面城莊一、石炭商二十五、山綢莊二、牛乳搾取業三。

移出品。以下記す所の移出品は、土產品にして主として内蒙及附近の村鎮より集まるもの多し。獸毛類の當地に集散する額は、年と共に増加しつつあり、今最近に於ける其種類並に年集額を見るに左の如し。

春羊毛	六、〇〇〇、〇〇〇斤	秋羊毛	三〇〇、〇〇〇斤	羊絨	五〇、〇〇〇斤
山羊絨	五〇、〇〇〇斤	猪毛	二〇〇、〇〇〇斤	駱駝毛	二〇、〇〇〇斤

獸皮類の當地に集散する種類並に年集散高左の如し。



牛皮	三五、〇〇〇枚	棉羊皮	六五、〇〇〇枚	水獺皮	三、〇〇〇枚
猾子皮	九〇、〇〇〇	狗皮	二五〇、〇〇〇	猫皮	一〇、〇〇〇
狐狸皮	二、〇〇〇	羔子皮	二五、〇〇〇	山羊皮	四、〇〇〇
貉子皮	一〇〇、〇〇〇	川鼠皮	四〇〇、〇〇〇		

右は其主なものにして、年集散高總計約百三、四十萬枚以上に達す。

穀類。穀物の集散年額は約五、六十萬石と見て大差なく、其主なるものは高粱にして、總額の三割強を占む、之に次くは大豆、包米、粟等とす、其産地は附近一帯並に近縣内蒙より來集す、其割合は錦縣及錦西縣より約六割五分、義縣方面より約二割、朝陽方面より約五分内蒙各地より約一割なり。來集總額の内當地にて消費せらるるは約三割にして、西海口を經由し民船により山東方面へ二割、京奉線により營口方面へ二割、關裏即ち直隸地方へ輸送せらるるもの三割内外の見當なり。棉花の當地に集まるもの、大約二十五萬斤以内とす、而して其七割は奉天以北に移出せられ、當地に於ける消費は三割に過ぎず。

當地に集る藥材の重なるものは甘草にして、其集散市場は西海口とす、而して其年集散額は二萬捆（一捆六、七十斤）即ち百三十萬斤内外とす。此外少額の防風麻、黃紫胡等の藥材あり。

麻は當地附近に産するもの平年十萬斤内外赤峰、宣化、蔚州、順德方面より來るもの一箇年約三十萬斤あり、其内約十五萬斤は營口及芝罘方面に仕向けらる。

豆粕の年産額は約二十萬枚にして、當地の消費約一萬枚を除きたる殘餘は營口方面に仕向けらる。當地一帯は、織物即ち土布の製造旺盛にして、一箇年の總額約二十九萬疋内外に達し、其七割は内蒙地方に、殘餘は當地にて消費さる。

毯靴。當地毯靴の製造は、古來より有名にして、一年の販賣數約六萬五千組内外にして、其消化率は當地、新民屯各一分、吉林、哈爾濱、長春四分、奉天、安東縣方面四分の割合にあり、又水膠の年産額は三十萬斤にして、七割は天津に、二割は内蒙に一割は當地に於て消費さる。

移入品。移入品は、當地に於て費消せらるるもの極めて少數にして、大部は再移出せらる。綿布及線糸の移入額は一萬件弱見當にして、其内日本品は七割を占め、歐米並に土産品約三割の比例なり、今此等の移入年額を示せば左の如し。

其一、綿布及綿糸

花旗布	二、六〇〇件内外	打連布	一、三〇〇件内外	坎布	一、〇〇〇件内外
市布	四〇〇箱	大尺布	七〇〇件	毛市布	二〇〇箱内外



套	布	一、五〇〇件綿	糸	二六、〇九〇件
---	---	---------	---	---------

本表中、花旗布とは粗布、打連布とは綾木綿、市布とは金巾を云ふ

其二、雜貨

麥粉	一〇〇、〇〇〇袋石	油	一九〇、〇〇〇箱砂	糖	一五、〇〇〇俵
木材	六、〇〇〇料茶	料	一、三〇〇包花	椒	七五〇、〇〇〇斤
燐寸(天箱)	三〇、〇〇〇箱染	料	二〇〇、〇〇〇缶蠟	燭	六、〇〇〇箱
葉烟草	四〇〇、〇〇〇斤				

本表中、木材一料は長七尺五寸、幅一尺、厚六寸とし、蠟燭一箱は二十斤入とす

(ロ)、工業

燒酎。當地に燒鍋二戸、附近に六戸、一年の生産額當地六十萬斤内外、附近百萬斤内外なり

油坊。當地油坊は何れも舊式にして、十一戸あれども其年産額は豆粕二十四萬枚内外に過ぎず。

染坊。錦州は水質良好にして、染布業の適地とす、從て染布業の頗る旺盛なるを見る、染坊は之を別ち

て二とす、即ち染行及紅綠染行是れなり、前者は藍色、青色(黑色のこと)の二色のみ取扱ふものにし

て、後者は五彩色を染め上げ得るものなり、而して藍色染行十一戸、紅綠染行十戸、綢緞染行四戸あ

り。

水膠行。我膠製造所にして、目下十一戸、其年産三十萬斤内外なり。

磨坊。當地に於ける磨坊は、大小五十餘戸にして多くは粮店、油坊及燒鍋の兼業とす、此等磨坊より

製出せらるる麥粉は年額約三百五十萬斤見當なり。

織布工廠。錦州を中心とする附近各地は、古來より機業旺盛にして、家工内業益々發達し其年産額少

なからず、現在第二織布工廠、福興織布工廠あり、其年産額は大尺布一萬八千疋、花旗布五千疋内外

なり。此外家内工業的のもの二百餘戸にして、其年織出高は套布二萬四千疋、大尺布二十四萬疋、花

旗布一萬八千疋、打連布千疋なり。

石綿利用公司。一箇月の製造能力は純製繩六千磅、製板三千五百磅にして、原料五萬斤より一萬五千

斤(百六十匁一斤)を製出す。

鞍轡舗。三戸にして、一年の賣上高四萬八千圓内外なり。

帽舗。五戸あり、一年の賣上高二萬圓内外なり。

銅舗。五戸、外に職工二三人を有する小なるもの若干あり。

筆舗。當地は有名なる毛筆製造地にして、此業亦盛なり、其重なるもの六戸とす、製品は大部分此地

に消費せらるるも約三割は他地方へ移出せらる。



毳鞋舗。本品は古來當地の特産にて、其製造所は大小三十餘戸に達し年製造數約八萬足内外なり、而して當地にて消費のもの約一萬五千足、其他は奉天、吉林、長春、哈爾濱方面に移出せらる。

絨毯製造當。本品亦特産の一にして、其製造業者八戸なれども、一年の賣上高は總計六萬圓内外なり。

靴靴舗。主なるもの八戸なるも、其製品は當地々方農民の需用を充すのみ。

本舗。二十四戸、内十二戸は大なれとも記するに足らず。

車木舗。五、製品の六分は義、錦西及朝陽縣下に送らる

小菜。當地の有名なる特産にして、支那に於ける名産の一に屬す、其年製造高は百萬斤内外に達すと云はる、種類は澳蝦、蝦油、蝦爪、拾綿等にして、販路は全支那に及び、大小販賣店は實に四十餘戸の多きに達す。

(ロ)、大凌河

當地は明代に於ける北防第一線の地帯たりし大凌河の右岸に位し、京奉鐵道大凌河驛の所在地たり、而して錦州の東北四十支里、石山站舊市街の西南三十支里に在り。

戸數約四百、人口約二千五百を算し一般の光景は石山站舊市街の狀況に伯仲す。

錦縣の管下に屬し、官公諸機關としては陸軍一連、巡警局、税局、郵便局、小學校等あり。

當地の商工業に就きては、特記すべき、價值少なく、商家は大小合して約三十戸にして、市内及附近

部落へ日用雜貨を供給するに過ぎざるなり。

元來當地は、過半農民より成る大部落にして、適々停車場設置の關係上農産品の出廻り季節の如き、其集散數量案外多量に達し、市況活氣を呈するに至りしものにて、將來尙多少の發達を見るなるべし。

(ハ)、高橋

高橋は京奉線の北側約一支里の地點にある小市街にして、東西に互る一條街を成し、同線の驛所在地なり。

戸數四百餘、人口二千五百を算し、巡警局、税局、郵便局、小學校あり、又少數なれども陸兵の駐屯あり。

集散物資は蜀黍、粟、大豆等にして、主として北方より來集し、其年額四萬石内外に達す、而して其四分の一は、西海口を経て海路に依り、芝罘に、三分の二は汽車路に依り直隸省、昌黎、灤州、北戴河地方に移出し、殘餘は當地に消費せらる。

集散品の種別及數量は蜀黍二萬石、粟一萬石、大豆七千石其他三千石内外なり。

商業。商業に就ては、特筆すべき程度に達せざるも、此地方に於ては、屈指の商業地として目せらる、其種類を舉ぐれば左の如し。

酒造業一、榨油業二、質屋一、糧棧及穀類販賣店七、雜貨店七、旅店二、鍛冶屋四、指物職四、飲食



店等二〇、小雜貨鋪一〇。

輸(移)出入品中、輸(移)出に關しては既記せし如くなるが、輸(移)入品中一般洋雜貨は、天津並に秦皇島及西海口を経て、芝罘、寧波より、又營口を経て南滿より、葉煙草は鐵路吉林より、木材は安東縣、大東溝より水路により、石炭は黑家甸より、石灰は紅羅山附近より來集す。

工業。酒造業は一家二班にして、一箇年約九萬斤を製し主として當地に消費せられ殆ど移出することなし。

搾油業者は二戸にして、一日一戸豆粕約六十枚(一枚二十四斤)を製するも、一箇年の總數は一萬五千枚内外、又豆油は豆粕一板に付二斤半の比にして一箇年約三萬七、八千斤を産すと聞く。

製粉及豆素麵の製造は、別に專業者なく雜貨商の兼業に係り、其原料たる小麥は遠く北滿の呼蘭附近及南方山東より移入するものにして、小麥一斗より三十二斤を製粉し、麩三升を得ると云ふ、尙綠豆一斗(四十斤)に付十五斤の豆素麵を製出するも前後者共舊式製法に依るものにして注目の價値なし。

### (二)、西海口

#### 一、沿革及位置

西海口は營口開埠以前即ち今より約四十年前にありては、遠く寧州、潮州、廣東、近くは山東及遼東

方面より民船輻輳しく頗る殷賑を極めたりしも、營口の開港と同時に著しく衰頽を來せり、殊に京奉鐵道の開通してより更に其勢力を失ふに至りしも、猶ほ現在多少の出入船あり。

京奉鐵路高橋驛の東南十五支里の海岸に濱し、北は筆架山(島)、南は葫蘆島を以て圍まれたる錦州澳(高堤)の西北角、鯉魚山と稱する小丘の西麓にあり、錦州に至る六十支里、連山灣に至る南三十支里に位す。

沿岸遠淺にして大干潮時にありては岸より三支里の干瀉を顯はす。

地盤は砂泥より成るも、堅固にして六、七頭曳の大事を通ずる事容易なり。

滿潮時は沿岸五尺、二支里にして一丈五尺の水深あり、芝罘、直隸に往來する民船は、沖合二支里に、寧波船にありては、五、六支里の沖合に碇泊し得るも灣内廣きに過ぎ、防風障屏なく且つ舊曆十月より二月迄結氷するを以て不便多し。

#### 二、戸數及人口

戸數四百餘戸、人口三千人と稱するも漁村の域を脱すること幾干ならざるなり。

#### 三市街の狀況

市街は甚だ不規則にして、約十數戸の間屋業者及官衙學校を除くときは見るに足るものなく、商港と稱するには餘りに貧弱にして名稱其物が泣くべしと思はる。



四、官公衙其他の諸機關

市の南端龍王廟に福建會館あり、街東一支里の小丘上に海關局あり、市中に税捐局、營口海防練兵前後哨、巡警局、小學校及郵便局あり。

五、一般産物及特産物

物産としては生魚、鹽、藥材(移人品)の外擧ぐべきものなし。

六、商工業

當地は甘草の集散地として遼西唯一の市場たり、芝罘方面へのものは勿論、日本或は遠く米國へ輸送せらるるものも、一度當地に集積せられ後ち分散するを例とす。

在天津米商高隆洋行の如き、代理店を當地に置き盛に甘草の收買に従事す、其集散額は年に因り一定せざるも、約二萬捆(一捆約六、七十斤)を下ることなく、而して其仕向方面は左の如し。

奉天送り 二、八〇〇捆 日本人扱、營口送り 五〇〇捆餘 日本人扱、

芝罘送り 一三、〇〇〇捆 支那人扱、天津送り 五、四〇〇捆 米國人扱、

右の外英米佛煙公司の買収するもの約三百捆に達す。

又連山灣に至る南三十支里附近に鹽田ありて、製鹽業行はる、然れども其品質は餘まり良好ならざるが如し。

又當地の統計に依れば當地より直接のものと、單に當地を経由するものとの移出數量左の如し。

高粱一萬四千石、小米(粟)九千石、雜穀五千石、大豆一萬六千石、包米五千石、燒酒百萬斤、大形豆餅一萬四千枚、小形豆餅二千五百枚、豆油十萬斤、毛皮類七萬圓、棉花六萬斤、牛三百頭、羊二千八百頭、猪三千頭、馬(驢、螺を含む)四百頭。

移入品。花旗布三五〇件、坎布一〇〇件、大尺布二〇〇件、打連布二〇〇件、市布三五箱、棉糸一、〇〇〇捆、砂糖二五〇俵、石油三、五〇〇箱、麻八、〇〇〇斤、燐寸二〇〇箱、紙類四、〇〇〇元、洋烟一五〇箱、洋燭一〇〇箱、茶五、〇〇〇斤、綢緞類四〇、〇〇〇元、麥粉一、〇〇〇袋、葉烟二五、〇〇〇斤、其他三〇、〇〇〇元。

移出品。平年穀物の來集年額は約二萬石にして、其内土地の消費六千石、他地方への移出一萬四千石内外にして、營口へ五分、直隸地方へ五分の割合なり、今進て當地へ來集する各種穀類の數量を示せば左の如し。

高粱約六千石、大豆四千石、包米四千五百石、粟三千五百石、雜糧二千石。

(ホ) 石山站

一、沿革及位置

石山站は錦縣の東北方七十支里、鐵道の北側にありて、東方十支里に京奉線石山驛を有す、其爲め石



山站は一名稱にして、驛の所在地と双方を意味し、往々間違を生ずることあり。

二、戸數及人口

新舊双方を合せ戸數八百、人口約五千を算し、新街は増加の傾あるも、舊街は辛ふじて現状維持の姿にあり。

三、市街の状況

驛の所在地乃ち新市街は、穀類其他の移出入多く、商況活氣を呈し、小市街なれども比較的賑なり、又舊市街も貧弱なれども、邑鎮を形成し住宅多く商家少きも、小取引市場たり。

四、官公衙其他の諸機關

双方共に巡警局、郵便局、税局、小學校あり、又新市街には外に陸軍兵營あり。

五、一般産物及特産物

産物は各種穀類を主とし、之れに亞ぎ焼酎、豆油、豆粕を産するの外特産なし。

六、商工業

毎年結氷前後より穀類の集來するもの多く、其取引盛なり、而して舊市街には三、六、九の日に開市ありて、相當に雜沓し、商家も大小四十を算するも、遠く新市街に及ばざるなり、今新市街に於ける商家の種類等を示せば左の如し。

當舖一、雜貨舖二十餘、燒鍋一、年産額約三十八萬斤にて、其販路は當地五分、營口三分、錦縣二分なり。

油房一、年産額豆粕約六千枚にて其販路は當地三分、營口七分なり。豆油年産約五萬二千斤、當地にて消費せらる。

粮棧二、運輸公司二、運輸公司是旅店を兼ね穀類を買收す。

粮棧即ち穀物問屋が客に代りて穀類を買收する時は、二分の手數料を徵收す、貯藏穀物は二、六、九、十月の四期に分ち、各期末に每百石に付十元の囤用錢(倉庫料)を受く。

旅店四、其他小飲食店、煙草、菓物の發賣營業者十二、三戸あり。

(イ)、羊圈子

錦州より西方約二十支里の地點に存在せる一小街にして、京奉線女兒河停車場の所在地たり、然れども戸數二百五十、人口約千六百に過ぎず。

此地より大窑溝の炭坑に通する支線あり、三等客に限り乗車の取扱を爲すなり。

巡警局、郵便局、小學校等あるも、僅少なる小雜貨店の存する程度にて、商工業上記すべき價值なきなり。

一四、新民縣



(不) 新民屯

一、沿革及位置

當地は清の乾隆年間に於て、他地方より移在し來りし回教徒に依りて開拓せられたる地にして、當初は新民屯と稱し、蘆葦叢生せる河岸に點在せる一小部落に過ぎざりしが、人口の増加に伴ひ附近村落を併合し巡檢を置きたり。嘉慶十八年新民廳の設置を見、光緒二十八年新民府と改稱せり。次いで民國二年更に新民縣と改稱せられたり、而して當地は、日清通商條約の結果商埠地として開放せられ、今日の繁盛をなしたるなり。

奉天の西方三十七哩の地點に在りて、京奉線新民驛の所在地たり。

二、戸數及人口

最近の調査によれば、戸數約六千四百、人口三萬一千五百を算し、其内本邦人二十六戸、七十八人、朝鮮人一戸、四人、英人一戸、二人を除き他は總て支那人なり。

三、市街の狀況

當地は一般に低地なる爲め、降雨の際は洪水氾濫し水害を蒙る事屢々あり。就中大正四年の如き、大洪水の爲め全市水中に没し、被害甚しく人口も従前に比し約半減せりと云ふ。市街は驛より南方に通ずる馬路街及び之と交叉せる大街並に之に對する前街後街は其主要部にして、此等に交叉せる數多の

小街より成り、東西約七支里、南北六支里に亘る一大市街なり。家屋は煉瓦或は石造多きも、概ね平屋建なり。主なる商賈は前記主要街中に軒を連ね、一見殷賑なるも多少活氣に乏し。而して當地は日支人能く融合し極めて平穩なり。

四、官公衙其他の諸機關

日本側に屬するものには、領事分館、警察分署、電話局、居留民會、小學校等あり。又支那側に屬するものには、新民縣公署、警察所、官鹽局、電話局、電報局、郵便局、水上警察、稅局、商務會、農務會、陸軍兵營、自衛團、監獄、教育會、勸學所、男子師範學校、女子師範學校、高等初等小學校、工藝實習所、補修小學校、私塾、銀行二、病院一、基督教會堂及英人經營の病院一、學校一等あり。

五、一般產物及特產物

豆粕、豆油、燒酎、麥粉等の製造品及大豆、高粱、小麥、大麥、玉蜀黍、粟、麻子等の農產物の集散あり。今左に最近一箇年間に於ける此等農物の移出入數量を示さん。(單位石)

品目	移入	移出	品目	移入	移出
大豆	一七八、二〇〇	八三、七〇〇	粟	一三、八〇〇	一一、〇〇〇
高粱	一五二、〇〇〇	一四二、〇〇〇	米	三、二〇〇	—



小	麥	一七、五〇〇	胡	麻	一六、九〇〇	一二、四〇〇
大	麥	九、八〇〇	麻	子	二六、三〇〇	一七、四〇〇
玉	蜀黍	二六、七〇〇	雜	穀	五五、三〇〇	四、一〇〇

當縣内には朝鮮人戸數約三百、人口一千四百餘在住す、而して商工業等に從事するものなく、殆ど總て農業殊に水稻耕作に従事す、其内二三の商租權を有するものを除く外は、總て普通小作にして、小作料と小作人取分との割合は、全收穫中地主四分乃至四分五厘或は地主と小作人との折半取得なり。然れども連年旱魃或は水害を蒙り、收穫充分ならず、一部を除く内は、概ね年々收穫取分全部を賣り盡して漸く生活を維持するの狀態にありて、種子粃を貯藏する餘裕なく、播種期に至れば借財の上種子を購入するを常とす。而して各一戸の水稻作付反別は三天地乃至七天地にして、其收穫量一天地當り粃五石乃至十石位なり

六、商工業

(イ)、商業。前述の如く當地は大正四年の水害の爲め、人口の如きも半減せし有様にて、其商業も従前の如く般賑ならざるも、尙遼西地方に於ける有数の市場たるを失はず。當地には既記の如く、日本人二十六戸ありて、其主なるものは、雜貨商二、質屋四、齒科醫一、醫師

一等なり。

次に當地に於ける重なる商賈は、雜貨商七十、燒鍋三、獸骨商一(邦人)油房十五、質商二十、糸房(綿糸布其他反物)十六、石炭商十一(内邦人一)藥種商七(内邦人一)砂糖商二(英商太古洋行代理店、南滿製糖販賣代理店)、果物商六、重要物産商一(邦人)、綿糸商一(天津華新紡績公司)、皮舖八、機房十、石油商二(亞細亞公司及美孚洋行委託販賣店)、運送業五、製粉業三十二、豆素麵製造業三十五等なり。而して當地の商業範圍は管内及之に接する三四縣とす。奉天とは商業關係極めて薄く、寧ろ北邊の彰武、鎮安、法庫、昌圖及直隸の一部と密接の關係あり。轉じて當地に於ける移出品に就きて述べん。

- (イ)、高粱、年額十四萬二千石、價格百四十八萬五千元(奉票、以下同じ。)
- (ロ)、大豆、八萬三千七百石、價格百五十四萬五千元、此等は總て當縣内及彰武、法庫、康平等の各縣より來集し、後鐵道によりて營口、大連方面に輸送せらる。
- (ハ)、豆油、約百萬斤、價格十九萬餘元。
- (ニ)、豆粕、二十萬枚、價格五十五萬餘元。

又當地に於ける主要なる移入品は

- (イ)、綿絲、主として日本及印度より輸入せられ、印度産のものは、上海、營口を経て當地に入る、



上海産のものも亦少量移入せらる。

(ロ)、綿布、日本、英國、米國産にして、日本品は主として奉天を經由し、英米品は營口を經由して輸入せらる。

(ハ)、砂糖、主として香港品移入せらる。

(ニ)、燐寸、奉天及營口方面より入る。

(ホ)、麥粉、滿州製粉會社製品及米國品、上海品主として移入せらる。

(ヘ)、卷煙草、主として英米「トラスト」製品なり。

(ト)、石炭、撫順、本溪湖、牛心台等の産多く移入せられ、黒山縣八道濠炭は専ら軍隊により消費せらる。

(チ)、石油、殆ど美孚印(米)、亞細亞(英)の兩種なり。

當地には對日輸出業者二十餘戸あり、専ら特産物を取扱ふ。又同輸入業者には雜貨を取扱ふ者二戸、綿糸布取扱者二十八戸あり。

(ロ)工業。

當地には十五戸の油坊あり。製造期間は、陰曆九月初旬より翌年六月に至る間最も繁忙にして其他は閑散なり。其一箇年間に於ける製造高は約豆粕二十二萬二千枚、豆油百十一萬五千斤にして、外に油

坊の兼業に係る豆粕三萬九千枚、麻油二十四萬七千斤の産出あり。

十五戸の油房中九戸は數十年來斯業を繼續經營し來れるものにして、他の六戸は何れも民國二年以後の開業に係る、即ち當地の油坊業は、過去十年間に於て著しく發達を遂げたるものと見ることを得べし然れども概して舊式油坊に屬し、穀物問屋を兼業とするもの多し。原料大豆の産地は當縣内、彰武縣等なり。

製品の販路は前述の如く、主として營口、大連方面にして、奉天方面に出づるもの極めて少なし。

燒鍋。當地には前述の如く三戸の燒鍋ありて、各三班を有し、一日の釀酒量は一班約四百五十斤にして、一箇年の釀造額百萬斤を下らず。磨坊。三十二戸の投下資本額は、小洋約二十二萬元にして、一箇年の製粉高五百萬斤を算す。此外燒鍋、油坊、粮棧等の兼業として生産するものを合すれば、年額七百五十萬斤に達す。

粉條子業。三十五戸の一箇年の生産額は約三萬斤にして、其原料は吉豆(綠豆)及高粱なり。

其他當地監獄署内に、習藝所の設置ありて、囚人に工藝を習得せしむ。其課目は印刷、織布、裁縫、木工、皮工、鐵工、玻璃、製蠟の各科に區別し木工科は挽材若くは木器具を、皮工科は靴鞋を鐵工科は各種鐵器を、玻璃科は洋燈ホヤを製造して之を市場に販賣す。

(ロ)、馬廠



縣城の東南方大民屯に通ずる路上、約二十支里なる遼河の灣曲せる右岸に位置する一埠頭に於て、戸數百、人口約六百を算するも、内商家は十戸内外なり。巡警局、税局、小學校等あるも、殆ど街形を成さず僅かに數戸の商店あるのみ。

從來河岸の水深く、戎克の繫留に便なりし爲め、附近部落に對する移出入貨物の大部は、此地より揚陸又は船積せられしも、河流の變化に依り、昨今は其株を左岸に存する平安堡に奪はれ、凋落の苦境にあるも、遼河の水流は變化常なきを以て、待てば海路の日和、復た花咲く春の來るなるべし

(ハ) 巨流河

新民縣城を距る東方二十支里遼東遼西の境界に在り。周回四支里、方形の煉瓦壁ありて、清朝の初年に築造されたるものなり。壁間三門あり、此地は往時唐と高麗との古戰場なりと。戸數百三十、人口約一千を算し、巡警局、税局、郵便局、小學校等あり。而して南方五支里にして京奉線の一驛たる巨流河驛を扣へ、又夏季は埠頭として遼河の水運に依り多少物資の集散を見る。穀商、雜貨商等ありて、附近部落との間に小取引行はる。産物は一般農産品なるが、外に棉花及麻の産出少からざるより、寧ろ此等特産の産出地として、多少注目せらる。

(ニ) 大民屯

原と一小寒村なりしが、最近二十年間に漸次發達し、目下新民屯附近に於ける最も富裕なる小都市たり。而して新民屯の東南約三十五支里に在り。戸數千百、人口六千を算し、巡警局、郵便局、税局、商務會、小學校等の諸機關あり。街衢は一條なれども、商家二百五十戸に達し、其内主なるものは、油坊、燒鍋、雜貨商、雜穀商、吳服商、靴商、菓子商、鍛冶屋、旅店等なりとす

産物は普通農産の外、棉花及麻の産出少からず、又豆粕、豆油、燒酒等の工業品を産す。毎月三、六、九の日に於て開市あり市日には附近村落十五支里乃至五十支里の各地より來集する人馬車多く、農閑期の如き、單に車輛のみにも其數二百台を下らず。又冬季穀物の出廻期には日に千石平均の集散ありて、一箇年間に於ける總數量は十三萬石内外に達すと稱せらる。今其種別の概要を示せば左の如し。

陸稻	一、〇〇〇石	蜀黍	九、〇〇〇石	粟	二〇〇石
小麥	二、〇〇〇石	大麥	一、二〇〇石	黑豆	八〇〇石
雜穀	四、〇〇〇石	大豆	一一二、〇〇〇石		

尙上記商店の内譯を擧ぐれば次の如し。

- 油坊 五 雜穀商 五 吳服店 三 鍛冶屋 四 菓子商 三
- 雜貨店 六 靴商 七 旅店 五 燒鍋 一



各種物資の移出入關係地は主として營口にして、冬季は馬車輸送に依り、夏季は遼河の水運に依り輸送せらる

從來當地の水路輸送は、埠頭馬廠を經由せしが、水流變化の爲め、近來は埠頭平安堡を經由のもの多し。五個の油坊は何れも各一班の設備にして、一箇年間に於ける豆粕製造高は、通常十萬二千枚、豆油四十萬八千斤にして、之に要する大豆の消費高は、約二萬二千石なりと。又燒鍋の年産額は、三十五萬斤内外に達するも、概ね土地にて消費され、他地方へ移出せず。

(ホ)公主屯

新民縣城の東北方四十七支里に在りて、戸數百二十、人口約九百を算し、巡警局、郵便局、税局、小學校等あり。

不規則なれども街形を成し、油坊一、雜貨店六、飲食店八、旅店七、鍛冶屋二等の商家ありて、附近部落との間に相當の取引行はる、油坊の生産年額を聞けば、豆粕一萬五千枚、豆油六萬三千斤なりと。産物は高粱、大豆、小麥等の普通農産の外、棉花及麻の産出地として知らる。

(ヘ)小塔子

當地は新民屯、法庫門間の路上縣境界に位置し、戸數八十、人口四百二十を有し、市街と稱する程度にあらざるも、日露戰役當時我軍の兵站部を置き、水運に依り盛に軍需品を揚陸堆積し、熱鬧を極め

し處なり

巡警局、小學校等あり、又小規模なれども、雜貨店三、宿屋四、鍛冶屋二ありて、小取引行はる。産物は普通の農産品なるも、外に附近より棉花の産出あり。

當地に古塔一基あり、遠方より望見せらる地名之より生ず。

一五、彰武縣

(イ)彰武

一、沿革及位置

當地は元と荒蕪無人の地なりしが、清の嘉慶十七年項より、開墾を許せしも、其發達遅々として、當初は戸數六、七戸の小部落に過ぎざりしなり。而して其置縣を見しは尙二十餘年前に過ぎざる光緒二十八年(明治三十五年)とす。

縣公署の所在地にして、俗に横道子と稱し、新民屯の北方百二十支里、綏東縣の東南百八十支里に位す。

二、戸數及人口

戸數約九百、人口八千五百を算す。

三、市街の狀況



市街は方約二支里、高さ一丈の比較的整然たる土壁を以て繞らされ、東西南北各煉瓦造の城門を有す東西に通ずる比較的廣き一條街と、其中央部を南北に貫通する一條の胡同より成り、東西街は稍々繁盛なれども、城内の四隅は今も人家に乏しく、猶ほ空地を存する所多し。以て其一般を窺ふに足るべし。

四、官公衙其他の諸機關

彰武縣公署、警察所、稅局、商務會、農務會、藝徒學校、高初兩等小學校、模範講演會、郵便局及兵營等あり

五、一般產物及特產物

產物は穀類を主とし、其内蕎麥最も多く、蜀黍、黍、棉花等之に次ぐ、外に加工品たる豆油、豆粕、燒酎、麥粉等あり。

一三六、商工業

一、商業。當地の商店中其主なるものは、六十餘戸にして、其營業別の概況を擧ぐれば左の如し。

質屋	二	製粉所	五	雜貨舖	一〇	洋貨舖	三	京貨舖	二
木匠舖	四	書舖	一	仕立屋	三	湯屋	二	燒鍋	三
銀細工屋	六	皮舖	二	飯屋	四	油坊	一	毡帽舖	一

二 雜業

移出品は前記穀類にして、土地に於て消費さるるものを除きたる剩餘は、新民屯方面に送らる。然れども其總量は四萬石を出せずと稱へらる。

移入品は各種雜貨にして、主として新民屯より仕向けらるるも、一部は奉天より來るなり。  
一、工業。主なるものは既記せし如く、燒鍋一、油坊一、製粉所五にして、燒鍋は一班裝置を有し、年額約六萬斤内外を醸造す、又油坊は二班裝置にして舊式に屬し、年生産額は、豆粕二萬枚、豆油十萬斤内外なりと。

(ロ)、彰武台邊門

彰武縣城を距る東南四十支里、新民屯の北方七十支里に位置し、恰かも新、彰兩縣境に在りて、戶數約三百、人口二千を有する大部落なれども、殆ど街形を成さざるなり。

巡警局、兵營、稅局、郵便局、小學校等ありて、邊門の内外二部に分る、而して兩部共に四、五の小雜貨店及旅店あるに過ぎず。

產物は麻子、小麥を主とし、蜀黍、粟等之に次ぎ、主として當地に於て消費せられ、剩餘は多量ならざれども、新民地方に移出せらる。

當地は蒙古方面と關係あり、其爲め該地に産する畜類にして此地を經由し移出せらるるもの少なから



す、今其一箇年内に於ける數量を示せば次の如し、  
牛一千頭、馬四百乃至五百頭、羊一千頭。

此等畜類の移出は夏季最も盛んにして、其顧客は主として奉天の商店なり。

(六) 大廟

縣城の北方五十支里に位置し、戸數約二百、人口一千内商家約四十を算し、巡警局、税局、兵營、郵便局、小學校等あり。元微々たる一小村落に過ぎざりしが、蒙古方面より來る家畜類の集散地たる關係上、漸次發達を爲し今日に至りしものなり。

北方に於ける蒙民は、近來漸次放牧より農業に轉じつつあるを以て、將來も既往同様の速度にて、發達するや否やは疑問なれども、畜産を減すれば、農産を増すが故に、少くも衰退の憂なかるべし。

(ニ) 哈拉套街

一、沿革及位置

哈拉套街は哈拉刀改或は哈爾套街とも稱せられ、彰邊縣下第一位の物資集散市場にして、光緒二十九年縣丞を置きたる所なり。

彰武より綏東に通ずる道路上に在りて、彰武、綏東より各九十支里の地點に位する重鎮なり。

二、戸數及人口

支那官憲の表明に依れば、戸數三千九百四十三、人口二萬一千八百なるも、實際は戸數約二千内外、人口一萬二千内外なるべし。住民の多くは廣寧、錦縣、義縣及彰武方面より移住せる者にして、商人は直隸省、樂亭縣の者最も多く、商家約二百を算す。

三、市街の狀況

市街は四圍丘阜を以て繞らされ、東西二條の河川之を挟みて南流し、其南端に於て相合し鶴鷹河に注流す。市街は城壁なく、街衢をなすは東西に通ずる長さ約一支里半の一條にして、商家は多く此街にあり。其他之に交又せる數條の小街ありて、農家を主とする住宅區をなす。

四、官公衙其他の諸機關

彰武縣分治所、巡警局、兵營、税局、郵便局、高等初等小學校等あり。

五、一般産物及特産物

皮革類、木炭、麥粉、粉條子、燒酎等を主たるものとす。

六、商工業

奉天、新民及錦、義の兩縣方面より小庫倫に至る要路に當り、元交通頻繁なりしが、近來小庫倫市場の不振に伴ひ稍々衰退の傾あり。尙小庫倫より新民に至るものは、從來此地を通過せしが、現今は山多き道路を避け、大廟より彰武を経るもの漸く多きを加へしも、當地に對する打撃の一たり。然れど



も今も彰武縣内唯一の商業地たるを失はざるなり。商舖は當舖、雜貨舖、布疋商及燒鍋等其主なるものとす。移入物資は主として雜貨類にして、新立屯及新民屯方面より送られ、錦州方面よりするものは陶器、鐵器及靴等なり。

當地を中心とする交通路には左の五條あり。(一)新民屯に至るもの、(二)阜新縣城に至るもの及同地を経て清河門、義、錦の兩縣城に至るもの、(三)小庫倫に至るもの、(四)彰武縣城に至るもの。

以上の内(一)(二)は當地物資移出入通路にして、秋冬の際は交通盛なり。(三)は綏東縣と新民屯及營口との交通路にして、四季往來の絶ゆることなし。

今當地に於ける來集穀物の年額を示せば左の如し。

高粱	六、〇〇〇石	谷子	二、〇〇〇石	蕎麥	一、五〇〇石
吉豆	八〇〇石	里豆	二〇〇石	稻米	一五〇石
麻子	五〇〇石	芝麻	三〇〇石	糜子	三〇〇石
玉蜀黍	五〇〇石	小麥	五〇〇石	大豆	六〇〇石

其他皮革類、牛馬皮千枚、羊皮千五百枚。

又此地に於て製造せらるる、主なるものは、木炭五萬斤、麥粉十二萬斤、粉條子三千斤、燒酒十五萬斤内外とす。

一六、黑山縣

(イ)、黑山(鎮安)

一、沿革及位置

當地は渤海時代、朝鮮人によりて開拓せられし所なりと稱せらるるも、現下鮮人の在住するものなし其後多少の變遷を経て、光緒二十九年(明治三十六年)廣寧縣の一部を割き、始めて縣を置き鎮安縣と稱したりしが、民國二年に至り、今の黑山縣に改めたるものにして、今尙別名を鎮安と稱せらるる、京奉鐵道打虎山驛を距る西北約十八支里、北鎮縣城の東北六十支里の地點に位し、黑山縣公署の所在地たり。

二、戶數及人口

最近の戶數約二千、人口一萬内外を算し、其内本邦人四戸八人あり。又佛人宣教師一名在住し、布教に従事す。

三、市街の狀況

市街は建設以來三百餘年の古き歴史を有し、小黑山と稱する丘陵上にありて、西北に高く、東南に至



るに従ひ漸低す、京奉線打虎山驛より當地を経て、八道壕炭坑に至る約十三哩間に同支線敷設開通し  
二日二回の往復運轉を爲す、而して尙ほ遠からず新立屯迄延長せんとする計畫中なりと云ふ。市街は  
驛を距る東南約四支里、此間住家なく、道路は高低常なく不便なり、主なる市街は東西に通ずる本街  
(即ち前街)及後街にして、本街は奉天より錦州方面に至る大街道に沿ふて街衢を形成し、主なる商舖  
は本街及後街中にあり、又後街には廣場ありて、各種露店相連り雜踏す、其他の道路は不規則にして  
廣狹定りなし、家屋は石造のもの多きも、概ね平屋建なり、市中にて最も目を引くものは、北方丘陵  
上なる天主堂及基督教會堂にして、此外にも龍王廟、老爺廟、關帝廟、火神廟、財神廟、藥王廟、河  
神廟福音堂等ありて、市街の美觀を添ふ。

四、官公衙其他の諸機關

黑山縣公署、警察所、官鹽局、稅局、兵營、自衛團、郵便局、電報局、電話局、商務會、農務會、教  
育局、高等初等小學校、補習小學校、勤學所、鑛務局、銀行、貯蓄會等あり。

五、一般產物及特產物

一六、當地に於ける集散物資は高粱、大豆、粟、小麥及雜穀、梨、葡萄、桃、西瓜、棉花、羊毛、豚毛、馬  
尾、羊皮、牛皮、狗皮、狐皮、狼皮、豆粕、燒酎等にして、此内棉花は其產額前年に倍加し、約七十  
萬斤に達せり、之に反して他の穀類の生産は、年々減少の傾向あり。

六、商工業

(1)、商業。當地は往時、附近に於ける唯一の大市場たりしが、京奉線開通後漸次衰退せしものなるも、  
近來八道壕支線開通の爲め、市況稍々恢復せりと雖も尙昔時の繁榮を見る能はず、住民は一致協力之  
が挽回策を講せるも、近來北方約九十支里なる新立屯は逐年隆盛に赴き、經濟的に當地を凌駕するに  
至りたるも、上述の如く將來八道壕支線の新立屯迄延長せらるる場合に於ても、當地は其中間の一驛  
に過ぎざる等、當地に取りて不利の條件多く、到底大なる發展は望み難かるべし、當地に於ける商舖  
の主なるものを擧ぐれば次の如し。

雜貨舖大小八〇、錢舖四、當舖七、金店七、糧棧六、油坊二、染坊六、燒鍋一、磨坊九、藥舖五、綿  
絲布兼雜貨二、皮店四、客棧大小二〇餘、飯店大小二〇餘、茶莊七、  
次に前述の如く、本邦人四戸ありて其營業を分てば、兩替兼金貸業一、金貸業一、雜貨商一、質屋一  
なり。

尙當地には、左の如き外國商店の代理店あり。

美孚洋行代理店

太古洋行代理店

亞細亞公司代理店

怡和洋行代理店

英美煙公司代理店

德士占石油會社代理店



當地には舊曆毎月五、十の兩日開市ありて、來集客多く頗る雜踏す。

次に當地の移出品の主なるものは、前記穀類なれども、其數多からず、獨り棉花は漸増の勢にありて、最近の移出年額は約五十萬斤に達せり、而して其取引先は主として奉天にして、營口、長春其他に移出せらるるも其數多からざるなり、又當地は果樹の栽培頗る盛んにして、年々多額の梨、葡萄、西瓜の類を營口、奉天、長春、哈爾濱、遼陽、新民屯方面に移出す、毛皮類亦相當の集散ありて、其取引先は奉天、錦州、營口方面最も多し。

移入品の重なるものは綿絲二千捆、綿布二千五百捆、燐寸三千箱、石油七千箱、麥粉一千袋、卷煙草四千箱、石炭七千噸、砂糖四百包等にして、之が仕入地は營口最も多く、奉天に次ぐ、又葉煙草も吉林方面より移入するもの少なからず、其他鹽、茶、麻、蠟燭等の移入亦相當の額に達す。

(ロ)、工業。當地は工業として見るべきもの少なく、油坊二戸、其製出年額豆粕大小約四萬五千枚、豆油約十萬斤、燒鍋一戸、一箇年間に於ける製造高、燒酎約九十萬斤にして、當地の需用を充し殘餘は營口方面に移出す、其他磨坊九、染坊六あれども、何れも舊式にして論ずるに足らず。

#### 七、八道壕炭坑

當坑は戸數約二百戸、人口約千二百を算し、黑山街の西北約四十支里、白土廠門の東南約二十支里の地點に位し、丘陵地帯にあり、元同地村民等鑿井の際偶々發見せるものにして、現今は奉天支那官憲の

直營に屬す、坑は目下二井を穿ち苦力約五百名を使役し採掘しつつあるも、諸種の施設は其半途にありて、現在一日二百餘噸の出炭あるに過ぎざるなり、炭質は稍々硫黃分多きも挾雜物少なく比較的良質にして、燃燒力強烈暖爐用に適す、其販路は奉天紡紗廠を最とし、其他各地支那軍隊に於て使用せらる。

#### (ロ)、打虎山

京奉鐵道打虎山驛の所在地にして、黑山縣城を距る東南二十支里、同鐵道八道壕支線の分岐點に位し戸數二百二十、人口千三百を算す。東方に孤立せる打虎山を負ひ、三面は平坦なる耕地にして、陸軍兵營鐵路巡警局、税局、郵便局、小學校等あり。

距離、地勢等の上より縣城の門戸をなせど、近來新立屯或は邊外に出入の貨物は多く勵家窩棚に、西方のものは、溝帮子に吸收せられ、其商業範圍は、極めて狭く、縣城及附近部落の移出入物資の中繼地として、鐵路の援護に依り漸く其位置を維持せるに過ぎざるなり。

鐵道に接し、街形を成すも至て貧弱にして、商舖と當舖二、雜貨運送店一、糧棧兼運送店三、雜貨店一、蔞舖一、飲食店二、客棧一、其他烟草、鮮果等の小舖十二戸あるに過ぎず。

今參考の爲め、最近に於ける物資の集散額を示せば左の如し。



種類數	高粱	包米	棉花	豆粕	皮類
量	二五、〇〇〇石	二、〇〇〇石	三〇〇、〇〇〇斤	四〇、〇〇〇枚	一五〇、〇〇〇元
種類數	大豆	小豆	梨	豆油	各種毛
量	一五、〇〇〇石	四、〇〇〇石	七〇〇、〇〇〇斤	二〇〇、〇〇〇斤	八〇、〇〇〇元
種類數	粟	米	葡萄	蓆	燒耐
量	一〇、〇〇〇石	一、〇〇〇石	二〇〇、〇〇〇斤	一五〇、〇〇〇枚	九〇〇、〇〇〇斤
種類數	蕎麥	芝麻	西瓜	草	
量	八、〇〇〇石	一、五〇〇石	二〇〇、〇〇〇個	三〇〇、〇〇〇頂	

備考、燒耐及豆油、豆粕は主として營口へ、棉花は奉天へ送らる

以上の内穀類の移出地方別及種類左の如し。

直隸方面

約十分の二

小米、包米を主とす

營口方面

約十分の五

高粱、大豆を主とす

新民屯、奉天方面

約十分の二

雜穀を主とす

又毛皮類の移出地方別及割合左の如し。

天津方面へ

約八分の三

錦縣城へ

八分の三

奉天へ

四分の一

轉じて雜貨の移入状況を見るに左の如し。

花旗布	市布	葉烟草	棉糸	紙類	洋燭	磁器
三〇〇件	一〇〇箱	二〇〇、〇〇〇斤	七〇〇捆	三〇、〇〇〇元	三〇〇個	五〇、〇〇〇元
打連布	茶葉	大尺布	燐寸	石炭	麥粉	綢緞類
三〇〇件	二五、〇〇〇斤	二〇〇件	一、二〇〇箱	一〇〇、〇〇〇斤	一〇、〇〇〇袋	一〇、〇〇〇元
坎布	蔬	市布漂	洋烟	糖類	石油	
二〇〇件	一〇、〇〇〇斤	五〇箱	四五〇箱	二、〇〇〇俵	二〇、〇〇〇箱	

八道壕支線は、八道壕炭坑の産出品を運搬の爲めに布設されたるものにして、當地と八道壕との双方より日に二回發車し、運炭の外三等客の取扱を爲し居れり。其片道に要する時間は約一時間半にして賃金は奉票七十二錢なり

(ハ)、厲家窩棚

當地は黒山を距る東方約三十支里、新立屯を距る東南六十支里、滿鐵奉天驛を距ること六十七哩にして、奉天と錦縣城との略々中間に位し、驛の設置と共に新立屯又は邊外阜新縣方面への移出入貨物の



仲繼場となり又中間の給水驛となりたるより、小驛なれども諸設備比較的完備す。

戸數約百五十、人口九百五十にして、殆ど街形を成さざれども、陸軍兵營、巡警局、京奉鐵路巡警局郵便局、小學校等あり。

商家は糧棧兼運送店及雜貨店、材木店等あるに過ぎざれども、例年穀類の收穫期に至れば、營口其他各地の糧商盛に來集し、其買收の糧穀は直に京奉線に依り各地に移出せらる。今最近一箇年間に移出する主なるものを擧ぐれば、穀類は總數約五萬餘石にして、其内譯は、高粱四分、大豆四分、小豆二分の割合なり。其他に於ては、豆油十萬斤、豆粕二千五百枚、燒酎六十萬斤、皮毛十萬斤、梨果六萬斤等にして、此等の移出品は主として營口に送らる。

移入品の主なるものは、花旗布六百件、打連布二百件、坎布二百件、大尺布二百五十件、京布三百箱、葉子烟二十萬斤、茶五萬斤、綿糸一千斤、砂糖三千二百俵、燐寸千五百箱、石油二萬箱、洋蠟二百箱、麥粉一萬袋、蔬五萬斤、各種烟草千五百箱、綢緞絹類五萬元、磁器鐵器類二十萬元にして其移入先は營口最も多く、奉天、直隸方面より來るもの之に亞ぐ。

當地に日商あり、阜新公司と云ふ。新邱炭坑を經營する大興公司の工程材料一切の取扱を專業とし、外に羽翼を伸はさるなり。當地の材木店は、木材業の外盛んに家具を製作し居れり。

(二)、高山子

當地は京奉鐵道高山子驛の所在地にして、打虎山の西南方二十支里の地點にあり。戸數約百、人口約六百を算し、鐵路巡警局、郵便局、小學校等の機關あるも未だ市街を形成するに至らず。

石灰は當地の特産にして、其質の優良を以て知られ、粘力強く風雨に遭ふも變化を生せず、永く其色彩を保つを特色とす。而して年産額は約二千五百萬斤に達す。其他高粱、大豆等の穀類あれども、其額多からざるなり。

商家の主なるものは、糧棧及雜貨舖にして穀物の年移出高は高粱四千石、大豆二千石、雜穀一千石内外なり。

民間(外に官設あり)の製造に係る石灰の移出先及其割合は、大略奉天四、黑山一・五、新民一・五、營口一、直隸地方一附近なり。

各種雜貨の移入は營口を主とし、一箇年約五萬元内外にして、當地の消費を除き他は附近村落に送らる。

工業としては、官民二種の石灰製造所の外に擧ぐべきものなし、其官設製造所は京奉鐵路工程處の管理に係るものにして、其製造品は鐵道の工事に使用し、過剰は拂下居れり。

(ホ)、白土廠門

當地は黑山縣城の北西五十五支里、阜新縣内新邱の南九十支里、柳柵に近邇し、丘陵に圍まれたる山



溝中に在りて、戸數約二百餘、人口千六百人、内商賈の大なるもの十餘戸あり、即ち左の如し。

造酒業 一 染物屋 一 旅店 二

鍛冶 一 藥店 一 小雜貨舖 六

官公衙としては邊墻守備衙門、稅局、巡警局、陸軍兵營、郵便局、高初等學校等とす。

邊門は最も新しく、光緒三十二年(明治三十九年)の新修に係り、各邊門中第一の壯觀を呈す。

商業の盛んなる時期は陰曆八月にして、蒙古人の來集するもの少なからず。毎月一、五、十の日に市を開き賣買取引を爲す。而して物資の主なるものは、附近より産する薪材及蜀黍桿の燃料にして、雜穀之に次ぐ。今當地より附近の重要地に至る距離を示せば左の如し。

至北鎮縣城 南 五〇支里 至新立屯 東北七〇支里

至黑山縣城 南東 五〇支里 至新邱 北 九〇支里

(へ) 新立屯

一、沿革及位置

當地は元一小市街に過ぎざりしが、內蒙古に通ずる一要路に當り、邊外邊裡に新に縣治を増し、奥地の開發と共に漸次繁榮を招來し、今日の隆盛を見るに至りしものにして、黑山縣城の北方九十支里、柳柵に近接せる平坦地に在り。

二、戸數及人口

戸數千八百、人口一萬四千を算し、其内商舖百二十餘、耶蘇教徒三十八戸、回々教民七十八戸あり。

三、市街の狀況

市街は周圍約十支里樹木を以て之を繞らし、中央に十字街ありて、數條の胡同は極めて不規則に之を貫通し、大賈巨商は概ね十字街の東街と南街にあり。家屋中には建築の比較的宏壯堅固にして、周圍に高さ約二十餘尺の石壁を繞らし城廓然たるもの多く、商業甚だ繁盛なり。而して毎月三、六、九の開市日には行商來集露店併列、附近の顧客雲集し雜沓を極む。其一日の賣上高は約五千元に達すと稱へらる。

四、官公衙其他の諸機關

巡警局、保甲團、稅局、郵便局、電報局、商務會、旅團司令部、陸軍兵營、高等小學校、初等小學校等あり。

五、一般産物及特産物

當地に來集する主要産物は、大豆、高粱、粟、麻其他各種の農産品にして、邊外より來るもの三分の二、附近部落よりするもの三分の一とす。外に內蒙人の持來る畜産多く、冬期に於ては三、四百支里より陸續集中す。



六、商工業

(イ) 商業。前述の如く、往時は一小市街に過ぎざりしが、漸次發達を遂げ其商業範圍益々擴張せられ商業上の勢力に於ては遂に黒山縣城を凌駕す。

此地に駐屯する軍隊の幹部は殆ど綠林の出にして、彼等は本職を措て貯財に努め、大商舖を所有し商票を發行して、市場を掌握せり。此等の關係より金融圓滑にして馬賊の危険少なく、小商舖は特種の此大商舖を背景として盛に活躍せり。其結果商業益隆盛に赴き、其範圍案外廣大なり。今其商關係を有する重要各地に至る距離を擧ぐれば左の如し。

至厲家窩棚	東南	六〇支里	至黒山	南	九〇支里
至北鎮	西南	一三〇支里	至打虎山	南	一一〇支里
至溝帮子	西	一八〇支里	至清河邊門	西	一七〇支里
至阜新	西	八〇支里	至新民屯	東	一五〇支里

當地に集散さるる穀類の年額は約十萬石にして、毛皮類亦約五萬元に達し、將來益々發展の機運に在り。

市内に於ける主なる商店は錢舖五戸、其内商票を發行するもの四戸當舖五戸、其内商票を發行するもの三戸、又雜貨舖は其組織上、上下の兩種に分れ、上雜貨舖十七戸にして綢緞、布疋、日洋雜貨、磁

器を取扱ひ、下雜貨舖は二十戸にして紙類、燐寸、砂糖、麥粉等を取扱ふ。其葯他舖四、粮棧及粮店四戸、皮舖三戸、碗舖七戸、客店四戸、料理店大小十餘戸、馬車及馱子店五戸に達し、外に美孚洋行英美烟公司、太古洋行、亞細亞公司の外國商店あり。當地に來集する上記穀類の内譯を擧ぐれば左の如し。

高粱	五萬石	大豆	二萬石	粟	一萬五千石
蕎麥	二千石	玉蜀黍	三千石	雜穀	一萬石

以上の農産物中當地にて消費さるる小部分を除き他は營口及直隸地方に移出せらる。

又棉花の來集高は、上約八萬斤、下約三萬斤にして、逐年其數を増し、主として奉天に移出せらる。轉じて毛皮類の集散情況を示せば左の如し。

春羊毛	五萬斤	錦縣城へ	秋羊毛	三萬斤	錦縣城へ
山羊毛	二萬斤	同	猪毛	五千斤	天津へ
馬鬃	千斤	同	馬毛	五百斤	錦縣城へ
羊皮	六千枚	同	牛皮	五百枚	奉天へ
狐狸皮	六千枚	奉天へ	家兔皮	四千枚	天津へ

移入諸雜貨は、主として營口より京奉線に依り厲家窩棚及打虎山に至り、同地より馬車及馱子等に依



るもの約十分の七、營口より陸路馬車或は馱子にて直接來るもの約十分の三にして、其種類を擧ぐれば左の如し。

花旗布	七十件	打連布	四十件	坎布	二十件
市布	二十件	大尺布	五十件	市布漂	十箱
棉糸	八十件	本地家棧布	二千疋	砂糖	五百俵
燐寸	五百個	洋蠟	四百箱	麥粉	三千袋
石油	八千箱	茶	八千斤	葉煙草	六萬斤

其他紙類、洋酒、鹽、曹達、石炭等の移入亦尠ならず。而して石炭は主として新邱より移入せらる。(ロ)、工業。工業の主なるものは燒鍋、油坊、染坊にして、其規模は割合に大なり。

燒鍋は二戸なるも其生産年額は九十萬斤にして、其三割は當地に於て消費し、邊外二割、營口五割の割合にて移出す。

油坊は四戸にして、小形豆粕(二十五斤もの)及大形(五十二斤もの)の二種を製造し、其年額豆粕約三萬枚、豆油約十四萬斤に達す。而して當地の消費量約四割を除くの外は主として營口に移出せらる。

七、雜件

當地は上記の如く、商界の權を握るものは大官にして商票の發行等勝手な真似を爲し居るも、最近奉

天政府に於て、奉票に統一すべく努力中なれば、少くも商票の發行杯に關する件は、今後既往の如くならざるべし。

一七、盤山縣

(イ)、雙台子

一、沿革及位置

當地は元錦州の一部にして荒蕪地なりしが、清の同治二年開放せられ、光緒三十年分立して盤山廳を置き錦州府に隸屬せり、然る民國二年廢廳置縣せらるるに及び盤山縣公署の所在地となりたるものなり。

本來此地は營口錦州間道路上の一農村に過ぎざりしが、京奉鐵道支線開通の結果雙台子驛の設置となり、爾來漸次發達して今日に至りしものなり。

二、戸數及人口

最近の調査に依れば、戸數約八百、人口約五千と稱せらる。

三、市街の狀況

市街は京奉鐵道營口支線雙台子驛の西南約半支里の地點に位し、主として雙台子河の右岸に存在するも一部は左岸にも存在す。



別に城壁もなく家屋は概ね平屋建にして規模の大なるもの少なきも、煉瓦或は石造のもの割合に多し然れども大體に於て半商半農的田舎街たる程度にあり。

四、官公衙其他の諸機關

盤山縣公署、警察所、巡警局、保衛團、監獄、稅局、郵便局、電報局、農務會、商務會、各種小學校一及市街の南端に老爺廟、娘々廟等あり、又當地には電話局ありて市内は勿論營口、溝帮子、錦州、北鎮、黑山、新立屯、新民屯、奉天等の要地に通ず。

五、一般産物及特産物

當地に集散せらるる重要物資は穀類にして、其年額を示せば次の如し。

高粱	二十萬石	大麥	四萬石	小麥	二萬石
大豆	三萬石	粟	二千石	稗	三千石
米	一千石	棉花	二百萬斤		

此外豆粕、豆油、粗製曹達等の製造品あれども其額多からず、而して當地の東北方約四十支里なる高平地方は土地一般に高く、棉花の栽培に適し夙に遼西地方に於ける著名なる産地として知らる、而して近來漸く勃興の機運にある滿洲紡績業の刺戟を受け著しく其生産を増加し尙逐年増加の趨勢にあり。

六、商工業

(イ) 商業。當地に於ける商家の主なるものを擧ぐれば左の如し。

雜貨舖	一五	油坊	二	磨坊	一五	棧店	三
粮車店	三	成衣舖	五	古着屋	二	藥舖	四
皮舖	四	磁器舖	三	寫真館	一	時計商	一
靴鞋舖	二	首飾舖	三	銀匠舖	一	鐵匠舖	
木匠舖	二	山貨舖	五	染坊	二	當舖	二
書舖	一	船店	三	澡塘	一	肉舖	七
飯店	五						

當地に於ける主なる移出品は、前記産物にして、主として營口方面に取引せらる、而して棉花は奉天に輸送せらるるもの最も多く、其他滿洲内各重要地に移出せらるるなり。又移入雜貨は營口より仰ぎ一當地住民及附近村落に於て消費せらる、木材も亦營口より移入せられ、鹽は常家屯(當地の南方約七十支里)より、葉煙草は吉林より、石灰は錦州より移入せらる。

(ロ) 工業。當地の工業としては、油坊二戸ありて一箇年の製造高は、豆粕約二萬枚(五十一斤もの)、豆油十萬斤なりとす、其他磨坊十五戸あれども各地に於けるものと等しく舊式にして特記するに足ら



ず、此外年額約三萬乃至四萬塊の粗製曹達を製出する外述ぶるに足るものなし。

一八、北鎮縣

(イ) 北鎮縣城(廣寧)

一、沿革及位置

當地は元と或は唐に屬し或は金に隸し、明代には廣寧州と稱せられたりしが、清朝康熙三年廣寧縣の設置となり、民國二年更に今の北鎮縣と改稱せられたるものなり。

地名を廣寧と稱し、錦縣城を距る東北方百六十支里、黑山縣城を距る西南六十支里に位置し、西北方は遙かに山脈連亘す。

二、戸數及人口

戸數約二千九百、人口二萬にして、内商家約二百五十餘戸を算し、以前は邦人の居住者ありしも今はなし。

三、市街の狀況

市街は堂々たる煉瓦壁を有し、方形にして周圍二十支里、明時代の築造に係り、現今は敗壞せる箇所多きも、東北西に各一門、南に大小二門あり。而して小南門以外には總て鼓樓あり、東西南街は道幅約六間内外にして、北街は稍々狭し。外廓の堂々たるに比し宏壯の家屋に乏しく古き建築物多きも、

相當繁盛なり。

市街の東北隅にある二基の白塔は唐時代の建造物と稱せられ、又西北隅の丘陵上なる娘々廟も有名な古刹なり。商家は南北二街に集中し、城の東南部には菜園多し。

四、官公衙其他の諸機關

北鎮縣公署、警察所、警察馬隊、保甲團、稅局、電報局、郵便局、商務會、勸學所、農務會、兵營、高等初等小學校、師範學校、關帝廟、財神廟、天主堂、耶穌教會堂等あり。

五、一般產物及特產物

當地に於ける產物の主なるものは大豆、高粱、包米、粟等の穀類及果實類、棉花、豆油、豆粕、燒酒等にして、其中大豆は品質優良なるを以て其名を知らる。

六、商工業

(イ)、商業。近年農額著しく増加し、農家は一般に富裕にして商業亦旺盛となれり。商舖は大小約二百五十三戸あり、内大商舖は南北二街にあり、北鼓樓附近は露店相並び、農民來市の際は必ず此處に集り頗る雜沓を極む。其他大南門内及小南門外共に頗る殷盛なり。商店の主なるものは、當舖九戸、錢舖十餘戸、雜貨舖九十戸、糧棧十餘戸、餵子舖九戸、怡和洋行代理店、美孚洋行代理店、英美烟公司代理店、德士古石油會社代理店、亞細亞公司分售店等なり。



移出品は前記産物にして、年移出額は概ね左の如し。

大豆	三萬石	高粱	一萬五千石	粟	三千石
玉蜀黍	一千石	棉花	六十萬斤	葡萄	百二十萬斤
梨	百八十萬斤				

右の内穀類は主として營口に、棉花、果實は奉天或は其以北に移出せらる。

移入品中、綿糸布、雜貨は主として營口より、葉煙草、木材等は吉林地方より、毛皮類は小庫倫より石炭は新邱より移入せらる。

鐵道の便を缺くは、此地の商業發展上甚だ不利にして、商業範圍は比較的狭く、小賣市場たるに甘んぜざるを得ざるは、當地の爲め遺憾なり。

(四)、工業。燒鍋一戸其一年の製造高は燒酒七十二萬斤にして、其内當地の消費は四分の一、他地方への移出四分の一、營口への移出四分の二の割合なり。

油坊四戸あるも總て舊式土法にして、一箇年の製造高豆粕約三萬枚、豆油二十八萬斤内外なりと。而して當地に於て豆粕三千枚、豆油十五萬斤を消費し、餘は營口に移出す。

其他染坊六戸、磨坊大小二十餘戸あるも特記に價せざるなり。

七、雜件

市街の西北方約十二支里に連亘する醫巫閭山脈は、海拔約一千呎内外にして花崗石より成り、滿山松樹を以て被はれ、風景絶佳文人墨客の最も賞遊する所たり。山麓は梨果の栽培盛にして、春期花滿開の際は一大美觀を呈し、梨畑塵の奥は知らねども見ゆる限りは白花なりけりと云へば、稍々不風流に聞ゆるも、要するに滿目荒涼の此地方に於ては、大に賞美に價するものあるなり。

(ロ)、閭陽驛

一、沿革及位置

當地は醫巫閭山脈の東南端を距る約二支里の所にあり。京奉鐵道開通前の陸路交通旺盛なりし時代にありては、京奉間に於ける有名なる驛站地として繁榮せる地にして、地名に驛の字のあるは其遺物とす。

錦縣城の東北方九十支里、北鎮縣城の北西四十五支里の地點に位置す。

二、戸數及人口

最近の調査に依れば、戸數約五百五十、人口三千七百九十を算し、内商家六十餘戸あり。

三、市街の狀況

市街は略々圓形を成し、周圍約五支里、平坦にして中央に於て東西に通する街路あり。主なる商舖は其兩側に相併列す。



市街は平常稍々寂寞の感あるも毎月開かる、二、五、八、十の市日には附近の農民行商等來集し、商  
狀活氣を呈し、人馬の來往頻繁にして般賑を極む。

四、官公衙其他の諸機關

巡警局、税局、商務會、保甲團、郵便局、高等初等小學校等あり。

五、一般産物及特産物

當地の産物及其集散年額を擧ぐれば左を如し。

高粱	一萬五千石	大豆	二萬五千石	粟	五千石
包米	二千石	雜穀	七千石	葡萄	五十萬斤
白菜	二百萬斤	大根	五百萬斤		

六、商工業

前述の如く鐵道開通前にありては、京奉間に於ける重要なる邑鎮にして、交通頻繁、商業盛んなりし  
が、現今は稍稍衰微し雜貨舖三十、當舖四、錢舖三、粮棧三、藥舖五、旅店十、飯店四及亞細亞公司  
代理店、英美煙公司代理店等其主なるものにして、一箇年の前記來集穀類中當地に於ける消費量を除  
き殘額約二萬石を營口、關裡方面(直隸の各地)に移出するに過ぎざるなり。

移入品の主なるものは、洋酒約六千元、葉煙草二萬斤、石油六百箱、茶二千五百斤、砂糖百二十俵、

麥粉八百俵、花旗布四十件、大尺布三十件、食鹽五萬斤、石炭十萬斤等にして、營口より來るもの多し

當地の工業は舊式土法にして、其製品は附近村落の需用を除き餘は營口に移出す。其種類等次の如し

- 燒鍋一戸 一箇年の製造高七十萬斤
- 油坊二戸 一箇年の製造高豆粕一萬六千枚、豆油八萬斤
- 染坊三戸 全く小規模の紺屋にして云ふに足らず

(ハ)、溝帮子

一、沿革及位置

當地は元と寂寥たる一部落に過ぎざりしが、京奉鐵道の開通せらるるや重要驛の所在地となり、漸次  
發達を遂げ今日に至れるものにして、北鎮の南方五十支里、京奉線營口支線の分岐點に位す。

二、戸數及人口

戸數約七百五十、人口五千八百を算し、内商家百三十戸あり。

此地には古くより邦人の居住者ありしが、本春大部退去し、目下只一人のみ。

三、市街の狀況

市街は南北に長く、周圍約五支里あり。土地低窪にして雨期に至れば道路泥濘膝を沒し通行困難なり  
北半部は街路狹隘にして、縱横に四箇の衢衢(小路)あり。此附近を最も商業の盛なる地區とす。又驛



には機關庫及修理工場等ありて、一見旅客をして重要驛たるを思はしむるものあるなり。

四、官公衙其他の諸機關

巡警局、鹽務局、稅局、郵便局、保甲團、商務會、稅關、京奉鐵路警察署、高等及初等小學校、耶蘇教會堂等あり。

五、一般產物及特產物

產物の主なるものは高粱、大豆、粟、包米、雜穀等の穀類及棉花、果實類、野菜等にして、外に重要と云ふにあらざるも燻鶏(くすべ焼の鶏)の名產地として鐵道旅客に其名を知らるる一品あり。

六、商工業

(イ)、商業。當地は交通至便なるが爲め商旅の來往繁く、又北鎮縣城及附近產物の此地に集まりたる後鐵道に依り主として營口に移出せられ、且つ北鎮及邊外に向ふ雜貨も當地を経由するもの多し、從て其商業範圍も比較的廣く取引も自然活氣を呈す。今商鋪の主なる者を擧ぐれば次の如し。

當鋪三、錢鋪五、雜貨鋪三十、粮棧四、運送店七、葯鋪三、客店八、飯店十三、美孚洋行石油分售店亞細亞石油公司分售店、英美煙公司代理店。

因に最近當驛より發送せる重要貨物の年額左の如し。

大豆	三萬石	高粱	二萬四千石	小米	一萬二千石
----	-----	----	-------	----	-------

包米	五千石	粟	六千石	小豆	三千石
梨	二百萬斤	葡萄	十六萬斤	野菜	七百萬斤
棉花	八十萬斤	燒酒	八十萬斤	豆油	二十五萬斤
豆粕	三萬九千枚	毛皮類	十萬元		

右の内穀類、燒酒、豆油、豆粕、毛皮類は主として營口に、棉花は奉天に、果實類は營口、奉天及其以北に移出せらる。

又當驛到着重要貨物の年額次の如し。

花旗布	五百件	其他布類	六百箱	綿糸	五百捆
砂糖	三千俵	燐寸	二千箱	石油	二萬八千箱
麥粉	二萬五千袋	葉烟草	十萬斤	茶	二萬八千斤
麻	二萬六千斤	卷烟草	千箱	藍靛	二萬六千斤
石炭	二百噸	綢緞類	三十萬元		

而して其仕入先は葉煙草は吉林方面より、卷煙草は奉天よりする外は概して營口或は關裡(天津地方)方面より移入せらるるもの多し。

當地と密接なる關係を有する重要各地に至る距離左の如し。



北鎮縣城へ	北	五十支里	閭陽驛へ	南西	十八支里
黑山縣城へ	東北	九十支里	阜新縣城へ	北	百七十支里
營口へ	南東	百九十支里	錦縣城へ	西南	百三十支里
奉天へ	東	三百六十支里			

(己)、工業。油坊四戸、燒鍋二戸其他染坊、木鋪、磨坊等あるも、舊式且つ規模小にして言ふに足らず只燒鍋のみは稍々大にして二戸併せて年額約百萬斤の燒酒を製出するも、土地にて消費され移出の能力なし

一九、義縣

(イ)、義縣城

一、沿革及位置

義縣城は明時代の建設に係り、錦縣城の正北九十支里、大凌河の右岸にあり。而して北と西には各約十支里を距て、山嶺を負ひ、東南は起伏せる丘陵に圍まれる盆地の中央に位し、錦朝鐵道義縣驛の西北七支里に存在す。

二、戸數及人口

戸數約三千二百(新舊兩街併せて)、人口二萬一千八百を有し、商家約四百を算す。

三、市街の狀況

市街は高さ十五米突、基礎十米、壁頂七米、周圍十二支里なる方形城廓を以て圍繞せられ、東西南北の四門を有す。城門は南門を除くの外は概ね頽廢し、城壁も亦崩壞せる所少なからず。市街の中央に鐘樓あり、街衢の主なるものは、鐘樓を中心とする東街南街西街及北街の四大街とす、路幅廣く幅十五間、東街最も繁華にして大商賈多く、食料品及日用雜貨品等の露店相並び最も熱鬧を極む。而して鐘樓附近に於ては、每朝穀物及毛皮類の取引市場開かる。市街の西南隅に大塔ありて高さ約十三丈、又東街の路北に大佛寺ありて、寺内に安置する大佛は高さ六丈に達し、其掌上に於て四名が輪座し歌留多遊び出來ると稱せらる、何れも遼代の建設にして我國なれば國寶の扱を受くべきものなり。又城外には南關に十餘戸、東關に數戸の商舖及燒鍋、西關に土器製造所數戸存在し、尙ほ北關には橋梁公所あり。

西南七支里の新市街即ち驛所在地は、現下約五十の商家(油坊)に過ぎざれども日に増加しつつあるなり。

四、官公衙其他の諸機關

義縣公署、警察所、保衛團、稅局、常關稅分局、郵便局、電報局、商務會、地方收捐處、農會、教育公所、監獄、橋梁公所、兵營、師範學校。女子師範學校、高等小學校、男子小學校、女子小學校、驛



及鐵道巡警局等なり。

五、一般產物及特產物

特產物としては棉花、葉煙草、五色石(凌川石)あり、其他穀類、毛皮類等の產出少なからず。

六、商工業

(イ)、商業。由來當地は殷富を以て知られ、其商業範圍は遠く邊外數百支里に及びしも、邊外地方の開拓進むに従ひ、該地方の消費者は附近市場に於て物品を購入し、商人は直接營口其他の大市場より仕入るるに至りたる結果、當地の商業範圍は漸次邊外各市場に蠶食せらるるに至れり。加之北清事變以降、年々引續き馬賊の襲撃を受けたると、光緒三十一年以來旗地に對する土地抵當の永續を許さず其買収を強制せられたるとに依り、農民は遽に窮地に陥り、著しく購買力を減少したるを以て城内商賈の破産閉店するもの多く、十數年前に比し半數を減するに至りたるも、錦朝鐵道の開通に依り、頽勢挽回の曙光を放ちつつあるなり。近來穀類及毛皮類の集散漸増の形勢にある如き即ち其一端に外ならざるなり。

當地の商店は既記の如く大小約四百にして、其主なるものを擧ぐれば左の如し。

燒鍋	種類	戸	數	種類	戸	數	種類	戸	數
	雜行		四五	生皮鋪		一一	熟皮鋪		一〇

油坊	三	毡毯鋪	三	客棧	(大小)一八	飯店	四〇
當舖	一五	錢鋪	三〇	雜貨鋪	八〇		
藥舖	二五	糧店	一五	香行	七		
貨局	六	糧行	七〇	課鋪	二六		

當地には獨立せる外國商店なく悉く代理店なるが、此等を列擧すれば次の如し。

- 美孚洋行代理店(米商スタンダード石油會社)
- 亞細亞公司代理店(英商亞細亞公司)
- 太古洋行代理店(英商上海太古洋行)
- 英米煙公司代理店(英米トラスト煙草會社)
- 怡和洋行代理店
- 勝家公司代理店
- 花旗公司出張所
- 德上古煤油公司代理店

移出品

(一)、農產物。當地に集散する穀物の産地は邊外四分の三、附近四分の一の割合にて、邊外品中には、蒙古人の齎し來るもの少からず、其徑路は主として小庫倫街道にして、冬季大車に積載し來るものなり。此内地方消費約二萬石、移出七萬石にして高粱其半を占め、錦縣城及西海口を経て直隸及山東地方に移出せらるるもの多し。



(二)、毛皮類。獸毛類の集散する種類及年額左の如し。

種類年額	種類年額	種類年額	種類年額
春羊毛 四、〇〇〇斤	秋羊毛 二、〇〇〇斤	山羊毛 三、〇〇〇斤	山羊絨 二、〇〇〇斤
豚毛 一五、〇〇〇斤	馬尾 二、〇〇〇斤		

獸皮類の最近年の集散平均年額は大概四萬枚にして、其種類及數量を示せば左の如し。

種類數	種類數	種類數	種類數	種類數	種類數	種類數	種類數
羔子皮 三、〇〇〇枚	次羔子皮 二、五〇〇枚	綿羊皮 三、〇〇〇枚	狗皮 五、〇〇〇枚	山羊皮 八、〇〇〇枚	大牛皮 三、〇〇〇枚	小牛皮 三、〇〇〇枚	胎牛皮 一、〇〇〇枚
狐狸皮 四〇〇枚	狼皮 一〇〇枚	貓皮 二、五〇〇枚	馬皮 二、五〇〇枚	驢皮 三、〇〇〇枚			

移入品

移入品の徑路は之を二大別することを得。

- 一、西海口より錦縣城を經由して移入せらるるもの
- 二、奉天營口より汽車にて直接又は石山站に到り、馬車に轉載して移入せらるるもの

右の内前者に依るものは、一般雜貨、鐵器、食鹽、石炭等にして、後者に依るものは、布疋、綿絲及滿洲土産品なり。而して移入品の大部は當地を中繼市場として、再び北方各地に移出せらるるもの大部を占む。其再移出の品目は、綿布、綿絲、砂糖、燐寸、洋蠟、藍靛、麥粉、石油、紙、茶、葉烟草、麻、面城、鹽、石炭、小麥等なりとす。

(ロ)、工業。燒酒及豆油、豆粕等の製造を主とし、燒鍋三戸(兼業)、油坊五戸(全上)なれども、油坊中の二戸は舊式なり。前者の製造年額は約五十萬斤、使用高粱一千六百石にして後者の其れは、豆粕約五十萬枚、豆油約二百五十萬斤なりと。

(ロ)、清河邊門

一、位置

當地は義縣城を距る北五十支里、柳條邊門に接し、清河邊門或は清河門鎮と稱す。

二、戸數及人口

門外戸數百九十、人口千三百、門内七百四十戸、五千二百人と稱せらる

三、市街の狀況

市街は清河(平水時に於ける幅十米突、水深十珊知)の兩岸に沿ひて街衢を形成し、右岸には二、三の雜貨店の外農家約四十戸あるのみ。左岸は防禦衙門即ち邊門を界とし、門外は阜新縣に屬し、門裡は義



縣に隸し各行政上の系統を異にす。邊門は高さ二丈餘の煉瓦壁にして、東西清河に至る中間に内外に通ずる一門を設け、防禦兵三十名(義縣警察)を以て守備に充て、日出日没毎に開閉す。

門内は門外に比し人家稠密にして商賈多し、然れども其規模の大は遙に門外に及ばざるなり

四、官公衙其他の諸機關

直隸巡防隊兵營、阜新縣巡警局、阜新縣常關稅分局、阜新縣稅捐總局、阜新縣商務分會(以上門外)。兵營、義縣巡警局、保衛團、義縣稅局、義縣常關稅分局、全地方自治收捐處、全郵便局、全商務分會、高等國民小學校、國民學校、蟲王廟、龍王廟、財神廟、天主教堂、福音堂、清真寺(以上門内)

五、一般產物及特產物

高粱、大豆、粟等の穀類及牛馬、毛皮類、曹達等を主とす。

六、商工業

(イ)、商業。當地の商取引は比較的古き歴史を有し、阜新縣東南部に於ける雜穀の集散地、雜貨の供給地として重きを爲したるも、近時新立屯の發達旺盛なる爲め、阜新縣管内の物資は同地に吸收せられ漸次衰運に傾きつつありたるが、偶々錦朝鐵道の開通を見たるより、恢復の象徴を呈しつつあるなり。

當地に於ける主なる商店を擧ぐれば次の如し。

門外。燒鍋一、酒局一、粮商九、雜貨舖十二、藥舖三、飲食店三、馬車店五。

門内。雜貨舖十六、藥舖二、磁器商四、皮毛商三、粮棧四、饅子店六、粮店六、黑皮商四、錢舖四、

馬車店五、料理店四。

次に物資の集散狀況に就き一言せん。

(一)、移出。移出品の主なるものは穀類、牛馬毛皮類、曹達等にして、穀類は石山站に出て主として直隸に、牛馬毛皮及曹達は主として義、錦地方に移出さる。而して阜新縣產其大部を占む。

(二)、移入。移入品中營口より來るものは從來石山驛より馬車或は馱子に依り運搬せられしが、錦朝鐵道開通後は大部鐵道輸送に變りたり。而して其主なるものは布疋、砂糖、石油、燐寸、紙、卷煙草類にして、義、錦地方より來るものは、陶磁器、茶、靴、藥品等にして、天津北京及海路西海口を経て芝罘地方より來るものとす。

(三)、農產物。一箇年に來集する農產物の概況左の如し。

高粱二萬石、大豆四千石、蕎麥二千石、小麥五百石、粟三千五百石、雜穀四千石

此外當地を通過して義、錦兩縣地方に移出せらるるもの約十萬石なりと云ふ。

(四)、家畜。一箇年の賣買數を門内稅局の徵稅額より推定すれば左の如し。

牛千頭、騾六千頭、驢千八百頭、羊千頭、豚三萬頭、馬四千頭



(五) 皮毛類。一箇年の集散額左の如し。

春毛七萬斤、秋毛四萬五千斤、羊絨二千五百斤、山羊毛一千五百斤、羊皮一萬枚、牛皮二千枚、貓皮二千枚、狗皮二萬枚、雜二千枚、

(ロ) 工業。工業に就ては特に記する程度のものなし。

(ハ) 九關台門

九關台門は義縣城の西方六十支里に位せる部落にして、戸數百、人口五百を算し、西南に小河流れ、東北方に小丘陵の連るを視る。

義縣城より朝陽に通ずる道路に沿ひて部落を形成し、北端に不完全ながら邊門を存す、邊墻は壊敗して殘跡を留めざるも、邊門内の東側に防禦衙門ありて、駐留巡警其監視に任す。又防禦衙門と相對し税局あり。又郵便局及小學校あり、然れども商家としては小雜貨舖一、旅店二あるのみ。

邊外より來る物資は羊皮、豚、羊を主とし、邊外に出づる主なるものは燐寸、石油、紙等なれども、皮類の如きも其負數は一箇年僅に二千枚、豚羊も約五百頭に過ぎず。以て其程度を窺ふべし。

大凌河の結氷期には義、錦地方より朝陽方面に赴くもの多く、從て人馬の通行稍々盛なれども、解氷後は甚た寂寥なるを常とす。然るに遠からず錦朝鐵道の全通を見るべきを以て今後は更に其度を加ふべし。

(ニ) 沈家臺

義縣城の西南方に位置し、錦縣城の西北方八十支里、朝陽街道上に在りて、戸數約百、人口約一千を算し、内商家約二十餘(燒鍋半班一)を有し、巡警局、税局、郵便局、商務會、小學校等あり。

戸數は前記の如く僅に百に過ぎざるも、本街道上に於ては繁華なる邑鎮の一にして、毎月一、四、七の日には開市あり。當日は附近村落より來集するもの多く、雜沓するを常とす。

産物は高粱、大豆、粟、麻、棉花等の農産品にして、主として錦縣城方面に輸送せらる。

二〇、興城縣

(イ) 興城縣城

一、沿革及位置

興城は寧遠又は柳城とも稱し、明時代より其名を知られ、清朝康熙二年寧遠州と稱せられたり、其後幾多の變遷を経て民國二年興城縣と改稱せられ、縣政治の中心地となり以て今日に及べり。

錦縣城の西南百十支里、綏中の東北八十支里に位する京奉線の重要驛所在地たり。

二、戸數及人口

戸數二千八百、人口二萬餘を算す。

三、市街の狀況



市街は寧遠河の右岸に接し、渤海の岸を距ること三十支里にありて、四面煉瓦造の城壁を以て繞らされ、其高さ約三丈にして四門を有す。周圍約十五支里、中央に鐘樓あり。京奉線は城の北壁に沿ふて走り、停車場は西北城角外にありて城に至る約三支里なり。

市街は概して清潔にして城の内外に存在するも、城外は住宅及農家にして商家なく商區は城内なり。而して其最も殷賑なるは南街及西街なりとす。又城内と雖も衢衢内は官公衙、學校及住宅區域にして殆ど商家なし。尙ほ城廓に沿ふて菜園多し

四、官公衙其他の諸機關

興城縣公署、警察所、兵營、儒學所、稅局、牛馬稅局、女子師範學校、高等小學校、初等小學校、教育會、郵便局、鹽務局、銀行、教會堂二(一は支人一は英人經營す)等あり。

五、一般產物及特產物

棉花、藍靛、野菜等多く、其他豆粕、燒酒及蜀黍、大豆、粟、雜穀等あれども、主として地方の需用を充すに止まり、移出能力少なし。

六、商工業

(イ)、商業。當地の發達は政治上に基因す。北に首山、窟隆山の關門あり、東は近く海に濱し、地形頗る要害にして邊防上山海關の前衛として古來著名の地なり。然れども經濟上より見れば東に釣魚台の

海口を有すれども、錦縣城及山海關の市場を距ること遠からざるを以て、其商業範圍は甚だ狭小にして、僅に附近及西北江家屯、新台子、六家子等百支里内外を出づる能はず。殊に鐵道開通の結果、各驛所在地は直接物資の集散を掌握するに至りしより、移出入共に従前に比し大に減退せり。

今移出品の主なるものの數量を示せば次の如し。

蜀黍二萬石、大豆一萬五千石、粟一萬石、雜穀一萬石。

而して此等の大半は鐵道により關内即ち直隸方面に移出せられ、其他は陸路、水路によりて各地に搬出せらる。

移入品中、煙草、麻、綿布、木材、石材等は營口方面より、雜貨は南支より、主として鐵道により搬入せらる。

當地には毎日開市ありて肉類、野菜、果物類等賣買せられ雜沓す。

商舖は其數約二百餘戸あり、其主なるもの左の如し。

船店二、錢舖四、糧棧二十(内油坊を兼ねたるもの四あり)、質屋二、燒鍋二、雜貨舖十、洋貨舖二

十、美孚油公司支店(外國商店)一。

(ロ)、工業。工業を以て目すべきは油坊、燒鍋、織布の三者なるが、其概況左の如し。

油坊四戸あり、各戸とも一班を有し、其製出五槩即ち五十二斤もの三十枚にして、一日の總生産量百



二十枚、一箇年の總製造額約二萬二千枚なりとす。而して一班には碾子一、搾子二にして人夫四人、驢馬四頭を備ふ。

燒鍋は二戸にして、一戸一日の燒酎製造高は約三百二十斤、年總製造高二十萬斤内外なり。

織布業を營むもの城内外に二十餘戸あれども、何れも職工三名を越ざる小規模のものにして、僅に土地の需用を充たすに止まり問題とならざるなり。

### 七、雜件

當地の東南に温泉寺と稱する一寺廟あり、寺内に温泉湧出し、透明無臭且つ鹽分の含有なく、皮膚病に功能ありと稱せらる。外にも尙ほ略は同様の温泉二、三あり。

### (ロ)、七里坡

錦州方面より山海關を経て北京に通ずる大街道上、興城縣城を距る西南二十支里に位し、戸數約二百人口千二百を算す。

其名の如く五、六支里にも亘る長き部落にして、多少街形を成し、巡警局、小學校等あり。

産物は一般農産品の外、土地砂質なるを以て棉花及果實(梨、葡萄等)等の栽培に適し、多からざれども其等の産出あり。

當地の西方約二十五支里に夾山と稱する礦山ありて、金銀銅を産し、慾深の邦人中視察にテクツキし

もの數人ありと、而して此地より該山を望見することを得。

### (ハ)、沙後所

甯遠より綏中に至る路上約三十支里の地點に位置したる一小市街地にして、戸數約七百、人口五千を算し、巡警局、初等小學校、郵便局、税局等あり。

奇數日には開市ありて商狀大に活氣を呈す。當地は東に興城縣、西に綏中縣ありて、其商業範圍甚しく狭小なれども、京奉線の停車場ありて、貨客の集散稍々見る可きものあり。

### (ニ)、梨樹溝門

綏中の西北約九十支里、白石嘴門の東北十支里の地にあり。大道に沿ふて稍々街形を成し、戸數百三十、人口八百餘を算し、布疋舖、雜貨舖等商家約十戸あり。尙ほ邊墻外に燒鍋二あり。又巡警局、税局、小學校等あれども、住民の大部は滿洲人にして殆ど農を業とし傍ら木材を製出す。

邊門は僅に殘基を存し部落の中央にあり。又部落の北端に防禦衙門ありしも今は廢屋たり。此地は清朝時代防禦官の駐在ありし等相當幅を利かせたる所なるも、鐵道の開通となり、電信電話の通信となり、辮髮が角刈となり、支那服が「フロック」背廣となり、マツタク君主專政が共和民政となりたる今日となりては、歴史的舊跡地たるの外に特記すべき價值なきに至りしは、榮枯盛衰は常ながら、此地の爲めに同情の外なし。



## (ホ)、新台子門

新台子門は梨樹溝門の東北方十支里にあり。搭子溝河に沿ひたる部落にして、稍々街形を成し搭子溝河は部落の南方を流る。

戸數約三百、人口二千五百、内商家六十あり。其主なるものは雜貨舖三十、旅店四、當舖一、燒鍋三なりとす。

此地の西端に邊門の殘基あり、其傍に防禦衙門あれども今は廢家たり、然れども此等に代り巡警局、郵便局、税局、小學校等の機關あり。

集散物資は、邊外より來るものは蜀黍、粟、黒大豆、胡麻、普通大豆、雜穀を主とし外に牛羊豚等の家畜あり。又邊外に送らる、ものは、綿布、綿糸布、石油等の各種雜貨にして、往時の如くならざれども、今も邊境に於ける一市場たるを失はざるなり。

## (ヘ)、白石嘴門

當地は綏中の東北百十支里にあり。附近に柳河の流る、あり、其河岸に白石壘々たる丘陵あるを以て此名あり。部落は梨樹溝門に通ずる大道の兩側にありて戸數約二百、人口千三百を算するも、殆ど全部農家にして、商家は僅に小雜貨舖等三、四を數ふるのみ。

邊門は部落の北方約十支里にありしも、先年柳河の氾濫により破壊せられ、今は一礎石を殘すのみなり。巡警局などあるも要するに、清朝時代の遺跡地にして、衰退凋落何等前途なき所たり。

## 二二、綏中縣

## (イ)、綏中縣城(中後所)

## 一、沿革及位置

綏中は地名を中後所と云ふ。明、清時代には甯遠州に屬し、康熙三年中後所巡檢と改稱せられしが、乾隆四年州判を置き、光緒二十八年に至り寧遠州六股河以西の地を割きて、新に獨立縣を置く事となるや綏中は其縣公署の所在地となりたり。

當地は山海關の東百三十支里、京奉線の線北三支里、興城驛より西八十餘支里にあり。

## 二、戸數及人口

戸數二千五百、人口一萬八千内外と稱せられ、直隸山東方面の者多數を占む。

## 三、市街の状況

市街は建設古く、唐末の築造に係り、現在は大破の箇所多きも城は周圍約五支里に達し、東西南の三門あり。城内には縣公署及其附屬官署並に約七百の戸數あるも主として旗人の住家にして商舖は僅に二十戸内外に過ぎずして寂寥を感ず。

南門外は最も繁盛なる中樞地にして、東西に通ずる大街は延長約四支里に達し、大小の店舖此兩側に



麿集し、人烟稠密加ふるに露店も相連接し、人馬の往來織るが如し。是れ凌源、建平、平泉の諸縣及藥王廟よりする物資の集散並に此等各縣に移入せらるる貨物の集積地たるに依るものにして、邊外の發達と共に當地は益々繁榮に向ひつつあるが如し。

四、官公衙其他の諸機關

綏中縣公署、警察所、郵便局、旅團司令部、陸軍歩騎砲の各兵營、保衛團、教育公所、稅捐局、鹽務局、漁業公司分局、教育會、東三省陸地測量隊弁處、師範學校、高初等小學校、女子高初等小學校、回教寺、天主教堂、耶穌教堂、廟宇等あり。

五、一般產物及特產物

豆粕、豆油、燒酎等の產物あり。又特產物に木炭、梨類、棉花、鹽等あり、今左に其概要を記さん。木炭の產地は中後所の北方八十支里、葛家屯一帶にして、此地の山林は雜木密生し、其質木炭に適し村民は殆ど炭燒に従事す。而して一箇年の產額は約七、八十萬斤に達すと稱せらる。梨の產額は他縣に冠絶す。即ち城の西北方の鄉鎮の如き各戸梨樹を植るざるなく、果樹を專業とするもの多し。從て其平均年產額は五十萬斤を下らざるなり。

棉花は當地の東北一帶即ち寬邦及大路溝地方に産し、其品質は他縣産に比し稍々劣等なれども、其年產額は二十萬斤に達す。

鹽田は常山寺海濱一帶にありて、製鹽家五戸十三灘あり。其年產額は三千石内外なりと。

其他蜀黍、粟、雜穀等あれども、其數量多からず、當地の需要を充すに過ぎざるなり。

六、商工業

(イ)、商業。興城及錦西に比し一見活氣を帯び、發展の餘地あるが如し。城内外を通じ商鋪二百八十餘あり。今其營業別を示せば左の如し。

質屋	三	京貨鋪	三	藥屋	一〇	裁縫屋	一〇
磨坊	二〇	山貨鋪	二	柳罐鋪	二	湯屋	二
雜貨店	一〇〇	木匠鋪	一〇	書鋪	二	燒鍋	八
洋貨鋪	五	紙屋	三	靴烏拉鋪	五	棧店	三
靴屋	五	篩屋	三	糧車店	一五	鑄物屋	二
銀細工屋	五	皮鋪	一〇	毡帽鋪	三	餵蠟鋪	三
鍛冶屋	一〇	鏡子屋	三	古着屋	三	簞鋪	一
染物屋	五	飯屋	一〇	旅店	五	寫真屋	二
磁器鋪	二	油坊	七	票莊	一	時計修屋	二



瓦盆密	二
-----	---

前記諸商店に依り取扱はるる移入品の主なるものを見るに左の如し。

種 類 數	種 類 數	種 類 數	種 類 數	種 類 數	種 類 數	種 類 數	種 類 數
花旗布	花旗布	坎布	市布	打連布	石油	海光紙	棉糸
五〇件	四〇件	四〇〇件	三〇〇件	四〇〇件	三、〇〇〇箱	二五、〇〇〇塊	三〇〇件
麥粉	燐寸	英美公	司紙烟	司紙烟	南公	司紙烟	司紙烟
四〇、〇〇〇袋	五、〇〇〇箱	二〇〇箱	三〇箱	三〇箱	三〇箱	三〇箱	三〇箱

此等移入貨物は、雷に縣下のみならず遠く建平大城子地方に分布せらる。次に移出品の模様を見るに左の如し。

種 類 數	種 類 數	種 類 數	種 類 數	種 類 數	種 類 數	種 類 數	種 類 數
豆粕	豆油	燒酒	梨	棉花	豚毛	豚鬃	棉花
八〇、〇〇〇枚	一五、〇〇〇斤	八、〇〇〇斤	五〇、〇〇〇斤	一六、〇〇〇斤	二〇、〇〇〇斤	二、〇〇〇斤	一六、〇〇〇斤

轉じて移出の徑路を観察するに、鐵路に依るものも少からざれども大部は東方四十支里なる海岸に存在する常山寺を介し、海運に依り芝罘、營口、天津、龍口との間に需給の關係あるもの甚た多し。

此地に牛馬市あり、毎月偶數日に開かれ當日は、他の日に比し雜沓の度を加ふ。

以上の如く比較的商業繁盛の地なるも、一方金融機關としては、怪し氣なる銀行と三戸の質店あるに過ぎず。爲めに大なる商家は他方に於て、金融機關的業務をも兼營す。

(ロ)、工業。燒鍋八戸ありて各戸共に一班の設備を有し、一戸一日の造酒高は三百五十斤内外なり。油坊は七戸を算するも、何れも規模大ならずして一戸一年の製造高は、豆粕二萬枚(一枚五十二斤物)、豆油十萬斤内外とす。而して價格の關係上燃料は何れも石炭を使用す。

(ロ) 前衛

綏中縣城の西方四十五支里、京奉線の一驛にして小市街を形成す。市街は京奉線に沿ひ、周圍約五支里の土壁を繞らし、戸數約三百餘、人口二千餘を有す。附近物資の小集散地にして、商家約二十戸あり。毎月二の日に開市せられ、梨、木炭、高粱等の取引少からず。驛の西北五十支里に將軍石山あり、古くより明代の古蹟として知らる。

(ハ) 中前衛

山海關の東方約四十支里、京奉線に沿ひ、周圍約三支里なる煉瓦造の城壁あり。中前衛は明の宣德年間に設置せられたるものなり。清代には駐防に改められ、關外の重鎮として稍々著名なりしも、現今は戸數約二百、人口一千二百、内商家五、六戸あるのみにして、商況不振、村落の稍々大なるものに



過ぎざるなり。

(二) 明水塘邊門

山海關を距る北方約十四支里、西は燕羅山東は張飛嶺に挟まれ、溝河の山流凹谷に位せる部落にして、戸數約六十、人口四百餘に過ぎず。住民の過半は邊門守備兵の家族にして、滿洲人なるを一種の異點とす。

村内には商戸として菓子舗及小雜貨商二戸あるのみ、旅店は元と一戸ありしも今は閉店してこれすらなし。

村落の西端に邊門守備の滿洲八旗防禦の官宅ありて、部下旗兵四十名あれども、現今は何れも歸農し、普通農民と區別し難し。

部落の中央に税局ありて通過税を徴す、其税目は家畜、梨及雜貨にして、此内梨は最も多く、雜貨は昔時邊外との交通多かりし時代は多額に上りしも京奉鐵道開通後は此地を經過するもの稀となり、今や全く云ふに足らず。

此地を經過して邊外に出づる主なるものは、赤糖、石油、紙類、綿布等にして邊外より來るものは、梨其他の菓物類を主とす。

元來一少部落なるを以て、商業上交通上共に何等出色の點なく、只從來邊牆の門口たるに依り其名を

知られしに過ぎず。然るに其邊門も今は僅に門趾を留め、邊牆も亦所々に其殘墟を見るに止まる有様

なれば、現今にては一個の歴史的遺物たるの外價値の認むべきなし。

當地の産物と稱すべきは梨にして、其年産額約七萬斤に達す。

二二、錦西縣

(イ) 錦西縣城(江家屯)

一、沿革及位置

當地は元と錦州の一部にして一寒村に過ぎざりしが、農民の移住逐次増加し開墾大に進み且つ沙鍋屯炭坑の開掘、通裕鐵道の布設、暖池塘炭坑の開掘等に因り漸次發達し來りしを以て、光緒三十年(明治三十七年)遂に錦西廳の設置を見、民國二年更に錦西縣と改稱せられたるものなり。

俗に江家屯と稱し、錦州の西方百支里、興城の東北八十支里に位し、女兒河に瀕す。

二、戸數及人口

戸數約一千、人口五千八百を算し、内商戸百八十あり。

三、市街の状況

市街は楊樹林に圍まれ城壁なきも、東西南北の四門を有す。主なる街衢は東西に通ずる一條街にして延長約三支里、商家相櫛比し街上平坦にして、北に女兒河の水流を望み、南に鳳凰山と稱する丘陵あり。



り。而して其項に砲台を築き市街の防禦に備ふ。毎月三、六、九の日に開市あり、當日は四圍の部落より人馬群集し、商業殷賑を極むるも、平日は比較的閑散なり。

四、官公衙其他の諸機關

錦西縣公署、警察所、兵營、稅局、教育會、郵便局、農務會、高初等小學校、女子小學校、勸學所、廟等あり。

五、一般產物及特產物

穀類、棉花、果實類、豆素麵等にして、其内棉花は夙に全滿に其名を知らる。

六、商工業

商賈は百八十戸にして其内主なるもの次の如し。

- 雜貨店 十一、 洋貨店 二、 木局 二、 筆店 一、 藥局 三、
- 布疋店 四、 靴屋 一、 當舖 二、 飯莊 一、 燒鍋 一、
- 客棧 一、 外に飯店にして客棧を兼業するもの十三。
- 移入雜貨は錦縣城よりするもの約四分、營口より水路(西海口經由)にて三分、同鐵道に依るもの三分(鐵道に依るものは錦縣驛より馱子「馱鞍」を利用す)の割合にして其重なるもの左の如し。
- 海紙 五千塊、 麥粉 一万五千袋、 石油 一万八千箱

- 燐寸 千五百箱、 砂糖 七百俵、 花旗布 二百七十件
- 打連布 二百件、 坎布 二百二十件、 市布 百五十件
- 棉糸 二百五十件、 英美烟公司卷煙草 百箱、 南洋烟公司卷煙草 五十箱

而して移入品の約四分は邊外に再移出せらる。又農産物の集散を見れば左の如し。

種類	來集額	移出額	仕向地別
棉花	一、〇〇、〇〇〇斤	九八〇、〇〇〇斤	奉天
粟	六、〇〇〇石	四、五〇〇石	錦縣城二、〇〇〇石、天津二、五〇〇石
小麦	二、〇〇〇石	—	當地消費
豆粕	六、七〇〇枚	六、七〇〇枚	營口
梨、桃、杏	六〇〇、〇〇〇斤	五四〇、〇〇〇斤	奉天五分、營口三分、錦縣城二分

邊外より來る家畜の員數は大約一箇年馬四千五百頭、騾馬五千五百頭、驢六千頭、牛二千五頭、羊二万四千頭なり。

又毛皮類には羊毛三十三万斤、猪毛八千斤、皮類一万枚(羊皮、牛皮、狗皮、猫皮、山羊皮等)等あり



て主として錦縣城及營口方面に移出せらる。市内に粉條子を製造するもの一戸あり。外に附近部落に於ける農家中粉坊を兼業とするもの十五六家あり。各一戸の年生産額は約三万斤にして、其約十分の二は土地に於て消費され、殘餘は附近の各縣へ移出せらる。

(ロ)、虹螺硯鏡

當地は紅羅縣或は虹螺集とも稱せられ、古來より其名を知られたる地にして、錦西縣(江家屯)を距る東方四十五支里にあり。戸數約七百七十、人口四千六百を算し巡警局、税局、郵便局、小學校等の機關あり。

商業は江家屯に比し稍々劣るも、縣下に於ける大集散市場にして、單に棉花の年集散額のみにてても、二十万斤内外と稱せらる。又桃杏梨の有名なる産地にして、其年産額は八十万斤乃至百万斤に達すと云ふ。

此外當地は著名なる家畜の集散地にして、遼河以東の地方中此地より騾驢の供給を仰ぐもの少しとせず。

往時は毎年舊曆八月下旬蒙古地方より群集し、各地畜産商の多くは此地に來り取引頗る盛大なりしが光緒の中年より清の國政紊亂し、馬賊の横行甚だしく其被害頻々たりしより漸次衰微し、現今にては

其來集範圍頗る狭く百支里内外に過ぎずして、往時に比すれば約一割にも達せざるなり。今最近の集散員數を擧ぐれば大略次の如し。

馬 四千五百頭、 騾 五千五百頭、 驢 六千頭  
牛 二千五百頭、 羊 一万二千頭、

毛皮類も毎月二、五、八の日に開市あり。當日に於ける取引數量は時により同一ならざるも概數左の如し。

羊皮 四百枚、 羊毛 二千斤、 牛皮 百枚  
狗皮 四百枚、 猾子 二百五十枚、 猫皮 百五十枚  
猪毛 五百斤、 山羊皮 五百枚、 雜皮 五十枚

(ハ)、松嶺子門

松嶺子門は錦西縣城を距る東北約八十支里に位し、西は小凌河に臨み、東南は少丘陵を以て圍まれ、北は義縣と境を接する一部落にして、東西二支里半南北十四支里に亘り、戸數約百六十、人口約九百を算す。然れども強て街形を成すと云へば云はるべきは東西一條の道路に沿ふたる部分のみにして、露骨に云へば少し氣の利いたる農村に過ぎざるなり。

部落の西端小凌河附近より邊門の原形を存し、松嶺子門なる扁額を掲ぐ。其西側及其近傍にも稍々邊



塙の形を存せり。

邊門内には看守所ありて、防禦(旗官)及其部下約三十名あり。又外に巡警局、税局、私塾等の機關あり。住民は殆ど農事專業者にして、商家と云ふべきは小雜貨店三、旅店二位のものに過ぎず。

産物は高粱、粟等の穀類にして、邊外より來るものに皮類、果物、羊毛等あり。又當地を通過して邊外に移出せらるるものには、砂糖、綿布類、各種紙、石油等の諸雜貨あり。

(ニ)、連山

當地は元と錦縣に屬せしが、後錦西縣の管轄に移りたるものにして、市街は連山驛の北方二支里にあり。戸數約六百、人口三千餘、内商家約五十戸を算し巡警局、兵營、商務會、小學校、税局、天主教堂あり。

市街は東西に通ずる一條街にして、西北には大小虹螺山の奇峯聳立し、夫より流出する河は市街の東方約一哩の地を過ぎて渤海灣に注ぐ。河幅約三百尺河底は砂礫にして平時水流を見ざるも雨期には漲溢す。

産物の主なるものは、高粱、玉蜀黍、粟、大豆等の穀類及棉花、果物類とす。

商家は雜貨舖十四、雜穀店八、燒鍋一、油房二、當舖一、指物職三、鍛冶屋二其他若干の小舗あるのみにして商業殷盛ならざれども、毎月一、四、七の日に開市ありて附近農民の來集するもの少なからず。

殊に舊正月前の如き、各商店の賣出、他地方よりの行商等多く市況頓に活氣を呈す。

移出穀類は鐵道或は水運に依りて、昌黎、開平、芝罘或は遠く寧波方面にも輸送せられ、其鐵道に依るものは六分にして、水運の四分は西海口或は釣魚台を経て戎克に依り送られ、棉花は殆ど全部奉天に仕向けらる。

交通の最も頻繁なるは冬季にして、西海口産出鹽の當地を経て奥地に向ふもの少なからず。

各種雜貨は鐵路及海路により移入せられ、水陸の比は移出と略同じく其主なるものは、布類、砂糖、燐寸、石油、紙類等にして、葉煙草は吉林地方より、木材は大東溝、安東縣より、石灰は北方紅羅縣地方より、石炭は黒魚溝より、木炭は綏中縣より移入す。

工業には燒鍋一ありて、一日約三百斤年額約十萬斤の燒酒を製出し、總て當地及附近部落に於て消費せらる。又油坊は二戸にして、一箇年約一萬枚の豆粕及二萬五千斤の豆油を製出す。

(ホ)、葫蘆島

連山驛の南方三十支里にあり、所謂連山灣築港地として其名を知らる。光緒三十四年(明治四十一年)七月より九月に亘り遼西地方海岸一帯を視察調査の結果、連山灣の一角葫蘆島を以て最も適當なる商港候補地と認め、宣統二年十月に至り、英國人ヒュース氏の設計に基き工事に着手し、海岸の埋立、家屋、倉庫、「ホテル」等の築設及臨港鐵道延長七哩一分を敷設して、京奉鐵道連山驛と連絡せしめ、



機關車及貨車十數輛を購入せしも、未だ運轉するに至らずして革命に遭遇し工事を中止せしが、民國三年一月改めて大總統令を以て此地を自開商埠地と爲せしも、築港資金の缺乏に災せられ、容易に着手するを得ず。而して其後支那中央政府及奉天政府に於て更に商港の必要を確認し、復興すべく計畫を立て、少なからざる經費を投せし筈なるが、其結果は係官吏の私腹を温めしか否かを知らざるも、何等認むべき一物もなし。

築港に關しては前記の如くなるが、最近張保安總司令は此地に航警學校と稱する珍妙なる學校（將來海軍兵學校にするものなりとか）と鐵道隊とを新設して舊建造物内に收容し居れり。因に同港は南北に分たれ、南海は南風に際しては波浪高く數十尺に及び、干潮時には水深十八呎内外海岸を距る約四千呎に於て二十四呎乃至二十七八呎なり。北海は干潮時全部露出するを以て、廣大なる埋築港地を成すに適す。曩日の調査に依れば約一千萬圓を投すれば、年八十萬噸の貨物を吞吐し、人口三萬人を收容すべき新市街地を埋築し、尙千二、三百萬圓を投する時は年三百萬噸の貨物を吞吐せしむべき設備をなし得べしと。巨費を惜まざれば單に人工的のみにも、良港を築設し得られざるにあらざるべし。然れども教員の給料支拂にすら窮し、軍隊の給養品代すら有耶無耶の内に葬らんとする支那政府の財政に想到するときは、本築港は少くも茲十年や二十年以内に物になるものとは思はれざるなり。

## 第二節 東邊道

### 一、安東縣

#### (1)、安東

##### 一、沿革及位置

當地は元と邊外と稱せられ、縣公署を置きたるは、比較的古く清朝の同治年間とす。爾來漸次發達を遂げ、宣統元年興鳳道を鳳凰城より此地に移し、民國二年東邊道と改め翌三年更に東邊道と改稱せられ。安東、興京、通化、鳳凰、寬甸、桓仁、臨江、輯安、長白、安圖、撫松、撫順、本溪、海龍、輝南、柳河、復、岫巖、莊河の十九縣を管轄するに至れり。

當地は日清、日露の兩役に際し、我軍の兵站基地となり、亞て京義、安奉兩鐵道の開通せらるるに及び異常の發展をなし、特に日露戰後我居留地の設置は支那側に大なる刺戟を與へ、遂に當港の開放を聲明せしめ、貨物の吞吐口として木材の大集散地として其名を知らるるに至れり。現今にては俗諺にも鴨綠江流す復は云々とある程にて、單に木材に就ても其一斑を窺ふに足るべし。

奉天の東南百七十餘哩、鴨綠江を遡ること十六哩に位し、西方に元寶、鎮江の諸岑を扣へ、東方は江を隔てて朝鮮の新義州と相對す。

##### 二、戸數及人口(大正十二年末調)



計	舊市街(支那街)			新市街(日本街)			區分	戸	數	人	口
	支那人	朝鮮人	日本人	外國人	支那人	朝鮮人					
二五、六〇三	一六、〇五三	四〇	七	三	六、二三二	九三九	二、三二九				
	八一、八一五	一五三	三二	四	二四、三六三	三、九八二	九、三四二				

三、市街の狀況

(イ)、舊市街(支那街)

舊市街即ち沙河鎮は、沙河の鴨綠江に注入する合流點に在り。元と寂々寥々たる一小部落なりしが、光緒の初年以降商家漸く加はり、大孤山、大東溝の繁榮を奪ひて商舖櫛比し、殷賑を極むる屈指の大商埠地と化せり。沙河鎮に安東縣公署の存在するより、世人の多くは沙河鎮と謂はずして安東縣と呼ぶ。而して舊市街の名稱は、新市街に對する主として邦人の一稱呼に過ぎざるなり。

(ロ)、新市街(日本街)

新市街は日露戰役に際し、時の軍政官大原少佐に依りて經營せられし市街にして、街衢井然碁盤形を成し、其周圍に溝渠を設けて排水に備へ、堤防を築きて江水の氾濫を防ぐ。而して總面積約三百二十萬坪に達し、家屋の多くは木材の豊富なる關係上木造多數を占め、滿州他都市の歐風に對し和風を發揮し、南下の邦人旅行者をして、母國の都市に歸りたる如き思あらしむ。

(ハ)、附近の名勝

鐵橋。鴨綠江の鐵橋は滿鮮兩地を連絡する唯一の交通路にして、其文化的の點に於て規模の點に於て東洋第一と稱せらる。然れども此工事に要せし時日は、僅に十六箇月にして經費も百四十萬六千圓なりとは、意外の廉價にて出來たるものなり。全長三千九十呎橋桁十二連、而して其中央なる一橋桁は閘門式にして、一日四回開閉し以て船舶の航行に便す。中央は鐵路にして兩側は人車道たり、此鐵橋の開通以來安義兩地の交通に多大の利益を與へ、殆んど國境を撤して一市を形成するの觀あり。殊に最近此兩地間に、汽車の運轉するに至りし爲め更に其度を深くせり。

天寶山。天寶山は海拔六百尺、一に安東富士と稱す。山腹は公園にして其麓に天后宮及各種學校等あり。山下よりは安義一帶の平野を望見し得られ、市民の遊覽地たり。



鎮江山。海拔三百餘尺、明治三十八年禪僧細野南岳山腹に山寺を建立し、寺號を鎮江山臨濟寺と稱す。庵の邊りに靈泉湧き嚴冬も氷結せず。山麓の表忠碑は、日露戰役の忠死者千八十四名の遺灰を納めたるものにして、我國民の禮拜すべきものの一たり。遊覽客の絶ゆることなし。

九連城安東より上流約二十支里の處にありて朝鮮の義州と相對す。日清日露戰役の古戰場にして九連山上の記念碑は實に吾人をして懷舊の情に堪へざらしむ。其西方約十五支里にも、蛤蟆塘の古戰場あり。龍岩浦。鴨綠江の河口朝鮮側にあり。春夏の候、漁船の根據地として殷賑を極む。其附近に薪島、多獅島等大船の錨地あり。多獅島の築港は、國家的施設として安義市民多年の宿望に係り、既に期成同盟會の設立成りて熱烈に其實現を期しつつあり。

#### 四、官公衙其他の諸機關

##### (イ)、支那側

東邊道尹公署、安東縣公署、警察廳、警察署、市政公所、鴨渾兩江水上市警察廳、安奉鐵路巡警總局、海關監督公署、海關、沙河稅捐總局、地方審判廳、同檢察廳、漁業保護局、陸軍兵營、憲兵分遣所、緝製驗局、兩江保護木業事務所、監獄、郵便局、電報局、商務總會、平民工藝廠、濟良所、勸學所、東邊道教育會、糧市、銀市(取引所)、道立中學校、附設師範傳習所、商業學校、縣立國民學校、公立國民學校、私立小學校、縣立女子學堂、劇場、新聞、銀行、赤十字分會、積善堂、市場、醫院、清潔

會、基督天主兩教會、天后宮、財神廟、城隍廟、火神廟、藥王廟、清真寺等あり。

##### (ロ)、日本側

領事館、警察署、郵便局、新義州稅關吏出張所、商業會議所、商品陳列館、憲兵分隊、守備隊、日本赤十字社支部、帝國在郷軍人分會、滿鐵地方事務所、同醫院、屠獸場、水道瓦斯電氣各事務所、銀行各種會社本支店、各種組合、安東新報及各新聞支局、圖書館、尋常高等小學校、實業補習學校、高等女學校、普通學堂、幼稚園、中日懇親學堂(日支合辦)、公園、劇場、神社、東西兩本願寺、臨濟、淨土、日蓮、高野山、金光、天理基督各教の布教所あり。

##### (ハ)、外國側

基督教立文化學校、同文化女學校等あり。

#### 五、一般產物及特產物

當地に於ける主要產物は世人の知る如く木材を以て第一とし、柞蚕、豆粕、豆油、米、黃酒等之に亞ぐ。其他林產、農產品等あり。此等の大部は、隣縣又は鴨綠江上流地方より來集するものなれども、集散市場たる關係上、當地產として廣く内外に其名を知らる。

今試に安東三大特產品の最近二年間に於ける成績を概示せば次の如し。



坊	油		蚕		材		木	
	年	區	年	區	年	區	年	區
大正十二年	次	分	大正十二年	次	分	大正十二年	次	分
二五	二五	二五	二六	二六	二六	二二	二二	二二
二七、四三六、八〇〇	豆	油	一一、〇〇〇	一七、八五三	一、六〇〇	四、四三七	七、〇八四	二二七、八二二
五、七二六、〇〇〇	豆	粕	一、六〇〇	一九、九五捆	一、八、四六六	二二七、八二二	三、二六六、〇九三	二二七、八二二
一、三二七、七〇三	内	地	五、九箱	七、二〇〇籠	五、九箱	六〇六、〇〇〇	八六五、九九六	六〇六、〇〇〇
四六一、三二〇	朝	鮮	二、八三〇	一、五六担	二、八三〇	製材	原木	製材
八六、七、七八〇	支	那	二、六七二	七〇、七〇六	二、六七二	一、一、〇〇〇	三、〇〇〇連	一、一、〇〇〇
			三、七四	五、四三七	三、七四	二九〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇連	二〇五、〇〇〇連
				五、六六七		一、六六、〇〇〇	二〇、〇〇〇尺	六、〇〇〇尺メ
				三、六四一		一、六六、〇〇〇	二〇、〇〇〇尺	六、〇〇〇尺メ
				三、六四一		一、六六、〇〇〇	二〇、〇〇〇尺	六、〇〇〇尺メ
				三、六四一		一、六六、〇〇〇	二〇、〇〇〇尺	六、〇〇〇尺メ

六、商工業

(1)、商業。當地は鐵道開通前は、戎克貿易港として遠く支那各港と取引を結び、其爲め雜貨の大部分は支那品又は歐米品なりしが、其後鐵道の布設さるるや、俄然日本品の襲來となり、目今に於ても市場現在品の多數は邦製品たり。

安東港は鴨綠江上流地方より流出する土砂の爲め、年々江口を埋没し、今や戎克船と雖も出入自由ならざる箇所あり。此水運の不便も偶々邦製品の輸入を促したる一因なるべし。今最近の當港(驛共)に於ける貨物發着數量を示せば次の如し。

品名	發	着	品名	發	着
豆粕	二、六四六、八〇三担	九六五屯	小麦	二、七五担	六担
大豆	三、六、三三担	三、八七三屯	木炭	四、一〇四担	七、四三担
雜穀	三、一、九五担	三、五〇担	獸毛	六、〇〇担	二〇、六五担
玉蜀黍	七、四、四五担	六、七四担	獸骨	六、九五担	—
高粱	八、三、七〇担	二、八二屯	石炭	九九五担	二屯
粟	二、三、四、一〇担	一、二五屯		三、二、九六〇屯	二、〇、六七担



米	七、八三担	二、七五屯	棉花	四七担	七九担
染料	一九担	—	豆油	四、四三斤	—
大麻	三三担	—	麻油	一、〇一九斤	—
薪	四、八四九担	六、六〇九屯	胡麻	四、七六担	—
鹽干魚	一、一〇〇担	二〇六屯	柞蚕糸	一七、二九担	—
麥粉	一〇、八八担	一五、六五屯	同層糸	一一、六三担	—
人參	二、二七担	四三擔	被服仕立 小羊皮	二七、毛七枚	—
鹿ノ角	一、一〇五担	—	其他ノ毛皮	三三、〇〇枚	模造毛皮 二九、〇六七、九五碼
甘草	一、八七担	—	綿布類	—	三〇、六三九枚
木材硬木	立方尺 四五、三〇六	一六、八七	綿毛布	—	六六、二七枚
木材軟木	平方尺 一九、八四、〇四尺	八、二九三、六〇	砂糖	—	七〇、九七担
麻袋其他	二六、九六枚	二、〇三四、八五枚			

六、工業。當地の工業中太宗たるは、製材業にして之に次くを機業(柞蠶糸)、油坊、密業とす、而して木材は、前記の如く鴨綠江上流地方長白山脈の産にして、目下採木公司及新義州營林廠等より該地

方に出張所を設け、伐採に従事す。伐木は全部鴨綠江を利用し流筏するものにして、製材業者は該原木を購入の後各材種に製材し、以て各地に搬送するものとす。現今安東木材は、長白山材の伐採區域を擴大するに従ひ、稍々其數量減少の傾向あるも、尙吉林材と共に滿洲重要物産たるを失はず。

今最近に於ける當地の工業を概示すれば次の如し。

一、製材業、

製材工場は現在二十二個、何れも蒸氣又は電氣動力に依り作業を行ふものにして、其資本金總額六百十七萬四千圓、使用職工一箇年の延人員約四十二萬、而して一箇年の製産高は實に六十六萬尺内外に達すと云ふ。

二、柞蠶製糸業

製糸工場は現時二十六個にして其機台數は一萬一千台、而して年生産高は一千六百捆(大正十二年)なり。

三、製油業

油坊工場は現時二十五個にして其年生産高は豆油二千七百四十三萬六千八百斤、豆粕五百七十一萬六千枚に達し、主として豆粕は日本及朝鮮に輸出しつつあり。

(四) 九連城



安東縣を距る東北二十餘支里、鬩河の河口右岸に位置する一小市街にして、日清日露の兩役により普く其名の知られ、戸數約三百、人口千八百を算す、其内商家には雜貨店二戸、搾油業及酒造所一戸等あり。産物は米、大豆、高粱、豆粕、豆油等にして、其一部は土地の需要に充て、他は安東に搬出せらるるもの多し。

(ハ)、五龍背

一、沿革及位置

往昔此地は邊外の地として絶體に移住を禁せられしが、禁を犯し山東省より移住し來る者多く、官憲は趨勢の已むなきを觀て光緒二年安東縣城を沙河子に置きて移民を公許し爾來移住者相踵き今日の村落を形成するに至れり。

日露戰役當時我出征軍に依り布設せられたる輕便鐵道は現驛所在地の南方一哩半と北方二哩との二箇所に停車場を配置せしが、明治三十九年温泉場の公開と共に其兩驛を廢し新に現在の位置に驛を創設し四十年四月滿鐵會社の經營に移りたるものにして、安東驛を距ること西北十五哩餘の地點にあり。

二、戸數及人口

戸數

人口

鐵道附屬地内	日本人	一三	三六
	支那人	二	一二
	朝鮮人	四	一四
鐵道附屬地外	日本人	—	—
	支那人	四〇	四〇〇
	朝鮮人	—	—

三、市街の狀況

此題目既に穩當ならず即ち一村落到して市街にあらず、只南滿の三浴場と稱し滿鐵本線の湯崗子、熊岳城と共に其名を知らるるのみ。

四、官公衙其他の諸機關

附屬地に我警察官吏派出所あるのみ。

五、一般産物及特産物

近年水田業大に發達し當地一帶殆と水田地ならざるなく今や其年産額は約一萬石に上り尙年々増加の勢にあり、又柞蠶及製繩と其數量多からざれとも特産の一たるなり。

六、商工業



當地に集散する主なる物資を擧ぐれば米、大豆、高粱、麥、包米、雜穀、繭、木材等にして、工業としては製繩業を現在十五、六台の機械を据付け一台の製繩高一日約十貫を製出するものと釀酒業の資本約三萬元従事員四、五十名を使役するものとの外に記すべきものなし。

七、雜件、

當地の泉質は無色透明微かに硫化水素の臭味ある「アルカリ」泉にして痔疾、皮膚病、「リユーマチス」等の疾患に効驗ありと唱へられ、四時浴客絶へず、浴後欄に凭て丁岐山を望めば白雲離合して山容千態頗る心神を爽快なちしめ俗塵を洗ふに十分なり。

(二)、湯山城

一、沿革及位置

當地は朝鮮國境九城の一にして、清朝の初め朝鮮軍に備ふる爲めに建設せしものなるが、今は僅かに其舊跡を残すに過ぎず。驛は臨時軍用輕便鐵道布設當時の開驛に係り、明治四十年四月滿鐵會社の經營に移り次て四十三年十一月、廣軌の開通と共に現存の驛舎に移りたるものにして安東の西北二十一哩、奉天の東南百五十哩の中間驛所在地たり。

二、戸數及人口

戸數百二十、人口五百を算す。

三、市街の狀況

驛前を起點とせし東西約一支里の一條街にして、安東より陸路鳳凰城に通ずる交通路に衝り行旅常に當地に一泊を要すべき中間地にして旅店、雜貨商等を經營する者割合に多數なるも家屋は矮小なる貧弱のもののみにて振はざること夥しきなり。

四、官公衙其他の諸機關

附屬地内に我警察官吏派出所、附屬地外に支那鐵路巡警分局及小學校あり。

五、一般産物及特産物

當地の主産物としては高粱、粟及其他の雜穀なるも近年土民中水田米の他の穀類に比し有利なるを知るや續々水田耕作者を増加し、現今にては當地附近一帯に夥しき水田を見るに至りしが今後更に増加の狀勢にあり。

六商工業

當地の物資集散状態を見るに食料及日用雜貨等の範圍を出でず、其移出入先は主として安東にして大豆、高粱、米、包米、麥粉、鹽、柞繭、薪炭、木材、石材を其主なるものとす、而して工業としては全く記すべきものなし。

(ホ)、大東溝



## 一、沿革及位置

當地は同治年間安東廳を設置せられ、爾來漸次發達をなし、戎克貿易盛んにして、相當繁榮せしが、光緒二年同廳は沙河子に移り光緒二十九年(明治三十六年)日清通商條約に依り安東は通商港として開放せられ、京奉京義兩線開通以來安東の急激なる發展をなせしに反し、當地は漸次經濟的地位薄弱となり、逐年衰退に傾き、加ふるに大正三年火災に累せられ遂に現在の如く寂寞たる市街と化すに至れり。舊名を攬盤と稱し安東の西南九十支里、鴨綠江口に位置す。

## 二、戸數及人口

戸數六百五十、人口三千六百四十を算し、内邦人五戸居住す。

## 三、市街の狀況

市街は前後の二街に分かたる、も農商家相混合し、街衢不規則なり。夏季戎克船の出入時期に至らば農産物の集散地並に漁業地として市況稍稍活氣を呈するを通例とす。

## 四、官公衙及其他の諸機關

巡警局、鹽務局、巡防隊、郵便局、電報局、小學校、商務會等あり。

## 五、一般産物及特産物

産物の主なるは米、大豆、玉蜀黍、生魚、木炭等にして、冬季は馬車に依り安東に、夏季は戎克に依

り安東、大孤山、貔子窩及遠く芝罘方面と取引をなす。

## 六、商業

當地は安東の副港とも稱し得べく、商業は主として戎克貿易にして、通常貨物船の出入五、六十隻あり尙此外漁業に従事する小船約五十隻を有し毎年漁期には約二十万支斤の漁獲あり。

## 二、興京縣

## (イ) 興京縣城(新兵堡)

## 一、沿革及位置

當地は一名新兵堡と稱し、古より清祖發祥の地として其名を知られ、肇祖より太祖に至る迄は此地を居城とせり。清朝は歴代之を重視し、曾ては副都統を常駐せしめたり。光緒三年(明治十年)興京廳を設置し、通化、懷仁、輯安、臨江の四縣を管轄せしめしが、宣統元年(明治四十二年)に至りて昇して府となし、民國二年更に現今の縣と改稱せられたるものにして、奉天より通化に至る街道上、奉天を距る東方三百支里、渾河の上流蘇子河岸に位す。

## 二、戸數及人口

戸數約千八百(内商家五〇〇戸)、人口一万二千を算し、日人十名居住す。

## 三、市街の狀況



南方及西北は山脈連亘し、市街は蘇子河によりて南北二部に分たれ、河北は官衙及學校の所在地にして、河南は商業區を成し、大小の商家櫛比し般盛なり。

四、官公衙其他の諸機關

興京縣公署、巡警局、巡警教練所、兵營、電報局、郵便局、稅局、高等初等小學校、商務會、日本警察官吏派出所、鮮人保民會事務所等あり。

五、一般產物及特產物

主なる產物は水稻米及大豆にして、木材、麻、葉煙草、蜂蜜、茸類等之に亞ぐ。内農產品は附近百支里内外の地方より來集し、其他は遠く縣外の通化、桓仁方面より來り更に車馬に依りて撫順、奉天地方に移出せられるものなり。

六、商工業

(イ)、商業。當地は有名なる馬賊及不逞鮮人の根據地を以て目せられ、其災を蒙ること頻りにして發展上支障少しとせず。然れども近來著しき發達を遂げ、家屋の如もき煉瓦造漸く多きを加へたり。移入品は布疋、雜貨類等にして奉天、撫順方面より來るもの多し。

此地方一帶は近來年々鮮人の居住者を増し、彼等の殆と全部は水田業に従事する結果、土民中にも彼等と共同又は單獨經營を爲す者漸く其數を増し、最近に於ては從來當市場來集品中大豆、高粱等を主

とせるもの、一躍水稻米其主位を占むるに至れり。

今最近當地に來集せる物資の年數量を掲記すれば左の如し。

水稻米	三〇、〇〇〇石	大豆	六、〇〇〇石	蜀黍	三、〇〇〇石
小麥	一、〇〇〇石	小豆	二、五〇〇石	大麥	五〇〇石
蕎麥	三〇〇石	玉蜀黍	三〇〇石	粟	五〇〇石
松子	一〇、〇〇〇斤	蜂蜜	二、〇〇〇斤	麻繩	二〇、〇〇〇斤
薰烟	三〇、〇〇〇斤	藍靛	二五、〇〇〇斤		

(ロ)、工業。各種工業あるも規模大ならず、何れも舊式土法に依るものなるを以て、其生産品も僅かに當地及附近數十支里の需用に充つる程度にて大なる價值なし。左に各業に就き概記すべし。

酒造業一戸(二班) 一日の製造高七百五十斤にして主として當地に於て消費せらる

製粉業八戸 一日の製造高三百斤にして同上

油坊六戸 一日の製油四百斤、豆粕二十枚にして殆と當地にて消費せらる

瓦製造業一戸 一日の製造高一千枚

製紙業一戸 製造力不明なるも言ふに足らず

製材業 即ち木廠は大なるもの十餘戸、小なるもの六、七十戸に達す



(ロ)、永陵

一、沿革及位置

永陵は清朝始祖の陵あるを以て其名を知らる。今より約三百年前の創設に係り、建築頗る宏壯にして清朝時代は永陵守護大臣を派遣し守護せり。西方約三支里餘蘇子河岸に通稱假御殿と稱する一廓あり。今より二百三十年前清廷に於て、永陵守護監督の爲め年々出張する皇族の宿泊する宮殿として建造せしものにして、周圍百間四方ありしが、日露戦役の際露兵の宿舍となり、退却の際放火し今は其殿宇の片壁を残せるに過ぎざるは惜しむべき限りなり。

市街は興京撫順街道上興京の西方約四十支里に位す。

二、戸數及人口

戸數九百、人口六千を算す。

三、市街の狀況

市街は興隆永陵の二街(此間約二支里)に分れ、前者は戸數二百、人口千二百、後者は戸數七百、人口四千八百を有し商業稍々繁盛なり。

四、官公衙其他の諸機關

巡警局、保衛團、税局、商務會、郵便局、學校等あり。

五、一般産物及特産物

産物は穀類の外山貨、葉煙草、麻等あるも、其來集區域は興京に接近せる關係上甚た狭く、僅に附近

四、五十支里に過ぎず。

六、商工業

(イ)、商業。商業は主として附近四、五十支里内外の農民を顧客に、雜貨を掛賣し其代品として穀物又は山貨、葉煙草、麻等を收得す。而して雜貨類の大部は奉天より移入せらるる關係上其來集物資も亦殆と奉天と取引せられ、撫順と商關係多からざるなり。

最近當地に於ける來集貨物の品種數量を示せば左の如し。

水稻米	五千石、	高粱	二千石、	大豆	四千石、	小麥	三百石、
粟	八百石、	大麥	二百石、	小豆	二百石、	雜穀	千石、
葉煙草	七万斤、	麻	六千斤、				

(ロ)、工業。工業としては油坊五戸、磨坊十一戸あるも、土式にして生産高大ならず。今年に於ける製造高を記せば左の如し。

豆粕	一万二千斤	豆油	千二百斤
麥粉	一万五千斤		



(ハ) 木寄

木寄は一名木齊とも稱し、興京撫順街道上興京の西方七十支里に位する一邑鎮にして、往時は商業隆盛を極めたりしも、鐵道開通後一般物資は沿線各地に吸収せられしを以て、當地の商業範圍は俄かに縮小し、現在僅かに三、四十支里の民を顧客となすに過ぎざるに至れり。従て戸口も大に減少し戸數約百、人口五百にして往時の殆ど半數に過ぎず。官公衙には税局、巡警局、保甲團、郵便局、小學校等あり、又高粱、大豆及麻、葉煙草等を産するも、要するに老齡地たるを免れざるなり。

(ニ) 南三家子

永陵街の北方約八十支里に位する農民街にして戸數約百二十、人口七百五十を有し、内商家十五戸あり當地より北方約三十支里にして、開原縣界に達す。

保衛團(人員二十)、小學校、廟等ありて、附近部落との間に小取引行はれ、又開原に通ずる路上に當る關係上宿驛站たるより案外賑なり。然れども産物としては高粱、粟等の農産の外別段見るべきものなし。

(ホ) 鄭家堡子

當地は木寄より城廠に通ずる道路の略ぼ中間に位する邑鎮にして、古來より縣下に於ける物資の小集散市場として其名を知らる。戸數百五十、人口約千を有し、保衛團、小學校等あり。

産物は農産品特に大豆、高粱多く、其他附近には山岳地帯多きを以て薪炭の産出亦尠からず。而して是等來集品は主として奉天方面へ移出せらる。

(ヘ) 南彰黨

當地は撫順域廠街道上にあり、撫順及本溪兩縣界附近に位置し、戸數約百、人口七百を算す。内主なる商家は雜貨及糧棧其他五、客棧四、質屋一にして巡警局、小學校、郵便局等あり。

縣下に於ける物資の小集散地にして、附近農民に日用雜貨を供給し、彼等より購買したる高粱、粟類の穀類及少量の麻の如き品種を奉天撫順地方に移出す。

(ト) 五龍口

當地は域廠より撫順に通ずる道路上南彰黨の東南約十七支里に位し、人馬車の宿站地並に附近農民の物資供給地として稍々發達したる地にして、戸數約百五十、人口千を算し、保衛團、小學校等あるも未だ街形を成すに至らず。

高粱、粟、大豆等の農作物及山貨を産し、主として奉天方面に送らる。

(チ) 葦子峪

葦子峪は域廠より興京、撫順、桓仁等に通ずる街道の交叉點にありて、興京の西南約百六十支里、南方域廠に至る約四十支里の地點に位し、戸數百三十、人口八百内商家二十五戸を有する邑鎮にして、



巡警局、巡防隊、税局、郵便局、小學校等あり。

附近一帯は廣からざる平地なれども、地味肥沃にして收穫量多し従て當地に集散せらるる物資は大豆、高粱、粟、米等の農産物及薪炭、木材等にして其量少しとせず。而して此等は主として奉天方面に移出せらる。

移入品は主として雜貨にして、興京より來るもの最も多く奉天より移入せらるるものは其十分の三内外に過ぎず。販路は附近部落二、三十支里の範圍にして廣からざれども、其取引額は相當の數量に上り市況は案外賑かなり。然れども工業に就きては未だ録すべきものなし。

### 三、通化縣

#### (イ) 通化縣城

##### 一、沿革及位置

通化は俗に頭道溝とも稱し、元荒涼たる無人の原野なりしが、清の同治七、八年(明治初年)の頃開放せらるるに及び山東方面よりの移住民に依り開墾せられ漸次發達をなし、光緒二年(明治九年)遂に縣治を布かれしものなり。

奉天の東方五百二十五支里臨江縣下八道溝の西南百二十支里、西興京に至る二百二十支里に位置す。

##### 二、戸數及人口

戸數約四千、入口約二萬五千内大小商家約五百戸を算し、日人十名居住す。

##### 三、市街の狀況

四圍山を以て繞らされ、東北兩面には近く丘陵を控へ、西南面は渾江に瀕す。市街は東西六支里、南北二支里に亘り漸次西南に發達しつつあり。城は略は正方形にして周圍僅に二支里半に過ぎず、東西南北の四門を有すれども北門は現今廢頽して通行杜絶す。城内は官衙公署多く、最も殷賑なるは東門外及南門外にして、大小商賈櫛比し車馬の往來絶ゆることなし。而して市の東方には渾江の埠頭ありて、解氷後は筏の流下艘子(戎克)の航行頗る頻繁なり。

##### 四、官公衙其他の諸機關

通化縣公署、警察所、巡警局、監獄、交渉局、水上警察署、税總局、兵營、阿片嗎啡療養所、勸學所、農務會、商務會、縣立中學校、縣立高等小學校、縣立夜課日語學校、國民學校、高等女子小學校、郵便局、日本帝國領事分館、同警察署、鴨綠江採木公司分局等あり。

##### 五、一般産物及特産物

各種穀類の外線麻、蘑菇及木材、薪炭等あり。其内木材は筏に組まれ安東に輸送するも、其他は主として陸路奉天方面に移出せられ、安東方面は坂路多く僅に馱馬を通するに過ぎざるを以て其輸送も頗る僅少なり。



六、商工業

(イ)、商業。本地方一帯は文化の度低く、住民は主として農林業を生業となすを以て、其需要物品も亦必需品に限られ、奢侈物品は多からず。然れども當地は最近長足の進歩を遂げ、堂々たる煉瓦造家屋續出し、奥地には稀れなる一新市街を形成し大小商家約五百戸に達するは上記の如し。而して其主なるもの左の如し。

- 當舖 二、 炮舖 一、 馱子店 一、 繩麻舖 二、 鐵器舖 四、
- 烏拉舖 一八、 洋鐵舖 一、 銀匠舖 二、 山貨舖 二、 雜貨舖 三、
- 染坊 二、 鞭杆舖 二、 飯莊 五、 篋舖 一、 車舖 一、
- 醬坊 二、 油坊 五、 澡塘 二、 寫真舖 一、 菓蘇舖 七、
- 雜貨舖 五一、 藥舖 五、 羅圈舖 二、 燒鍋 二、 糧舖 一、
- 磁器舖 一、

物資の集散範圍は本縣及臨江、輯安並に桓仁縣の一部にして、移出先は前項に記述せる如く奉天方面八割、安東方面二割とす最近一箇年に於ける移出品數量左の如し。

- 大豆 六萬五千石、 粟 二千石、 小麥 二千石、
- 小豆 千八百石、 粳米 八百石、 玉蜀黍 四千石、

豆油 五十萬斤、 豆粕 十萬收、 線麻 七萬五千斤、

磨茹 九萬斤、 柳菸(一種の烟草)五萬三千斤、

移入は奉天四割、安東六割にして、最近に於ける移入品種、金額左の如し。

- 綿布類 三十五萬元、 蠟燭 二千元、 石油 三萬元、
- 藥品 二萬元、 燐寸 一萬元、 麥粉 一萬二千元、

(ロ)、工業。工業は燒鍋二、油坊二十を主とするも、何れも規模廣大ならず、殊更記述の價值なきが如し。

(ロ)、熱水河子

當地は通化の東方約三十支里の路上にある部落なれども、戸數約百、人口七百を算し、内雜貨商二、燒鍋一及保甲團、郵便局等あり。

商工業に就ては特筆すべきものなきも、由來渾江流域は農耕地に富み農産物の産出多く、爲めに當地は其小集散地たるものにして、穀類の出廻期には市況稍々活氣を呈するを常とす。

(ハ)、二道江

當地は一名鐵廠子とも稱し、通化の東方約四十支里に位置する部落にして、戸數約百五十、人口約一千を算し、内雜貨店四戸及旅店等あり。又附近には鮮人の水田業を營む者約二十戸あり。



未だ街形を成さず、一個の村落なれども熱水河子に同じく、渾江流域の好農耕地を控ゆる關係上、穀類の出廻期には市況稍々活氣を呈す。

(ニ)、快當帽子

通化の西方四十五支里に位置し、通化より奉天及桓仁に至る道路の分岐點に當るを以て、人馬車の宿站地として發達したる所にして、戸數五百、人口三千五百を算す。

民國十年大火災に遭遇せしも現今は殆ど復舊し、巡警局、保甲團、郵便局、小學校、税局等あり。産物は大豆、高粱、水稻米等にして、就中水稻米は近年鮮人居住者増加し、水田業を營む者多く現在に於ては、大豆に次ぐ重要産品の一に算へらるるに至れり。

當地は通化に近接せる關係上商業範圍は比較的狭小にして、未だ大集散地と稱するを得ざるも、交通上要衝の地にあるを以て冬季出穀期には車馬絡繹として絶ゆることなく、市況頗る活氣を呈す。而して來集物資は多く奉天方面に輸送せらる。

(ホ)、大泉源

當地は通化より桓仁に至る路上、快當帽子の西南方五十支里に位す、一帶に於ける邑鎮にして稍々街形を成し、戸數約三百、人口二千を算し、比較的繁盛なり。商家約三十戸及巡警局、保甲團、郵便局小學校等ありて縣下に於ける物資の小集散市場たり。

(ヘ)、大川街

産物は各種穀類及山貨の類にして、其量比較的多く、剩餘の部分は奉天及安東方面に送らる。

當地は通化より桓仁に至る路上、大泉源の西方十支里に位する比較的大なる部落なれども、家屋は各所に點在し殆ど街形を成さず。然れども戸數約三百、人口一千五百を算し、商家十餘戸ありて、日常の小取引行はる。

附近には約三十戸の鮮人居住して水田業に従事し、年と共に漸次發展の歩を進めつゝあるなり。

四、鳳城縣

(イ)、鳳凰城

一、沿革及位置

縣城の所在地にして往昔漢時代には元塊郡と稱し、渤海の時代に龍原府と呼び元時代に至り東寧路に屬し、明代に至り始めて鳳凰城堡を置き、清の乾隆四十一年(紀元二千四百二十五年)巡檢を設け岫巖に隸す、現在の城壁は清初の頃築きたるものにして、城内は官衙及旗人の住宅のみ多く、民國三年(大正三年)鳳城縣に改稱せられたるものにして、奉天を距る東南百三十三哩、安東の西北三十七哩にありて安奉沿線屈指の市街地なり。鳳凰城驛は縣城地を距る三支里にして明治四十三年廣軌線開通と共に改築移轉せしものとす。



二、戸數及人口

附屬地	戸數	日本人	支那人
人口	五十五戸	二百三十七人	十七戸
			五十三人

城内外	戸數	支那人
人口	日本人	二千二百五十戸
		一萬五千八百人

三、市街の状況

市街は周圍に城壁を繞らすも規模狭小にして東南に各一の通用門を設け往時は東邊の重鎮として宏壯を極めしが今や殆ど頽潰に歸し僅に殘壘を有するに過ぎず。而して城内には官衙及旗人の住宅あるのみにして市街と稱すべきは却て城外にありとす、清朝の初の山東方面より移民の來集多く漸次城外に一大市街を成し以て今日に至りたるものにして、其最も殷賑なるを南門通とし各種の老舗軒を並へ人馬の往來織るが如く商工業の諸機關相應に具備し管内其比を見ざる一商業地たるを失はず。又鐵道附屬地に在りては、住民の大部分は鐵道従事員にして外に四、五の商店あるのみ。

四、官公衙其他の諸機關

日本側。警察官吏派出所、守備隊、郵便局

支那側。鳳城縣公署、兵營、稅捐局、郵便局、電報局、鐵路巡警局、自衛團、監獄、商務會、鹽務會  
農事試驗所、師範學校、中學校、農學校、兩等小學校、女子小學校、兵士養成所等

五、一般產物及特產物

產物の主なるものは柞蚕繭にして其他木炭、杭木、葉煙草及野菜の產出少からず、此外普通の農產(穀類)あるも特記すべき程のことなし。

六、商工業

(イ)商業。當地は四面山脈を以て圍繞せらるるのみならず、安東縣發達の影響を受け稍稍不振に陥りたるも、既記の如く南門外に於ける商取引は今も注目に價するものあり、今最近一年間に於ける當驛發着主要貨物の概數を擧ぐれば左の如し。(單位噸)

品目	發	着	品目	發	着	品目	發	着
大豆	五、八〇六	七一	米	三七七	九七	高粱	九二	三二七
玉蜀黍	八九〇	一一	粟	五二	一五三	小豆	一、〇四四	九七
小麥	—	六	大麥	—	二五四	其他穀	八	一〇八
生野菜	一六七	三七	生果	一五	九七	葉煙草	一八	一三四



鐵及鋼	紙類	綿布	酒類	砂糖	石炭	繭	木材	薪炭
四	一二	二二	一〇六	一六	—	八〇九	一、七五六	一、一〇〇
一八一	二二四	三三〇	九八	二〇〇	一、九五〇	二	八二二	二五三
貨其他	安平	麻袋	絹生絲	醬油	鹽	木材	麥粉	豆粕
八五二	—	三四	二二	一〇	—	一、四〇三	三四五	四四一
一、五四三	四五	一〇五	—	一四	—	—	一、八三〇	—
	製鐵及鋼品	豆粕	綿糸	煙草	卷刻	麥粉	薪炭	
	二〇	四四一	—	二二	—	—	—	—
	七二	一五	一三	七〇	—	—	—	—

(ロ)、工業。粉坊五、窯業三、燒鍋三、醬油味噌等醸造業四あるも在來の土式經營に係り特記すべき程度のものなし。

七、雜件

當地の東西約十五支里に巍峨として聳立する鳳凰山あり、奇岩怪石老松參差の間由緒ある寺廟の點在するあり、且つ高麗時代の城墟ありて一日の清遊に適すべく滿鐵本線千山の靈地と共に其名遠近に聞ゆ。

(ロ)、高麗門

一、沿革及位置

此地は元と清祖滿洲に建國するに際し鮮朝に備ふる爲め長寨を築設し以て六邊門の一とせし所にして邊門又は鳳邊門と稱し、光緒初年(明治八年)邊外の開放地となる迄は、朝鮮との互市場地として其名顯はれたり。

驛は明治三十七年我軍用輕便鐵道布設當時の開驛に係り、専ら軍事輸送に使用せられしが、明治四十年四月滿鐵會社の所管に移り同時に旅客貨物の取扱を開始し、同四十三年十一月廣軌鐵道の開通と共に現在の驛舎に移りたるものにして、奉天を距る東南百四十三哩、安東の西北二十八哩、鳳凰城の南九哩の地點にある、安奉線の中間驛たり。

二、戸數及人口

鐵道附屬地に於ける戸數は日本人十一、支那人九、人口日本人四十、支那人三十七にして附屬地外なる高麗門街には戸數八十、人口五百内外の支那人を有する外附近十支里以内に散在する村落八箇所に約八十戸六百人の支人を有す。

三、市街の狀況

市街の東北方は一面山岳を以て蔽はれ一小河流に沿ふて小市街を形成す、市外には今尙ほ邊寨の殘影ありて古色掬すべし、而して小邑なれども商舖約三十戸、食料品及日常諸雜貨の類を販賣す。



四、官公衙其他の諸機關

附屬地内には我警察官吏派出所、又附屬地外には巡警分局、税局派出所等あり。

五、一般産物及特産物

特記するに足るものなく、只少量の農産物と木材薪炭、柞蚕繭等あるのみ。

六、商工業

當驛發主要貨物は大豆、米、玉蜀黍、小豆其他の雜穀と葉煙草、木材、薪炭の、驛を中心として百支里内の地に産出する物資にして此等は主として安東に輸送せらると雖も柞蚕繭糸の半數は南支方面に木材の大部分は炭坑用材として撫順に移出せらる。而して其到着貨物の供給は概ね安東、沙河鎮に之を仰ぐ。

又工業に關しては特記すべきものなし。

(ハ)、鶏冠山

一、沿革及位置

當地は素と山間僻俣の地にして溪谷の間に三々伍々農樵夫の居住せしに過ぎざりしが、明治三十七八年日露戰役當時我鴨綠江軍の北進するに當り、其兵站線として輕便鐵道布設せられ、現在驛の北方一哩の箇所に驛舎を設け、以北山間線と、以南平坦線との運送分合中繼の地點として重きを此所に置か

れたると、其後輕鐵の廣軌となり、滿鐵の經營となり同社の努力により昔日の面目を一新せしも、商業地の伍班に列するには尙ほ前途頗る遼遠なり、而して此地は奉天を距る東南百二十一哩、安東の西北五十哩の地點にあり。

二、戸數及人口

戸數	日本人	百四十四、	支那人	八十、
人口	"	五百六、	"	四百七十、

三、市街の狀況

街劃整然、道路上下水の設備稍々完備せし小市街にして、居住者の大部分は滿鐵従事員と附屬地に接續せる支那部落に僅少なる内支人の商家を有するのみ、從て商取引上殆ど見るべきものなし。

四、官公衙其他の諸機關

警察官吏派出所、守備隊分遣所、郵便局、滿鐵保線區、同機關區、尋常高等小學校、實業補習學校、幼稚園等あり。又支那側の地方巡警屯所及寺小屋式小學校あり。

五、一般産物及特産物

當地の産物は一般農産物と附近村落より搬出し來る薪炭、山繭、杭木等なり。

六、商工業



商工業として殆ど見るべきものなく、左記最近に於ける當驛發着主要貨物はよく其間の消息を語るものと云ふべし。(單位噸)

品名	發	着	品名	發	着	品名	發	着
大豆	一、二八三	—	米	六	一三九	高粱	—	一九
玉蜀黍	四	九九	粟	—	九	落花生	—	一二
其他穀類	三	三	石類	—	二五	石油	—	五〇
鹽	—	二五一	鹽干魚	—	四八	ンセトメ	—	六一
生石灰	一九三	六	介蟲	—	—	生野菜	—	八〇
生果	七	三二	消石灰	三	一七	棉	—	一八
繭	四三八	二	葉煙草	—	二二	薪炭	—	八八
石炭	二、五一四	—	木材	一、九〇〇	四三九	陶磁器	—	二一
麥粉	—	二八〇	煉瓦	三〇	—	及土器	—	—
豆油	—	二五	砂糖	—	三九	味噌	—	—
綿布	—	九二	煙草	—	八	醬油	—	—
	二	—	紙類	—	四三	酒類	—	—
	—	—		—	—	麻袋	—	—
	—	—		—	—		—	—
	—	—		—	—		—	—
	—	—		—	—		—	—
	—	—		—	—		—	—

安平	工業品	鐵及鋼	雜品
—	三九	—	一、七六五
—	三四	—	二八六
安平	工業品	鐵及鋼	雜品
—	三九	—	一、七六五
—	三四	—	二八六

七、雜件

鷄冠山はもと山名にして驛の南方に存在せる山容の鷄冠に似たるものあるに因み取りて以て驛名となす、同山の山麓に古刹あり善佛寺と稱し孔子を祀る、驛に近く北に鷄冠川あり、水清くして河底の石を算すべし、川の所々に深潭あり、夏季は兩岸の樹木繁茂して綠色滴るが如し。

(二)、通遠堡

一、沿革及位置

通遠堡は明時代の築城にして朝鮮街道七站の一なり、當時東南石灰窑子の丘陵と西北方の平坦地に山寨を築き前後衛となし戍兵を常駐せしめたりと云ふも、今は城壁破壊して廓内田園と化し只楊柳の處々に残存して古き歴史を語るに似たるものあるのみ。

驛は明治三十八年我臨時軍用輕便鐵道布設と共に舊通遠堡に開設せられ、當時専ら軍事輸送のみに當りしが、四十年滿鐵會社の經營に移るに及び旅客貨物の取扱を開始し、次て同四十四年十一月廣軌開通と共に驛を石灰窑子に移轉し舊名其儘通遠堡と稱ふるに至りしものにして、奉天を距ること東南九



十七哩餘、安東の西北七十三哩に位する安奉線中間驛所在地たり。

二、戸數及人口

附屬地及支那街共、戸數日本人三十、支那人百、人口日本人約百、支那人約七百、

三、市街の狀況

家屋は狹隘なる平地の間に鐵道を挟みて驛附近に集團し、線路の北方は附屬地にして南方は支那街なり、然れども現在にては未だ市街と云ふ能はず、一個の部落に過ぎざるなり

四、官公衙其他の諸機關

支那街に巡警屯所、初等小學校、保衛團あり、又我鐵道附屬地に日本警察官吏派出所あり。

五、一般産物及特産物

當地の主なる産物は薪炭、杭木及柞蚕繭にして毎年當驛より發送さるる數量は、概ね杭木四千噸、木炭六千噸、柞蚕繭二百噸内外なりと、又當村の南方約八十支里の地點に鉛鑛ありて之より産出する粗鉛は年額約一萬五千噸に達し當驛を経て朝鮮地方に輸出せらる。

六、商工業

支那街に雜貨商十五、旅店六、料理店十、又附屬地に邦人の旅店一、木炭商六、煉瓦製造所一あるのみにして前記産物を中心として、商取引を行ひつつあるなり。

(ホ)、龍王廟

一、沿革及位置

當地は百餘年前の建設に成り大洋河を遡ること六十支里同河左岸に臨み、大孤山の東北四十五支里、安東縣を距る西北百四十支里、東北鳳凰城に至る百四十支里に在り、地勢は南方大洋河一帯に屬する方面は平野を成せども北方は山嶺起伏し交通甚た不便なり。

二、戸數及人口

戸數約三百、人口約千三百を算す。

三、市街の狀況

市街は南北二支里、東西約一支里に亘り、大小合せて約四十戸の商家を包容する半街半村の地なれども商業上殆ど見るべきものなし。

四、官公衙其他の諸機關

巡警局、税局、郵便局及小學校等あり。

五、一般産物及特産物

一般農産物と山繭、豆粕等あるのみ。

六、商工業



交通關係を有するは、海上に在ては芝罘に限られ穀物山繭等は凡て同地に移出し、雜貨も亦同地より之を仰ぐ、陸上の交通に至りては鳳凰城との間に來往あり、從て多少の取引關係を有するの外は附近四、五十支里内外の村落を顧客となすに過ぎず、然れども其一年間の移出入總額は約四十萬圓に達し悔り難きものあり。

此地の爲め惜しむべきは、唯一の交通路たる大洋河の年々土砂に災せられ其効用を減退しつつありて商業上に惡影響を與ふるの一事なり。工業に就ては特記すべきものなし。

五、寬甸縣

(1)、寬甸縣城

一、沿革及位置

當地は明の舊城にして元と土城なりしが、萬曆三十年煉瓦城に改築せられしものなり。後久しく封禁せられ荒蕪委せしが、同治十三年初めて開墾を許され、光緒三年(明治十年)置縣せられ、爾來漸次發達をなし今日に至れるものにして安東、通化街道上、安東の東北二百支里、鳳凰城の東北百八十支里、鳴綠江岸を去る西方百支里に位す。

二、戶數及人口

戶數五百、人口約三千を算し内商家二百戸あり。

(2)、市街の狀況

西に山を負ひ、東南は廣豁なる平野展開し、市街は東西南北の四街より成り中央に城樓あり。南大街には各種の商家軒を並べ稍々熱鬧なり。城は明代の舊城と稱せられ、城樓は現今甚しく廢頽せり。

四、官公衙其他の諸機關

寬甸縣公署、警察所、兵營、教育會、商務會、農務會、師範學校、農學校、高初等小學校、女子小學校、稅局、自衛團及關帝廟、城隍廟、財神廟、九聖宮、耶穌教堂等あり。

五、一般產物及特產物

產物の主なるもの農產品にして、附近に於ける產額は玉蜀黍十萬石、大豆五萬石、粟三萬石、雜穀一萬五千石外に柞蚕繭等及山貨の產出あり。

六、商工業

(1)、商業。商家は既記の如く大小合せて二百戸内外を算し、商務會之を管理す。其主なるものは雜貨商十二戸、油坊三戸、質屋一戸、藥舖三戸、旅店五戸、指物商三戸等なり。當地と經濟上密接なる關係を有するは、地勢上主として安東に限らる、これ東に鳴綠江、北に渾江、西に靉河ありて舟楫の便あるを以てなり。

又商業範圍は頗る狹小にして東西南は各三十支里、北方のみ四十支里に亘るに過ぎず。最近當市場に



集散せらるる物資の年額を擧ぐれば大約左の如し。

包米五千石、大豆六千石、豆粕三千枚、雜穀八千石、柞蚕繭五百籠、

綿布三百件、綿糸四十件、麥粉二千袋、石油二千箱、砂糖三百包、

燐寸三百箱、鹽四百石、燒酎十七萬斤、等なり。

(ロ)、工業。當地の工業としては、小規模なる鐵匠舗、磨坊、油坊、燒鍋等にして、其内油坊は三戸、其年製造高豆粕六千枚、豆油二萬八千斤なり。而して豆粕四割と豆油全部は當地及附近にて消費せられ、其他は總て安東方面へ移出せらる。

七、雜件

燃料は薪炭を主とし頗る豊富にして需用に應じ多數を購買し得べし。又飲料水は井水にして市内に五個あり、良質多量なり。當市より主要地に至る距離左の如し。

桓仁縣 二百支里、長甸河口 百支里

當地には世にも珍らしき長壽者あり、大正十三年一月取て百六十五歳にして、名を院國長と稱す。氏は最近生活の保證を缺き、各方面に生活費の寄附を運動中なりしが、今次楊宇廷氏は年々三百元宛終生寄附することになりたりと云ふ。

(ロ)長甸河口

當地は寬甸の正南約百支里、安東より鴨綠江を遡る約百五十支里に位し、對岸朝鮮の清城鎮と相對す戸數約百八十、人口千五百を算し内商家約五十戸に達し、寬甸縣佐公署、稅局、辦理豐稗局、巡警局鹽務局及中江稅局あり。背後には寬甸縣城を初め長甸、永甸、蘇甸、團甸子等の邑鎮を控へ、當地は該地方物資の吞吐口を成し、外察口(渾江口の十五支里上流の處)と並稱せらる、重要市場たり。移出物資の主なるものは山繭四千籠、大豆四萬石、豆粕二萬枚、燒酒四萬斤、雜穀五萬石にして、移入品は綿糸布六百件、麥粉六千袋、石油三千箱、鹽千五百石、其他雜貨四千件に達し、商勢は外察口を凌駕す。而して移出物資の過半は寬甸市場の仲繼をなすものなり。

(ハ)蒲石河口

太平哨の南方、鴨綠江の北岸に位置し、戸數約七十、人口約五百を算し内約二十餘戸の商家及自衛團稅局、小學校等あり尙ほ附近一帶の溪地を一括して俗に蒲石河口と稱する者もあるなり其全戸數九百内外、人口約六千に達す。

當地は附近物資の小集散地にして、移出入品は主として、安東縣及對岸朝鮮と最も密接なる關係を有す。

(ニ)太平哨

此地は別名を太平鎮とも稱し、桓仁より沙尖子を経て寬甸に通ずる道路上、寬甸を距る東方約百支里



に位する市街にして、戸數約四百、人口約二千を算し、巡警局、高等小學校、女子小學校、稅局、商務會、郵便局等あり。商家は大小合計約百戸に達し雜貨商、燒鍋、圖書館、湯屋等ありて商業盛なり。附近には鮮人多數居住し、水田を經營す。産物は柞繭、水稻米、木炭等其主なるものにして、安東方面に移出せらる。

(ホ) 木大遠子

當地は桓仁より沙尖子を経て寬甸に通ずる道路上、寬甸を距る東北方約百四十支里、沙尖子に至る東北四十五支里に位置す。戸數約八十、人口五百を算し巡警局、自衛團及燒鍋一、大なる雜貨店四、其他小舗等合計二十五戸あり。附近に於ける大部落にして主なる産物には木炭、山繭、水稻米等あり。敢て商業繁盛ならざるも、附近農民との間に日常の取引行はれ、一邑鎮たるを失はざるなり。

(ニ) 石柱子

當地は寬甸の東方石柱子河と鴨綠江との合流點に位置し、比較的大なる部落にして、戸數二百餘、人口千五百内外を算し雜貨、造酒業等十數戸の商家及巡警局、自衛團、稅局、小學校等あり。三面山を以て繞らされ附近部落を合すれば戸數千餘、人口六千餘に達す。

住民の過半は臚子(戎克)に乗じて安東、桓仁間物資の運搬に従事し、對岸朝鮮との貿易も相當盛なり。産物は人參を主とし豆、黍、粟之に次ぎ貂皮、獺皮、砂金亦少なからず。而して皮類及砂金等は奉天

方面に、人參は安東縣に移出せらる。

(ト) 大荒溝

當地は太平哨の東南方八十支里、鴨綠江右岸を距る北十支里の地點に位置し、戸數約五十、人口三百内外に過ぎざる小部落なるも、造酒業の大なるもの一外に雜貨商七、八戸あり、主として對岸朝鮮との間に取引行はれ、戸口の僅少なるにも不拘商的景況の見るべきものなしとせざるなり。

六、桓仁縣

(イ) 桓仁縣城

一、沿革及位置

當地は舊名を懷仁又は六道河と稱し元と荒涼たる原野にして未開放地に屬せしか、清の同治年間に至り山東方面より移民潛入し、土地の開墾又は採木を爲す者相踵ぐに及び遂に土地を開放し、光緒二年(明治九年)懷仁縣を設置し、民國二年桓仁と改稱せられたるものなり。

桓仁縣の略は中部渾江の沿岸に位し、通化の南西百九十支里、寬甸を距る東北六十支里、北西百九十支里にして興京縣永陵に達し之より奉天に通すべく、安東は南西三日乃至四日行程にあり。

二、戸數及人口

戸數約九百、人口六千二百を算す。



## 三、市街の状況

東西五支里、南北二支里、東西南北の四門を有せしが、現今は唯西北の二門を残すのみ。街衢の主なるものは東西に亘る一條にして路幅廣く車馬の往來頗る便なり。市は四圍の交通不便にして文化の程度甚た低く、隨て大商賈の存するもの尠く、殊に南に沙尖子あり、渾江の交易を獨占するの勢力あるを以て、山間の都邑其發達を見る能はざるのみならず、漸次衰境に陥るの傾向にあるは、此地の爲めに嘆ずべし。

## 四、官公衙其他の諸機關

桓仁懸公署、警察所、兵營、巡警局、保衛團、勸學所、稅局、教育會、商務會、農務會、師範學校、高等初等小學校、農學校、女子小學校等あり。

## 六、一般産物及特産物

葉煙草、藍、麻、大豆、豆粕、柞蠶、木材、藥材等なり。

## 六、商工業

(イ)、商業。大小の商家約百五十戸あれども、其内大なるものは五戸に過ぎず。其商業範圍も極めて狭小にして、東北各百支里に達せず。

移出品の主なるものは藍十萬斤、葉煙草五萬斤、麻五萬斤、大豆、燒酒、豆粕、柞蠶等にして年額約五萬兩内外なるが、其大部は安東に移出され一部は奉天、興京方面に移出せらる。

輸入貨物は安東より來り、主として布疋、綿花、石油、燐寸、茶、鹽、砂糖、紙類其他にして年額七萬兩に達す。當地方の農民は農産を持ち來り、其賣上代金を以て布疋雜貨等を購入する習慣なるが故に前記移入額は桓仁市場の商業範圍内に於ける農民の消費高を示すものなり。此事實は獨り桓仁に止まらず東邊一帯の都邑概ね斯の如し

(ロ)、工業。工業としては燒鍋四戸、油坊四戸、磨坊五戸あるも素より舊式作業に係り、規模極めて狭小にして論ずるに足らざるなり。

## (ロ)、沙尖子

當地は渾江の上流九十支里の左岸に位置し、太平哨に至る西方九十支里、北方水路百支里にして桓仁縣城に達す。恰も渾江の水運を利用する流筏者の宿泊地に當れるを以て、此等顧客相手の商業頗る活潑にして、大小の商賈軒を並べ市場殷賑を極む。

戸數約三百人口二千を算し、内商賈約百戸及巡警局、兵營、商務會、自衛團、郵便局、稅局、小學校等あり。

移出の主なるものは大豆、麻類、薪炭、木材、柞蚕等にして、年額約八、九萬兩に達す。移入は布疋雜貨にして年額十萬兩を起し、遙かに縣城を凌駕す、而して移出入共に安東と密接なる關係を有し、



出入民船は一箇年内に二百隻以上に達すと云ふ。  
然れども工業としては油坊一戸あるのみにして他に特筆すべきものなし。

七、臨江縣

(イ)、臨江縣城(帽兒山)

一、沿革及位置

當地は地名を帽兒山と稱し元と荒蕪地たりしが、後通化縣下の巡檢所在地となり土地開發に伴ひ、光緒二十八年(明治三十五年)通化縣の東境を割きて本縣を新設したるものなり。

通化縣の東二百八十支里、鴨綠江の北岸に瀕し、南は江を隔て、朝鮮の中江鎮と相對す。

二、戶數及人口

當地は最近に於て著しく發展を遂げ、現在戶數千六百、人口七千五百を算するに至れり。

三、市街の狀況

市街は城壁を有せず、背山臨江の狭小なる地域に存在し、東西二條南北二條の大街より成り對岸及江を上下航する槽子に依り取引盛に行はれ、商狀甚た活潑にして、發達の途上にあるも地形の關係上市街の擴張容易ならず、市民の苦心しつゝある所なり。

四、官公衙其他の諸機關

臨江縣公署、警察所、水上警察所、兵營、巡防隊、保衛團、稅局、電報局、郵便局、商務會、師範學校、高等小學校、初等小學校、女子小學校、採木公司分局等あり。而して縣公署所在地は高麗の舊城趾なりと云ふ。

五、一般產物及特產物

當地方は耕地少く、僅かに五道江より八道江に至る渾江の沿岸と三道溝、五道溝流域に於て狭少なる平野を見るのみ、爲めに產物は大豆、高粱、玉蜀黍、粟、燕麥等普通の農産よりも、特種品たる麻及葉煙草を多しとす。今此地を中心とする一帯に産する年額を示せば次の如し。

玉蜀黍	二萬石、	粟	五千石、	大豆	五千石、	高粱	五千石、
燕麥	五千石、	雜穀	二千石、	麻	約二十萬斤、	葉煙草	三萬斤、

六、商工業

(イ)、商業。當地の商家は大小二百餘戸あり、内主なるもの約二十四戸にして、商務會監督の下に商業取引を爲す、商業範圍は附近百支里内外にして、取引關係を有する地は安東を第一とし通化、奉天、長白等之に亞ぐ。鴨綠江水運の槽子即ち戎克の最上流埠頭に於て、一箇年間に於ける其發着數は七百隻以上に達すと云ふ。

又商務會の調査に係る一年間の移出入狀況を見れば左の如し。



移出

品目	数量	品目	数量	品目	数量
山人參	三〇〇斤	人參	三〇〇斤	大豆	九、〇〇〇石
粟	一、〇〇〇石	藥材	二〇、〇〇〇斤	麻	一七〇、〇〇〇斤
羊皮	三〇〇枚	狐皮	三〇〇枚	灰蠟	二〇、〇〇〇枚
				水獺	五枚
				牛皮	六〇枚
				玉蜀黍	三、〇〇〇石

移入

品目	数量	品目	数量	品目	数量
洋蠟	七〇〇箱	花旗布	四〇〇件	清水布	五〇〇件
大尺布	二〇〇件	綿絲	五件	石油	三、〇〇〇箱
砂糖	二〇〇包	紙	一〇〇件	茶	二〇〇箱
麥煙草	五、〇〇〇斤	麥粉	七、〇〇〇袋	鹽	五、〇〇〇石
燒酎	三〇〇、〇〇〇斤			雜品	二、〇〇〇件

燒酎 一五〇〇〇斤

前記移入品中約二割は八道溝、十三道溝、長白等に再移出せらる。

(甲)、工業。工業は油坊及鐵匠舖の二種にして、燒鍋なく所要燒酎は管内八道溝及濛江、柳河縣下の各地より移入せらる。油坊は大小十五戸あるも小規模にして其大部は兼業者なり。而して一箇年の總製造高は豆粕五萬枚、豆油二十五萬斤、内六割は安東に、他は當地及附近にて消費せらる。鐵匠舖は七戸あれども小規模にして輕易なる鐵具の製造を爲すに過ぎず。

燃料は無煙炭を使用し、當地の上流十二支里なる三道溝と四道溝の中間溪谷に産し、狸掘りにして一日二千五百斤の出炭ありと云ふ。

(ロ)、樺皮甸子

當地は帽兒山の東南方約五十支里、長白縣に通する道路上に位置し、來往人馬の宿站地に當る關係上戸數約百五十、人口一千に過ぎざる僻邑なれども比較的繁盛にして、小規模なるも商家約三十戸及巡警局、郵便局、小學校等あり。

對岸鮮人との間に行はる、取引及船子に依る移出入品の取引等相當に行はれ、物資の集散地として縣下に於ける重鎮たり。

(ハ)、八道江

當地は通化帽兒山街道の略ぼ中間に在りて、帽兒山より八十支里、通化に至る百二十支里に位す。戸數二百三十、人口千四百を算し、商家四十戸及縣佐公署、郵便局、巡警局、保衛團、小學校等あり。



通化より帽兒山に達する街路上、撫松に通ずる道路の分岐點に存在するより、恰も行路者の宿站地に當り且つ縣下唯一の平坦地に在るか故に、穀類の産出比較的多く年々相當の移出あり。其他木材の産出も亦少なからず、此等の關係上割合に賑かなり。  
工業としては燒鍋二あるのみなるも、其製品は當地の需用を充たして尙ほ餘力あり。其剩餘品は帽兒山方面に移出せらる。

八、輯安縣

(イ)、輯安縣城

一、沿革及位置

當地は地名を通溝又は洞溝とも稱す。昔時渤海、高句麗時代の古都にして、清朝となり永く興京府に屬し、巡檢を置かれたる所なるが、光緒二十八年通化、桓仁二縣の一部を割き輯安縣として獨立し、下流外寮口に縣佐公署を置き民國に至り東邊道に屬し今日に到りしものなり。  
鴨綠江の本流右岸、安東の上流約五百支里、通化の北方百六十五支里に位し、對岸平安北道江界郡伐登鎮と相對す。

二、戸數及人口

當地は再三馬賊の襲撃を受けし爲め、人口の増加遅々として進まず、最近に於ても尙ほ戸數三百、人

口千七百に過ぎざるなり。

三、市街の狀況

通溝市街は、從來東門西門のみを有し四圍に城壁なく門額に禹山の古都と記しありしのみなりしが、最近馬賊防禦の爲め工費七萬金を投して周圍二邦里の煉瓦壁を設け機關銃を備付けたり。市街は東西兩門を通ずる一條路にして他に見るべき街衢なし。東方十支里の東崗には東洋史上有名なる高句麗好太王の大石碑及第一、第二陵の舊跡あり。

四、官公衙其他の諸機關

輯安縣公署、警察所、兵營、水上警察所、巡警局、稅局、電報局、郵便局、鹽務局、監獄、教育會及高等初等小學校あり、外に大正六年七月以來我安東領事館警察官吏派出所を設け、巡查部長一、巡查巡捕各一名ありて鮮人の保護に任ず。

五、一般産物及特産物

當縣内は山脈縦横に走り平地甚だ少く江岸に沿ふて僅かに平野を存するのみ。従て著しき農産物なく他縣に比し農耕地の如き極めて僅少なり。試みに全縣下の耕地面積を見るに約四萬天地にして、上地二割、中地四割、下地四割の割合なり。今農産物の主なるものを見るに、包米を最多とし約三割を占め高粱、大豆、其他雜穀の順序なり。一天地の收穫量は上地五石、中地三石五斗、下地 石五斗の平



均にして、縣内に於ける一箇年の産額は大約左の如し。

包米六萬石、 大豆二萬石、 計十七萬石

高粱四萬石、 其他五萬石、

産物は前記の如くなるも當地に出廻る數量は僅少にして縣内の市場外寮口に及ばざること遠し。前記の外特産即ち山繭の産出少からず。現に蚕場は管内に約七百把剪子内外を有し、安東に移出せらるるもの一年約一千四百籠内外に達す。總て農家の副業にして春繭、秋繭の二種を放飼す。此外尙ほ葉煙草、麻、人參(約二萬斤)、木材等亦少なからず。

六、商工業

(イ)、商業。縣城の商家は大小四十餘家あるも元來當地は縣行政上の中心地に過ぎずして、市場たる勢力を外寮口に奪はれ漸く其後塵を拜するを程度にあり。隨て縣内の商業取引は外寮口を以て首位とし、其外江岸各所に小市場の分立する有様にして、一般の光景は寬甸縣のそれに髣髴たり。故に通溝市場は辛ふじて附近村落の物資を移出し、又其日用品の供給地たるに過ぎず。故に商業上安東と直接取引の關係を有するも其額極めて少なく、金融機關亦見るべきものなし。

(ロ)、工業。當地に於ける工業は何等見るべきものなく從て特筆すべき資料なし

七、雜件

本縣下には鮮人の居住者最も多く、東邊道中第一位を占め、其大部は水田從業者にして、他は畑地の小作又は自作に従事し一部は旅店等を營みつつあり。今鮮人の分布状態の大勢を聞くに左の如し。

地名	戸數	人口	地名	戸數	人口	地名	戸數	人口
通溝	四〇〇	二、二〇〇	融和堡	八〇〇	四、八〇〇	外寮口	一、一〇〇	六、〇〇〇
大平溝	七〇〇	四、一〇〇	冷水泉子	四〇〇	二、二〇〇	小盤溝	三〇〇	一、四〇〇
大清溝	四〇〇	二、二〇〇	雙岔河	三〇〇	八〇〇	祥和堡	五〇〇	二、四〇〇
大黃溝	三〇〇	一、四〇〇	泰和堡	三〇〇	一、四〇〇	計	五、五〇〇	二六、九〇〇

(ロ)、外寮口

一、沿革及位置

當地は沿革として擧ぐべき事項に乏しきも、光緒二十八年輯安縣の獨立すると同時に縣佐公署を置かれ今日に及べるものにして、通溝の下流百支里、鴨綠江の右岸に位し、別名を外岔溝門又は外寮溝門とも稱せられ、鴨綠江の流域に於ける有数の集散市場として知らる。

二、戸數及人口

二戸數二百五十、人口一千五百を有す。



三、市街の状況

市街は西北に山を負ひ、南に鴨綠江を控へ、江を隔てて朝鮮の楚山城と相對す、輯安縣下の一邑に過ぎざるも道路の兩側には商家軒を竝べ市況活發にして殷賑なり。

江上往來の槽子は全部當地にて、其船舶及積載貨物に對し検査を受く。

四、官公衙其他の諸機關

縣佐公署、商務會、巡警局、水上警察所、郵便局、小學校、中江稅局、斗秤分局等あり。

五、一般產物及特產物

產物は大豆、豆粕、包米、高粱等一般產物の集散を見るの外山藟、燒酒、木材等の產出あるも何れも其數量多からざるなり。

六、商工業

當地の商取引は主として安東及對岸貿易にして、商務會の調査に係る輸移出入額を見るに、輸移出品は大豆三萬石、豆粕四萬枚、包米、高粱、雜穀等三萬石、山藟千籠、燒酒六萬斤にして尙ほ外に木材、木炭、薪等も相當に移出さる。又最近に於ける輸移出品は雜貨、麥粉、砂糖、鹽等にして其價格約百萬元に達すと云ふ。

對岸雲米川里、新島城等を経て僅に二、三里にて楚山に通じ境上貿易盛にして楚山の鮮人は獸皮、鹿茸

等を持ち來り日用雜貨を購求するを常とす。

(ハ)、榆樹林子

當地は外察口の上流三十支里、江の右岸を距る約一支里の地に位し、戸數百五十、人口約八百を算し、巡警局、保衛團、郵便局、小學校等あり。江岸上流に於ける屈指の一邑なれども、光緒十八年(明治

二十五年)頃土匪蜂起の際兵火に災せられ、其過半を烏有に歸し發展上に大なる支障を來したりと。

現在は商家約三十戸(内燒鍋一あり)を有し鴨綠江上流に於ける大豆の集散地として知らる。又木炭、薪等の產出も少なからざるなり。

對岸鮮人との間に行はるる取引は案外頻繁にして略ほ外察口に髣髴たり。而して鮮人は主として牛皮、米等を持ち來り、綿紗其他の雜貨を持ち行くを例とす。

九、長白縣

(イ)、長白縣城

一、沿革及位置

當地は清朝當時興京廳に屬せしが、光緒三十四年(明治四十一年)長白府設置せられ撫松、安圖の二縣を管轄せり。後民國二年府を廢し、縣治を布き東邊道尹の管下となり今日に至りしものなり。

別名を塔甸と稱し、鴨綠江本流の右岸安東の上流水路三百八十裡、帽兒山より陸路三百二十支里、水



路百二十哩の地點に在りて河を隔て朝鮮の惠山鎮と相對す。

二、戸數及人口

當地方に深山幽谷の山林地帯にして未だ文化の度進まず、従つて人口も亦稀薄にして戸數四百五十、人口二千六百を算するに過ぎず。

三、市街の狀況

市街は四圍に山を繞らしたる山麓の一小平地に在りて、東西に通ずる三條と之を西方に於て横斷せる小街より成り、素より僻陬の一小市街に過ぎざれども、街幅割合に廣く、又木材の産地丈けに家屋の構造可良にして一般に清潔なり。

四、官公衙其他の諸機關

長白縣公署、警察所、税局、巡防隊、遊撃隊、郵便局、電報局、師範學校、高初等小學校、女子小學校、鴨綠江採木公司長白分局及我安東領事館出張所、商務會、保衛團等あり。

五、一般産物及特産物

當地方は吉林省に於ける山岳地帯にして、農産物としては見るべきものなきも、木材、藥草或は毛皮類及砂金等あり。

六、商工業

(一) 商家は大小を總算すれば百五十戸にして、前記の如く朝鮮の惠山鎮と指呼の間にあるも互に輸出入の關係至て少く、唯兩國民が自由に往來して、支那側は日本雜貨を惠山鎮に、朝鮮側は煙草、支那靴、砂糖等關稅關係上安價のものを長白に購ふ日常取引は、意外に頻繁にして、若し二國の上に服裝の相違なきに於ては、異領土間の兩市街とは思はれざる程なり。

(二) 雜貨の移入關係は主として帽兒山にして、支那電報又は對岸の日本郵便電信を利用す。工業としては土式磨坊約三十戸あるも、規模小く特記の價值なし。尙ほ當地方の重要交通路は帽兒山と陸路官道三百二十支里馱馬を通し、水路百二十哩高瀨船を上下し安東方面行把頭苦力等は徒歩又は筏及支人經營の高瀨船に便乗するも、一般旅客は多く對岸惠山鎮を経て新昌に出て、元山より鐵道を利用す。又木材の安價なるを利用し日本式高瀨船を粗造(造船費一隻約三百元)し、山貨を積み安東に下り船體積荷共に之を賣却するもの少からず、要するに當管内は木材以外何等經濟的價值あるものなく、唯伐木業者の來集を生命となすものと見て過ちなし。

(三) 金華鎮

當地は長白の西方約四十支里に存在する一部落にして何等見るべきものなきも、車站(馬車宿)地として知られ、又なくて叶はぬ所にして、戸數約六十、人口三百餘に過ぎざれども巡警局、保衛團等あり然れども産物は木材及山貨の外になし。



要するに當地は長白より帽兒山に至る間に於ける宿驛地にて、毎年十月頃より翌年四月頃迄は、人馬の來往頻繁にして日常輕微のものなれども此等往來者との間に種々の取引行はる。

(ハ)、十三道溝

當地は長白街の下流三十七湮の地點に位置し、江を隔てて朝鮮の新架坡鎮と相對す。戸數約二百二十人口一千百を算し、巡警局、巡防隊、商務會、郵便局、小學校、採木公司分局等あり。

商家は約三十戸にして毎年七、八、九の三箇月は市況閑散なるも、木把の來集する十月頃より翌年五、六月頃迄は市況活氣を呈す。而して一箇年に來泊する高瀬船は三百五、六十隻に達すと云ふ。

移入品は主として水路に據り帽兒山より送らる。其品種は燒酎、豆油、石油、麥粉、包米、綿糸布、砂糖等にして、一箇年の取引額は十四、五萬元に達し、物價は安東の約二倍、帽兒山の一割五分増なるを常とす。

山岳丘陵多く農耕地少なきを以て、土地の收穫穀物のみにて需要を充すに足らざるが故に、其不足分は下流十二道溝及帽兒山等より移入す。

當地安東間の通信は、日本郵便(對岸新架坡經由)九日、支那郵便十三日を要するより、前者を利用するもの多し。又對岸の影響を受け日本紙幣の流通多し。

(ニ)、八道溝

當地は長白の下流七十五湮、安東の上流三百五湮、鴨綠江の右岸に位し、臨江、長白兩縣界にありて朝鮮の富山洞と相對す。

戸數約二百、人口一千を算し巡警局、水上警察、巡防隊及游擊隊、郵便局、小學校、採木公司十三道溝分局出張所あり、採木公司是將來分局を當地に移し、十三道溝を出張所とするの計畫あり。

帽兒山十三道溝の中間に當り物資の仲繼地なれども、市況は却て十三道溝を凌駕する狀況にあり。街衢を成すは一小部分にして四圍に農耕地少く、從て産物は木材其他山貨の類なれども、地理的關係と木材業務の進展に幸せられ、將來發達の象徴十分なるは、此地の爲めに喜ぶべし。

一〇、安圖縣

(イ)、安圖縣城(娘々庫)

一、沿革及位置

當地は鴨綠江節に謠はるる白頭山の北方にあり、安圖縣城の所在地にして、馬賊の横行甚しく、何れの方面よりするも交通不便なる爲め世上其名を知るもの多からず。日本人にて當地に足を入れたるものは、今日に至るも恐らく五指を屈するに足らざるべし。別名を娘々庫と稱し吉林の東南、海龍の東方各約六百支里、長白の北方約五百支里、撫松の東約三百支里に位し、何れの地よりも入る事を得るも、吉林若しくは朝鮮の惠山鎮よりするを最も便利とす、然れども樵夫、狐狸の外通行せざるが如き



惡道なれば何れも二、三泊の露營を要す、夏季は比較的凌ぎ易きも冬季に於ては多少の困難を覺悟せざるべからず。

二、戸數及人口

戸數約四百、人口約二千二百と稱せられ、殆ど舉て支人にして、周圍の地方には鮮人の居住者多きも市内は約三十人を數ふるに過ぎず、勿論日人其他外人の居住者一人もなし。

三、市街の狀況

興龍江支川の左岸に位する平地中に在りて、新開地なるが故に街衢は新規畫の下に建設せられ、比較的整一にして家屋の構造亦見るべきものあり、殊に旅舎及風呂屋の如きは清潔にして大都市のものに比し遜色なし。

四、官公衙其他の諸機關

安圖縣公署、警察所、税局、郵便局、小學校等の諸官公衙あり。又名のみなれども商務會もありて、會員も相當の數に達するが如し。

五、一般産物及特産物

一般の産物としては粟、高粱の類なれども土質の肥沃なるより、粟の如き狐尾大に發育し美味を以て知らる、然れども概して山地多く西方、南方等に遙に森林地帯を控ゆる關係上人參、茸及麻、煙草を

産し、又稍々奥地の山間には阿片の栽培盛なり。

六、商工業

山間の僻地にして商家は大小合して五十戸に過ぎざるも、商業は比較的活氣あり、物資の集散關係は殆ど吉林方面にして、交通上安東及鮮地とは殆ど没交渉なり。

七、雜件

當地方一帶は馬賊の大頭目長江好一派の繩張範圍にして彼等の跋扈甚たしく、大正八年の如きも彼等の爲めに占領されし程にて官憲の影薄く、加ふるに不逞鮮人亦此邊を巢窟となすが故に、當市内は兎も角、一步外に出つる時は無政府状態の危険を免る能はざるなり。土地の肥沃なるに拘はらず開發の遅々たるは全く之に原因するものにして、此障礙を除去するときは、將來大に發展すべき素質を有するも惜しむべし。

一一、撫松縣

(イ) 撫松縣城

一、沿革及位置

當地は元と長白府に屬せしが、宣統元年(明治四十二年)其一部を割きて新に置縣せられたるものにして、臨江縣の北方二百二十支里、吉林省濛江縣の東方百三十支里、松花江の上流奉吉兩省の境界に



位す。

- 二、戸數及人口 戸數七百、人口約二千八百を算す。

三、市街の狀況

當地は別名を犛牛哨又は双句子と稱し東西約一支里南北二支里に達するも、周圍に城壁なく新設の市街にして、建築は割合によりしく各種商店竝列し市内賑に且つ清潔なり。

四、官公衙及其他の諸機關

撫松縣公署、警察所、保衛團、監獄、稅局、郵便局、教育會、農務會、高等初等小學校、女子小學校、勸學所等あり。

五、一般産物及特産物

穀類及麻、葉煙草、藥材、皮革類等を主とす。

六、商工業

當地は僻陬なる新設市街なる爲め、其商業範圍は僅に附近の村落に限らるるも、地方の開墾と共に移民増加し、其集散物資は逐年増加し多少移出する状態にありて、市況稍々見るべきものあり、今當地に於ける商家を擧ぐれば左の如し。

磨坊	一五、	雜貨舖	七〇、	木匠舖	六、	藥舖	五、	肉舖	五、
書舖	一、	靴鞣舖	〇〇、	成衣舖	四、	澡塘	二、	燒鍋	一、
鞋靴舖	三、	銀匠舖	二一、	鐵匠舖	五、	染坊	一、	皮舖	一、
飯館	五、	糧車店	八一、	旅店	八、	鑄爐	一、	饅蠟舖	一、
瓦盆窯	一、	油坊	五、	計	一四八戸				

而して當地と取引關係を有する地方は臨江、濛江、吉林等にして移出品中穀類、麻等は主として臨江に、皮革類は吉林に、藥材(人參、茸類)は遠く奉天に移出す。日用諸雜貨の移入も亦前記の諸地よりせらる。當地より各重要鎮に至る距離左の如し。

濛江縣城	一三〇支里、	吉林省城	八七〇支里、
夾皮溝	二八〇支里、	官街	四五〇支里、
長白	四五〇支里、	安圖縣	五〇〇支里、
帽兒山	二二〇支里、		

工業に屬する燒鍋、油坊、磨坊等は何れも土式製法にして、其製品は悉く當地方に於て消費せられ、他地方に移出の力なし、以て其程度を推知すべし。

一三、撫順縣



(イ) 撫順

一、沿革及位置

當地は日露戰役當時迄は寂寞たる一小部落にして僅かに炭坑の存在によりて其名を知られしに過ぎざりしが、炭坑の我經營に移りてより俄に長足の發達を遂げ、今日の繁榮を見るに至りしものなり。撫順城は明時代の創築に係る古城にして、千戸所を置き渾河の上流右岸に撫順關を設け以て東方に對する關門となしたるが、清の太宗明軍を撃破し長驅遼陽に南進するに及び、此地に旗人を駐屯せしめ佐領をして之を管せしめしと云ふ。

此地は撫順支線の終點に位し、分岐點たる蘇家屯驛より三十九哩九分に在り。

二、戸數及人口

最近に於ける戸口左の如し

地 別	戸 數	人 口
鐵道附屬地	六、一四八	四六、〇〇〇
附屬地外	一、一九二	一九、〇〇〇
城 内	四〇〇	二、〇〇〇
計	七、七四〇	六七、〇〇〇

三、市街の狀況

市街は南に千金寨の高地を負ひ、西南は古城子の村落に接し、渾河によりて南北二部に分たる、北部は即ち城内にして南部は濠を隔てて新舊の二街に分たれ、舊市街は支那部落の擴張されたるものにして、道路狹隘街衢甚た不規則なれども、日支商人雜居し大小商舖櫛比し、炭坑従事者を顧客として甚た殷賑なり。

新市街は滿鐵の經營に係り基盤形に區劃せられ、停車場の北方本町通りを中心として縦横に通じ、道路は歩道、車道に區別し、上下水道及電氣瓦斯の設備整ひ、建築は總て煉瓦を以てし、本町及大和の二公園を設け、宛然歐米風の一新市街を形成す。

撫順城は城壁極めて小規模にして、南北二門を開き此兩門を通ずる大街上及城外なる大街には商家多く、城内は旗民の住するもの多かりしが漸次衰微し現今は甚だ寂寞なり。城北を繞る山脈は清朝の所謂龍脈なり。日露戰役に於ても露軍は此山脈を天險として據りし所にして、今尙は露軍の築きし保壘の跡を留む。

此北門外の丘頂に一基の白塔あり、星霜幾百年古色愛すべく、登りて四望すれば脚下に渾河の流るるにあり、全市街を一時に納むるを得て、風光賞すべきものあり、山腹に觀音閣あり、故に之を觀音寺とも稱す、境内に一碑ありて、撫順十六景の名を彫刻す、丘陵に露軍の經營せし公園あり、花木既に



長し陽春杖を曳くに足る。

四、官公衙其他の諸機關

日本側。警察署、守備隊、郵便局、中學校、女學校、鑛山學校、小學校、幼稚園、實業補習學校、公學堂、圖書館、公會堂、滿鐵炭坑事務所、同醫院及各種銀行、會社等あり。

支那側。撫順縣公署、瀋陽地方審判廳分廳、警察所、稅局、郵便局、電報局(以上舊市街)、巡警局、稅分卡、小學校、八旗學堂、簡易師範學校、教育會、商務分會、自治會、郵便局、差遣隊(以上城内)等あり。

五、一般產物及特產物

附近一帶は土地概ね肥沃にして到る所良く耕作せられあるも、東進するに従ひ漸く山岳連亘し、平野亦砂礫を混へて農耕に適せず。

產物は大豆、玉蜀黍、高粱等にして渾河沿岸には米の產出あり。石炭は其產額頗る多く現採掘年量は既に六百萬噸に達し、炭量の豊富なる事東洋に其比を見ずと云ふも過言に非ざるなり。

六、商工業

(イ)、商業。當地の産業としては、礦業及之に關連する工業以外、物資の生産は僅に農產物あるのみにして、而かも其大部は當地に於て消費せられ他に移出するもの多からず。之に反し物資の需要状態は、

炭坑なる大集團を控ゆる關係上比較的活潑にして一箇年を通じ移入せらるる各種食料品及日用雜貨類は巨額に達し、殆ど全部當地に於て消費せられ只食鹽、麥粉、綿布等の少しく奥地に搬出せらるるものあるのみなり。而して此等物資は大連、奉天、營口、鐵嶺等より移入す。

水稻粳は興京、柳河、北山城子方面より移入し、粟其他の穀類にて京奉沿線より移入せらるるものあり。要するに當地は、生産地にあらざして消費地なりと云ふを得べし。城内は千金寨に繁榮を奪はれ、

商況衰退し特記の價値なし。今最近に於ける撫順驛重要貨物の發着年額を擧ぐれば次の如し。(單位噸)

品名	發	着	品名	發	着
大豆	五三、九二二	七四	米	三、三五二	一、四六二
高粱	七七二	三、〇六三	玉蜀黍	二、四四六	一四七
其他穀類	一、〇六四	三、八五五	柞蚕	三四〇	二
煙草	三六八	四六九	林產物	二、一一一	四、七二二
石炭及コックス	五、四六、〇〇〇	一、八〇七	礦石	六、七八二	一、四一〇
水產物	三二	一一、一五一	豆粕	一七、九〇六	二



飲食料品	六五〇	九、七六一	布帛類	一、三三三	一、三九二
金物類	一、七〇七	一、八九三	セメント及石灰類	六、一九	一、〇八四
藥品及藥材	七、八二五	三、二二〇	染料及塗料	三、三四七	七、九四二
肥料	五八五	三	石炭は十二年度、其他は十年度の數字とす		

(ロ) 工業

1、採炭業。撫順炭坑は遠く七百餘年前既に高勾麗人によりて採掘せられしものなるが、一度支那人の手に移り、更に露國勢力の東漸と共に東清鐵道會社の附帶事業となりたり。然れども經營僅に二箇月餘にして日露戰爭となり、其結果我軍の手に入りしが、南滿鐵道會社の設立せらるるに及び同會社之を繼承せり。炭田は渾河の南方に位し東西約十哩に亘り其炭層の厚さは、最薄七十八尺最厚二百八十尺平均百三十尺にして、炭層中の夾雜物は厚さ二十尺を超えず、總炭量約十億噸に上ると云ふ。而して其採炭量は戰爭當時にありては一日六、七百噸に達したるも其後一時三、四百噸に下りしが、滿鐵の經營に移るに及び其規模を擴張し、千金寨、楊柏堡、老虎台の三坑より東郷大山の二大鑿坑を開掘し、次で萬達屋、龍鳳の斜坑、古城子の露天掘を開始し、一日約一萬七千噸の出炭を見るに至れり。尙ほ千金寨の露天掘及新屯の二採炭所の開鑿に著手し又採炭をして最も經濟的且

つ危険の程度を減少せしむる目的を以て、從來の採掘法を填砂法に改めたり。今累年の出炭量を見るに左の如し。(單位噸)

明治四十年	二、三三三、三二五	大正八年	二、九二八、一八六
大正元年	一、三四三、一九八	大正十年	三、〇二〇、二八三
大正四年	二、二六九、二四五	大正十一年	三、九二一、七二一
大正六年	二、二七五、九〇五	大正十二年	五、〇二九、五六一

(イ) 尙ほ炭坑の附帶事業として一般電力供給、電氣鐵道、瓦斯水道、硫酸工場、骸炭工場、モンド瓦斯等を算ふべく、就中モンド瓦斯發電所は、規模大にして斯業の好模範として推奨するに足るものありと。  
 2、精米業。當地には精米所十箇所あり、其内一個は合名組織にして他は總て個人の經營に屬す、何れも電力を用ひ、年生産高約三萬四千石に達す、其原料粳は前述の如く當縣内及興京、柳河、北山城子地方より移入し其販路は主として當地方及大連、旅順等にして一部は遠く哈爾濱地方に輸送せらるるものあり。  
 3、榨油業。油房二十個に達し、一日豆油約四萬二千九百斤、豆粕八千五百八十枚の製造能力を有す。  
 4、製粉業。二戸あるのみ而かも舊式にして一日約二百斤一箇年約七萬二千斤を製出す。



5、酒造業。燒鍋は一戸にして一班を有し、一日約四百五十斤年額十三萬斤を製造し、一半は蓋平復州地方に移出せらる。

6、石灰製造業。二十五戸ありて一年の製造高約五十萬斤内外なりとす。

7、製革業。製革所四戸ありて一箇年牛皮六百枚精製し専ら當地に於て消費せらる。

以上の外最近滿鐵が、當地産の油頁岩を利用して開始せんとする製油營業は、炭層の上盤として存在せる約四百尺の原層を原料となすものにして、其見積總量は實に五十五億噸の巨額に達し、之より三億噸(米國に於ける埋藏總量の五分の一)の重油を得んとするものなりと。果して豫定の實現を見るものとせば我國の經濟上、國防上一大福利を増すものなり。

(ロ) 萬達屋

撫順の東方約十五支里の地點に在り。撫順炭坑區内に屬し、萬達屋採炭所あり。附近部落を合し戸數約五百、人口三千を算し、内商家二十戸及巡警局、小學校、廟等あり。

産物は石炭、大豆、高粱等なれども、要するに當地は農本部落にして商工業としし特記すべきものなし。

(ハ) 下章黨

當地は撫順より東北方海龍城に通ずる道路上二十支里に位し、戸數約三百五十、人口約二千を算す。

商家は二十四戸にして客棧七戸、油坊一戸、巡警局、小學校、郵便局、廟等あり。

産物は大豆、高粱、木材等其主なるものなれども、商工業に就ては特に記すべき程度に達せざるなり。

(ニ) 唐爾屯

當地は撫順より東南方本溪湖に通ずる道路上、約五十支里の地點にある部落にして、一名唐力屯とも稱し、戸數約七十、人口四百に過ぎざるも、商家約二十戸を有し巡警局あり。附近一帶は概ね平坦にして農耕地多く大豆、高粱、包米等の農産物に富み撫順方面に移出せらるるもの多し。而して日用雜貨の大部は撫順方面より移入す。

(ホ) 東社

當地は撫順より興京に通ずる路上、撫順を距る約七十支里の地點にあり。戸數約三百三十、人口約千八百を算するも、其内商家は僅に五戸にして保衛團、小學校、廟あるに過ぎず。

産物は主として大豆、高粱、水稻米にして當地の需用を充し、尙ほ餘力あり。其剩餘は撫順方面に移出せらる。然れども大體に於て農本部落にして、戸口比較的多きに似ず、商工業の見るべきものなし。

(ヘ) 馬群丹

當地は撫順より本溪湖に通ずる道路上約七十支里に位する部落にして戸數八十、人口五百を有するに



過ぎざるも、比較的富裕にして家屋の如きも煉瓦造多く、瀟洒なる田舎部落を形成す。附近一帯は肥沃なる農耕地多く、主なる産物は大豆、高粱、包米等にして、大部は撫順方面に移出せらる。同時に雜貨も殆ど撫順方面より移入を仰ぎ更に附近部落に供給す。

營盤

當地は奉天通化街道上、撫順の東方八十支里、興京の西北七十支里、蘇子河と渾河との合流點に位し、北東すれば海龍城に、東すれば通化に至る。

戸數約三百五十、人口二千を算し内商家約百戸及巡警局、保衛團、稅局、郵便局、小學校等あり。附近に肥沃なる農耕地を扣ゆるが故に大豆、蜀黍、粟、玉蜀黍及野菜等の産出多く、且つ古くより木材、木炭の集散地として其名を知らる。

工業としては豆素麵製造所、油坊等あるも舊式且つ規模小にして、漸く土地の需要を充すに止まり特記の價値なし。

一三、本溪縣

(イ)、本溪湖

一、沿革及位置

此地は舊名を審街と稱し、古くより缸窰の産地として知られ、今尙其專業者少なからず。又製鐵事業

に關しても、清朝乾隆年間より著名なりしなり。本溪縣公署及安奉線本溪湖驛の所在地にして、鐵道により奉天、安東方面へ自由に交通し得るのみならず、南方五支里に太子河の西流する關係上、貧弱なれども其上下流に對し水運の便を併有す。元と當地は遼陽府の治下でありしが、光緒三十一年(明治三十八年)遼陽、鳳凰、興京三管内の地を割きて一縣とし縣衙を置きたり、之を此地に於ける縣治の創始とす然るに土地邊境にして且つ清朝の國運漸く傾き威令殆ど行はれざるより、遂に馬賊の巢窟と化するに至りしが、時恰かも日露戰爭に遭遇し、彼等一團の自ら我指揮に入るに及び當地の治政は一時我軍政下に歸するに至れり、一方時の知事亦諸制度を革新し諸機關を整頓する等、彼此相俟ちて住民堵に安するを得たり、次て鐵道の敷設となり、交通の開始は大いに商工業の發達を促し、諸般の設備漸く整ひ遂に今日の盛況を見るに至りしものなり。

二、戸數及人口

當地の住民は、支那本部より移住し來りし漢人最も多く滿人之に次ぐ、日人は大正七、八年頃には戸數約八百に達せしが現今は半減して戸數約四百、人口千六百に過ぎざるなり。支那人も亦從前に比し稍減少し、現在は戸數約四千、人口約二萬と稱せらる。

三、市街の狀況

四圍山を以て繞らされ土地比較的狭小なり、市街は恰も摺鉢の底の如き所にありて、東西に長く不規



則なる街衢を成し、火連案河は市の中央を東に貫流して支那街を東西二街に分つ。而して河西は炭坑、熔鑛爐、缸窯等の工場及此等従事員の住宅地にして、河東は商業區をなす。新市街は河東街の東端に接し、滿鐵の經營に係り、家屋は日本式木造のもの多し。戸口は一時大いに増加せしも財界の不況は當地にも波及して事業に一頓挫を生じ漸減せしが、其後は遂次恢復し旺盛に向ひつつあるは此地の爲め喜ぶべし。

四、官公衙其他の諸機關

日本側。守備隊、警察支署、郵便局、滿鐵地方事務所、同保線區、同醫院、小學校、幼稚園、日語學校、家政女學校、實業補習學校等あり、支那側。本溪縣公署及其附屬機關、警察所、地方審判廳、兵營、鐵路巡警局、郵便局、電報局、商務會、高等初等小學校、補習學校、廟等あり。

五、商工業

(イ)、商業。商工は因果關係にあるを常となすも、當地は例外に屬し工業の盛なるには似ず商業不振なり。即ち商家數約三百五十を算するも、或種の物資を邦人側は日本内地或は大連に仰ぎて、之を在留日人に供給し、支那側は奉天及遼陽等より移入して、當地一帶及城廠方面の需要に應ずるに止まり取引旺盛ならざるなり、試みに最近當驛發着重要貨物の數量を見るに左の如し。(單位噸)

品名	發	着	品名	發	着
大豆	八、一六五	一一	石炭	一三三、二二二	四、九六七
高粱	三二一	六二五	鑛	九、二一一	五三、四四二
小豆	一、六一二	五六	コークス	一七、三六二	一
柞蚕	四〇四	七	石灰	一八、九九五	一
木材	一一、七一二	一	豆粕	二、七五六	一
薪炭	一七、一三三	七、五一九	鐵及鋼	三三、九二〇	四〇〇
石油	七六	一九九	麥粉	一九八	二、二三九
鹽	三三六	四九九	布帛類	一二八	一、〇三一
		二、七二七	煉瓦	一一三	一、四七〇

(ロ)、工業。當地は前述の如く工業地たるより諸種のものあり、今其主なるものを擧ぐれば、本溪湖煤鐵公司、本溪湖石灰株式會社及缸窯業等之なり。

煤鐵公司是資本金七百萬元を有し、日支合辦にして炭坑及製鐵業を兼營す。我大倉組が始めて本鑛山に手を染めしは明治三十八年にして、當初煤鐵公司と稱し資本金も二百萬元なりしが、爾來幾多の曲



折を経て製鐵部をも兼營するに及び、大正三年遂に資本金を七百萬元となし以て今日に及べるものなり、製鐵部は二基の鎔鑪を有すれども目下は一基のみを使用し、其一晝夜の製造高は約百三十噸なり而して其原料は廟兒溝の磁鐵鑛最も多く外に依川褐鐵鑛及安岳の赤鐵鑛を使用し、其製品の販路は大阪方面なり。

炭田は當市街の東北端より鐵道線路を横斷して南西に進み、其面積千三百六十四萬坪に達す。炭質は古世代石炭紀層に存在する半無煙炭にして火力甚だ強し。現在採掘中に屬するもの三坑ありて、一年の出炭量は三十萬噸内外なり。今參考迄に既往の採炭量を示せば次の如し。

大正元年	十四万九千四百六十三噸
同 二年	二十七萬七百八十二噸
同 三年	三十萬千十四噸
同 四年	二十七萬五千七百七十七噸
同 五年	三十二萬二千六百二十六噸
同 六年	四十三萬八千九噸
同 七年	三十七萬三千七百二十噸

煤鐵公司は又其附帶事業として發電所を有し公司用は勿論市内及附近に電力を供給せり。

又支那式骸炭窯總數二百個を有し、順調なる作業による歩留は六十「パーセント」にして、製造時間は裝入より取出を終る迄約二週間を要すと云ふ。此外製鐵配合剤に必要な石灰石を採掘す、石灰石は當炭田の基盤を形成し、分布頗る廣く其量も殆んど無盡藏に近しと云ふ。

前記の如く當地の石灰石は其量頗る多きより、邦人は此地に石灰製造業を經營す、窯は二箇所にして一日各四萬餘斤を製出す。

當地の缸窯は夙に其名高く往時は土人の主要財産を構成せりと云ふ。現在市内に四戸牛心台に三戸の營業者ありて各種甕類を製出す、其質硬く廣く支人間に賞用せらる。

(ロ)、火連寨

一、沿革及位置

當地は約二百餘年前山東、山西方面よりの移民の集團に成り北石橋子より來る道路と西遼陽に通ずる道路の交叉點にありて北方を圍繞せる山の上には沙河會戰當時近衛後備第一聯隊の敵を阻止せし堡壘の跡あり。

三驛は臨時軍用輕便鐵道布設當時の開設にして四十年四月滿鐵會社の經營に移り次て四十四年一月廣軌線開通と共に約一支里の舊火連寨より移轉せしものにして、奉天より南方四十四哩、安東の北百二十七哩の地點にある安奉線中間驛たり。



二、戸數及人口

戸數、日本人十三、支那人三百、人口、日本人四十五、支那人一千八百内外なり。

三、市街の狀況

四面山嶽を以て圍繞せらるる山間の一邑鎮にして、鐵道附屬地は殆ど滿鐵従事員の社宅のみと稱して可なるべく、又支那町即ち火連寨には店舗十數戸軒を並べ食品及日常の雜貨を販賣しあり。當地は鐵道開通前に在りては牛心台方面より奉天、遼陽に通ずる道路の交叉點に當りしより石炭積馬車の通過日々數百台に及び多少繁榮なりしが、今や馬車の通過するもの少く市況寂寞を極め只僅に瓦葺の店鋪并に比較的大なる家屋の存在に依り繁盛時代の跡を偲ふものあるのみ。

四、官公衙其他の諸機關

日本側、警察官吏派出所

支那側、巡警局、小學校、郵便局、廟宇

五、一般産物及特産物

主要物産は大豆、米、高粱、玉蜀黍、粟等の農産物にして、外に石灰の産出頗る莫大なるものありて、日支合辦振興公司に依り探掘經營されつつあるなり。

六、商工業

當地の主要産物は上にも記せし如く農産なるも、土地狭く其産額隨て多からざるを以て他への移出力少く爲めに日用雜貨の販賣に従事の店舗十數戸に過ぎず、又工業としては石灰以外に二個の油坊あれども規模小にして特記するに足らざるなり。

い、牛心台

一、沿革及位置

牛心台は本溪湖の東北方約三十支里、溪城鐵路公所の經營に係る太子河、牛心台間十哩(營業哩)輕便鐵道の終點に當り、太子河の左岸を距る約二支里の地點にありて、上牛心台、下牛心台の二部落より成り、驛は上牛心台にあり。驛の東南方一帯は勾配の緩慢なる丘陵地にして、所謂牛心台炭坑(紅臉溝、大南溝、小南溝、王官溝、關家坎等を總稱す)は此地より溪谷を南東に入ること四支里餘の地方に點在す。又太子河の右岸に聳立する山岳に相對し、太子河に沿ひ幅約四支里、長約十二支里に亘る平坦なる耕地あり、地味良好にして太子河は其間を東より西に貫流す。

二、戸數及人口

戸數、上牛心台二十二(内日人二戸)下牛心台三百、人口、上牛心台百二十、下牛心台千五百を算するも内商家三戸、旅店一戸、廟一あるに過ぎず。

三、市街の狀況



上牛心台は驛の所在地にして、鐵道關係建物數棟あるのみ他に見るべきものなし。下牛心台は上牛心台の下流三支里の地點に在り、未だ市街をなさず從て部落其物には殆ど價值なく唯附近に産出する石炭の發送驛として稍々存在を認めらるるに過ぎざるなり。其將來は敢て豫測を許さざるも特に新事情の出現せざる限り大なる發達は望み難かるべし。

#### 四、官公衙其他の諸機關

上牛心台には日本警察官吏派出所、停車場、下牛心台には橋捐、林務局、税局、區所、巡警局、郵便局、小學校等あり。

#### 五、牛心台炭坑

炭坑は資本金十萬圓なる日支合辦採合公司の經營に係り、其礦區は既記の如く紅臉溝、大南溝、小南溝、王官溝、關家坎等を總稱するものなるが就中最も有名なるは紅臉溝にして、炭坑事務所の外村民三十戸内外、採炭夫約二百人、旅店二、飯館子七、雜貨商八及炭坑従事の邦人九戸あり。而して採炭法は當坑のみは比較的堅固なる斜坑にして、ポイラーを据付け動力に依り捲揚機を以て運炭を爲せども、他は總て人力及馬車に依りて運炭を爲す。

現在の出炭量は一日平均二百噸内外、一箇年約七萬三千屯にして、其販路は主として奉天なり。炭質は無煙の粉炭にして稀に塊炭を混するも甚だ脆弱なり。硫黄及灰分多き缺點あるも、撫順炭の如く燃焼速かならず、且つ無煙なるを以て、塊炭は採炭用に詭向なり。粉炭は支那家庭向きとして最も廣く需用せらるると共に之を煉炭とせば冬季採炭用として最適品たり。採炭は總て請負制にして、一千支斤の賃金四十五錢、一噸に對し税金として文那官憲に十七錢宛納付しつゝあり。

#### 六、溪城輕便鐵道の狀況

本輕便鐵道は元と牛心台炭坑より採掘する石炭及同地方より搬出する木材等の運搬を目的として、邦人權太親吉氏の個人經營の下に大正二年十月其敷設に着手し、同年十二月本溪湖の東端なる太子河の左岸より牛心台迄の工事完成し、之に元安奉線輕便鐵道の遺物たる機關車四輛、客車九輛、貨車二百十七輛並に従事員日支人合計八十七名を譲り受け翌三年四月より運轉を開始し、本溪湖輕便鐵道と稱したりしが、種々なる事情により一切を南滿鐵道會社に讓渡したり。爾來同會社の經營に屬し従事員及車輛を増加し、諸設備の完成を圖り機關車八輛、客貨車計三百五輛となせり。從て輸送貨物等も漸次増加し良好の成績を得つつありしが、大正六年四月に至り滿鐵と本溪湖煤鐵公司との間に協議成り、資本金五十萬圓を以て兩會社の共同經營に移り、溪城鐵路公所と改稱せられたり。現在に於ける主なる輸送貨物は殆ど石炭にして雜穀、木材、薪、木炭等之に亞ぎ乗客は極めて少數なり、輸送貨物の噸數は時に依り同じからざるも、通常二噸積貨車二十五輛連結にて一日四回往復の運行を續け一箇年七萬三千噸の運炭を爲す計算なり。此外雜穀、薪炭及乗客一箇年二萬人内外の輸送をなすと云ふ。沿線に



於ける停車場の所在地左の如し。

停車場名	所在地	距離	部落の戸數
太子河	太子河村	一	三十戸
崔家	崔家屯	二哩八	三十戸
臥龍	臥龍屯	三、六	六十戸
下牛心台	停車場ト同名	一、四	三百戸
上牛心台	同	一、二	二十戸
紅臉溝	同	一、〇	三十戸

終點驛  
炭坑への引込線

七、缸窰

當地は古より缸窰業の盛なる地方として其名を知られ、現今三戸の當業者ありて各種の甕を製出す。

八、雜件

六、紅臉溝の東方二十五支里に位する溝兒湯(戸數二十戸内外より成る部落)に温泉寺あり。境内に温泉ありて、溫度華氏七十度内外、アルカリ分を含有し諸病就中皮膚病に特效ありと稱せられ、恰も安奉線五龍背温泉と同程度にして、セメント製の湯槽三個を備へ比較的清潔にして、絶へず二十人内外の浴客の來遊ありと云ふ。

(三)、橋頭

一、沿革及位置

當地は一名細河沿と云ひ又附近村落を併稱して白雲寨とも稱す、初めて橋頭と呼ぶに至りしは今を去る約百年前にして、當時細河の急流は牛馬の交通上甚だ不便なりしが、土民此流に土橋を架し之を橋頭と呼びたり、之を現名の起源とす、住民の祖先は雲南地方より移住せし漢族なるも清朝の四百餘州を統一するや之に屬し功ありし楊及金の二姓者に附近の土地を附與し此地に寒村を構へたり、爾來人家次第に増加し殊に清朝の中葉に至り本溪湖に製鐵事業盛に行はれ此地に往復する人馬車輛の宿站地として俄に繁盛を來たせしなり、然るに該製鐵事業の衰頽と匪賊の出沒等に災せられ再び元の寒村に歸り、其後安奉線改築工事の開始さるるや日支商人の來住するもの多く一時非常に繁榮せしが現今に於ては年一年衰退の傾向にあるは惜しむべし。

奉天の東南方五十八哩、安東の西北方百十三哩、白雲寨の東端に位置し、南は石河寨を経て滿洲の耶馬溪と稱する景勝の釣魚台を遠望し北は福金嶺の嶮を扼し東は寨馬集街道に沿ひて榆樹嶺と相對峙し三分水嶺より發する細河と東分水嶺より發する溪流との合流點の西南方に在りて寨馬集より遼陽に通ずる要衝に當る。

二、戸數及人口



日本人二百戸、人口約六百、支那人百五十戸、人口約千二百にして、日本人は附屬地に住し其大部分は滿鐵従業員なり。

### 三、市街の状況

市街と稱する程度にあらざるも、附屬地は一條の街形を成し線路の北側に位置す、元來此地は山峽中の一寒村なるも自然の景勝を占め、山紫水明仰げば千仞の懸崖岌乎として長牆の如く小丘に登れば老松奇巖の間に蟠植し、俯瞰すれば細河の清流帶の如く流れ、河を隔てて福金嶺の支脈壁立し延長九百呎の鐵橋は清流を横ぎり山後に没す、四圍の山高くして朝陽遅く、曉靄山麓に起りて連巒浮ぶが如き光景を望めば白雲寨の稱呼空しからざるを覺ゆ、後丘の中腹に忠魂碑聳ゆる崖下の一廢寺は日露の役閑院宮殿下の駐營し給ひし御座所の舊跡なり。

### 四、官公衙其他の諸機關

日本側。守備隊、驛、機關區、本溪湖警察署派出所、滿鐵地方事務所派出所、郵便局、尋常小學校、實業補習學校、滿鐵診療所等。

支那側。巡警局、郵便局等あり。

### 五、一般産物及特産物

當地の産物としては杭木、木炭、柞蚕繭、木粉、大豆、高粱等にして附近は森林地帯なる爲め諸種の

山貨に乏しからず、當地の東方約百支里の地には分水嶺の大森林ありて冬季結氷期間は遼陽其他に向け移出するもの少からず、又上記せし如く當地は安奉線中線香の原粉たる木粉の生産地として知られ之に依り生活する水車業者は當地のみにても十七戸、附近を合して七十餘戸を算す、木粉の原材は楡皮、柞木、柳其他雜木にして、楡皮にて製したるものを楡粉と稱し、柞木、雜木等にて製したるものを普通木粉と稱す、楡粉は價格高く上等綿香材なり。

六、商工業。當地の商工業は至極微々たるものにして、稍々見るに足るべき程度のもの杭木、木炭、柞繭の移出及木粉の製造業なり商家は邦人雜貨商二、飲食店三、木炭商七。支人木炭商二、運送業二工業としては細河の水流を利用せる前記木粉製造水車業者十七戸あり、又當地移入品の主なる物は麥粉、鹽、酒類にして日商は主として日本人向雜貨、酒類を内地又は安東方面より仕入れ、支商は支那人向雜貨類を奉天、遼陽地方より仕入れ居れり、要するに杭木、木炭、柞繭、木粉の取引を除きては附近部落との間に日用雜貨の小取引あるのみ。

### (ホ)、南坎

#### 一、沿革及位置

當地は清朝創業の功臣豐巡撫の祭田たりし關係上土人は南坎を南墳と書す、當時の居住民は僅に數名の墓守のみなりしも後ち幾星霜を経て子孫繁殖し且つ鐵道布設以來他地方より移住し來るもの之に加



はり一部落を形成せしものなり。

驛は臨時軍用輕便鐵道布設當時の開設にして四十年四月滿鐵會社の經營に移り次て四十四年十月廣軌  
開通と共に(南方約七十鎖の地點より)現在の場所に移轉せしものにして、奉天の南方六十六哩、安東  
の北方百四哩の地點に位する安奉線中間驛たり。

二、戸數及人口

戸數約百、人口約五百を算するのみ。

三、市街の狀況

巒峰四方を圍繞し細河の清流山麓に沿ひて流るる其間に點在する村落にして附屬地の大部分は滿鐵從  
事員の社宅なり、之に接續する附屬地外には日支の商人點在して日常の食料及び雜貨を販賣するに過  
ぎずして市街と云ふ能はざる程度にあり。

四、官公衙其他の諸機關

日本側。警察官吏派出所

支那側。鐵路巡警分局、初等小學校

五、一般產物及特產物

當地に於ける産業としては農業を以て主要となすも規模小にして僅に自耕自給の狀態にあり、只木材

及薪炭、枕木並に線香材料たる柞樹は特產物として多少注目價するのみ、又當地の附近より産する  
鐵鑛石は全部本溪湖に送られ製鐵の原料に供せらる。

六、商工業

既記の如き狀態にあるを以て商工業として見るべきものなきも細河西岸の山中一帶に密生する線香原  
料たる柞樹、榆木、柳皮等の粉末及薪炭、木材等は移出物資中の主なるものにして其移入品は米、豆  
粕、麥粉、石炭等なりとす。

工業として特記すべきものなしと雖も溪流の屈曲點若くは湍瀨に「タービン」式水車を設けて製粉する  
本業者數十名の外線香製造業者數戸あり。

(七)、連山關

一、沿革及位置

當地は往時朝鮮街道上の舊關にして、清朝に至り此地に驛站を置き佐領を站長として站丁驛馬を駐め  
たり、本來朝鮮街道の驛站は大安平、浪子山、甜水站、通遠堡、雪裡站、鳳凰城、湯山城の八站にし  
て、當地は其中央に當りしも山間僻地の一寒村なりし爲め何等見るべきものなく單に一小農村に過ぎ  
ざりしなり、然るに明治三十七、八年日露戰役の際我軍は此地に師團司令部を置き大兵を駐屯せしむる  
に至りし結果軍役夫及日支商人の來集するもの著しく増加し稍々粗大なる市區を構成するに至りしも



戦後撤兵と共に此等商人、人夫等四散し漸次衰頹に赴かんとしつつありしが、偶々安奉線改築工事の起るや、其従業員の入込みにて復活の状態を呈せしも、其後同工事の完成と共に再び衰微に赴きたり、然るに大正二年我守備隊兵營の建築せられてより三たび多少其面目を改め以て今日に及べり。當地は本溪縣の南端に位し摩天嶺川、細河の溪流を隔てて遙かに分水嶺の峻險を望み其東方平頂山西方摩天嶺の巒峰は恰かも此小孤村を吞噬するに似たるものあり。

二、戸數及人口

戸數、 鐵道附屬地、 日本人百、 支那人十、 附屬地外、 支那人百五十、  
人口 同 同 三百、 同 四十、 同 同 約一千、

三、市街の狀況

市街は主として驛を挟み附屬地及支那街に區分さるるも、兩者何れも不規則なる一小街區にして附屬地の如きも西南に長き一條の片側街にて何等の施設を見ず、從て商家の如きも日支人約三十戸内外にして僅かに當地住民に日用雜貨類を供給するに過ぎざるなり。

四、官公衙其他の諸機關

我守備隊、同衛戍病院、同憲兵分隊、同經理部派出所、警察官吏派出所、實業補習學校及小學校、郵便局、滿鐵保線區、又附屬地外には支那側鐵路巡警局等あり。

五、一般産物及特産物

當地一帯は山岳連亘せる關係上農耕地に乏しく地味亦肥沃ならず、從て農産物中大豆を除くの外住民の食料にも不足の有様なり、然れども林産は薪、木炭、雜木等豊富にして相當の移出力あり、今當驛に於ける最近一年間の貨物發着噸數を示せば左の如し。(單位噸)

品名	發	着	品名	發	着
大豆	一、三二六	四	石材類	二二二	—
米	—	一〇三	麥粉	三	一四九
高粱	二九	三五	豆粕	—	二八
玉蜀黍	三八	三	砂糖	—	一九
粟	—	四	酒類	—	六五
小豆	一一二	一四	豆油	—	二〇
雜穀	—	三二	麻袋	八	二九
果物	四	一六	大麥	—	二八
煙草	—	九	石炭	—	一、二二四



薪炭	七、六三四	二五	繭	一	石油	六
木材	二、一五八	四七九	綿布	—	—	三八
			鹽	—	—	一六八

六、商工業

商業は前述の如く範圍頗る狭く従て他地方との取引關係殆どなく僅かに木炭及薪等の取引あるのみ、又工業に關しては何等見るべきものなし。

(ト)、小市

當地は本溪湖の東方約九十支里、城廠の西方約九十支里、山城寨の南方二十支里に位する一部落にして、戸數約百人口六百を算し、巡警局郵便局、小學校等の機關あり。附近一帶は稍々開豁にして農耕地に富み、南方韭菜峪地方一帯に及ぶ物資の集散地にして、每年高粱千五百石、大豆四千石及線香原料たる木皮十萬斤内外を本溪湖、遼陽方面に、夏季は太子河の水運、冬季は大車に依りて移出す。尙此地には炭坑あり、其質亞無煙炭にして、現在は附近農民の農閑事業として採掘し其規模極めて幼稚なるも山城寨の炭坑に比し、數等上位にあるものの如し。

(チ)、草河口

一、沿革及位置

草河口の地名は現在の驛より東方二支里、草河城の所在に起因するものの如し、此地往時は寨馬集街道と鳳凰城街道との分岐點に位し一方又遼陽方面に往來するもの宿場として一小邑鎮をなせしもの寂寞なる所に過ぎざりしが、明治三十八年我軍の手に依り輕便鐵道の布設せらるると共に軍事上の要區として守備隊の駐屯する處となり、日を逐ふて移住者増加し續て奉天、安東間に於ける輕鐵の中繼驛として南北行列車共々に此驛に到着し、朝に發車せし爲め旅客は總て一泊を要せしより日支人の旅館及料理店等を開設する者多く俄に繁盛を極めたり、然るに一度廣軌鐵道の開通となり驛を現在の地に移すや漸次衰頹に赴き復た當時の繁盛を見る能はざるに至れり。

二、戸數及人口

戸口	附屬地	支那街	計
	日本人支那人支那人		
戸數	三六	五五	一三六
人口	一一六	四八五	六一六
			一、二二七



三、市街の状況

市街は城壁なく驛の北側に當る谷間に一小市街を形成し、商家約八十を算し街區は東西に長さ二條と之に交叉する三、四の小街より成るも半商半農的にして僅かに當地附近に日用雜貨の供給をなすに過ぎず、道路は何等の改修を加へず自然の儘なるを以て、降雨の際は泥濘脚を没する有様なり。

驛の東北約五支里に閑院瀧あり、日露戰役當時閑院宮殿下此懸泉に憩はれたるより此名あり、幽邃清涼夏季炎熱を銷すに足る、又驛前半支里に東溝風穴あり、東溝村の山腹に存在し坑内は岩壁より成り其中程より二坑に岐れ一は其深長を測知せしものなしと稱せらる。

四、官公衙其他の諸機關

巡警局、鐵路巡警局、稅局、商務分會、安東警務署警察官吏派出所、連山關守備隊分遣隊等あり。

五、一般產物及特產物

當地一帶は山岳重疊し平野に乏しく従て農耕地なく、僅かに谷間及緩傾斜面地を耕し衣食を充たすに過ぎざる程度にあり、故に農產品の他地方への移出は單に若干の大豆あるのみ。林産としては木炭、杭木、柞蚕繭等の產出多し。今最近一年間に於ける當驛發着貨物の主なるものを示せば左の如し。(單位噸)

品名	發	着	品名	發	着
----	---	---	----	---	---

大豆	九、八八四	一三	煙草	一	一五
米	一四	五一	繭	三	一一一
高粱	九五	四八	薪炭	七、九八三	五
玉蜀黍	四九	二三	木材	五、七八四	五二
粟	一	一八	鹽	二〇一、一〇〇	一八二
小豆	一五一	一五	鹽干魚	五	一六七
果物	一	五三	麻袋	一二	一三
麥粉	一七	六四〇	豆粕	三九	四二
砂糖	—	一二七	豆油	—	—
酒類	四三	一二五	藥材	一五	一四
棉布	四	四六一	鐵及鋼	三	八三
牛	一〇	—	工業藥品	四八	六六
獸毛	一一	—	石油	—	一八〇
皮革	一二	二三			



石炭	—	三〇五			
----	---	-----	--	--	--

六、商工業

前述の如く本街の商賈は單に附近部落民に日用雜貨類の供給をなすのみにて他地方との取引なきも獨り薪炭は豊富にて地方への移出少しとせず、又工業に關しては何等擧ぐべきものなし。

(7)、清河城

本溪湖より興京に通ずる路上にある一部落にして、北は撫順、南は城廠等に通ずる分岐點に位し、人馬の通行比較的多く、古城趾あるを以て其名を知らる。人家の多くは城墟中に密集し一見富有なる部落にして戸數約百、人口六百五十を算し内商家三、客棧三及保衛團、小學校、廟等あり。産物は薪炭の産出稍々多數に上る外特筆すべきものなく、日用品は小甸子或は望城崗子等より仰ぎつつあり。

(又)、山城寨

本溪湖の東方約八十支里に位し、太子河の上流に瀕す。河を隔てて上山城寨、下山城寨の二部落に分たる。最近の戸口左の如し。

	戸數	人口
上寨	一〇〇	七〇〇
下寨	七〇	四五〇

右の内商家三戸、客棧四戸及保衛團、小學校二、郵便局、廟等あり。産物は附近より石炭、薪炭等を産出する外特に筆にするものなし。

(ル)、寨馬集

一、沿革及位置

古來當地は製鐵及炭山を以て知らるるも山間蕃索の一邑鎮にして、本溪縣城を距ること東南百六十支里、殆ど縣の南端に位し、草河口の東北九十支里、鳳凰城の北百八十支里、城廠の西南九十支里の地にあり。

二、戸數及人口

戸數約三百、人口約二千五百を算し内商家約百戸に達すと稱せらる。

三、市街の状況

市街は舖石河と八道河の會流地點に在りて主なる商舖は東西に通ずる一條街にあるも、兩面に山岳を負ひ交通頗る不便なるを以て、將來の發展覺束なく辛ふじて現状維持なるべし。

四、官公衙其他の諸機關

本溪縣佐公署、巡警局、郵便局、税局、商務會、國民高等小學校、同初等小學校、

五、一般産物及特産物



附近一帶山岳多く耕地は僅に山間の一小部分なるを以て、農産物としては土地の消費を除き他地方に移出すべきものは少量の大豆あるのみ、然れども柞蠶、木材、木炭、石炭等の特産物は稍々注目し

六、商工業

當地は城廠、草河口間の宿場驛地にして、日常用具及食料品の販賣は附近村落に限らるるも柞蠶、薪炭等は主として草河口を経て安東に、木材は遼陽方面に移送せらる、移入雜貨の經路亦概ね之に同じ又工業としては僅かに油坊二、染坊一あるのみ、而かも規模小にして特記の價値なし。

(7)、城廠

本溪湖の東方興京縣境近くに位する一市街にして戸數約千、人口六千内外を算す。

當地より重要各地に至る距離左の如し。

本溪湖 西方百四十支里(太子河沿道百八十支里)

興京 北方二百二十支里

安東 南方三百九十支里

桓仁 東方二百三十支里(水路三百支里)

市街は北方に山を負ひ、西は太子河に瀕し、東南に平野を控ふ。街衢は稍不規則にして東西二支里、

南北半支里に亘り前街、後街の二部に分たれ、巡警局、巡防隊、郵便局、税局、小學校、商務會等の機關あり。

産物は大豆、小豆、煙草、麻等なるも農耕地少なき關係上其産額大ならず。其他少量の豆粕、豆油、燒酒等の産出あり、殊に當地産の燒酒は品質良好なるを以て其名を知らる。

商工業家は約百戸に達するも、其主なるものは燒鍋一、油坊三、染坊三、靴舖八、雜貨舖十、銀匠舖一、鐵匠舖一、皮舖一等にして附近部落との間に小取引行はるるに過ぎざるなり。

當地の西方約十五支里の地點に我大倉組の出資に係る馬鹿溝、青山北(目下休業中)と稱する小銅鑛ありて其鑛石の大部は太子河の水運を利用して本溪湖に搬出せらる。

一四、海龍縣

(1)、海龍縣城

一、沿革及位置

當地の歴史は比較的古く、漢末には高句麗、唐の中世には渤海に屬し、農業稍々發達せしが、幾多の變遷を經、清祖明を征して以來、滿洲人は禁軍八旗兵として悉く北京に移り恰も無人の境となりたり。爾來當地は清朝の狩獵地として封禁し、康熙三十七年より約百八十年間、荒蕪に委せられしが、後流民の入りて私に開墾する者あるに及び、光緒四年(明治十一年)之を開放して移民を奨勵し、通判廳を



設け以て地方の統治に當らしめたり。

後同六年更に總管衙門を置きしが、同二十八年通判廳を海龍府に改め同時に西豊、東平(今の東豊)、西安、柳河の四縣を新設し、府の管轄する所とせしも、同三十二年總管衙門を廢し、民國二年置縣せられ今日に至りしものなり。

開原の東方三百八十支里、濛江に通ずる路上に在り。商業地としては、縣下の都市中第三位にあれども、豫定開海鐵道の終點地にして夙に邦人間に其名を知らる。

#### 二、戸數及人口

戸數約二千、人口一萬二千餘を算し、大肚川と伯仲の間にあり。

#### 三、市街の狀況

北方に小丘を負ひ、南は廣茫たる平野を望み、輝發河の上流たる柳河は市の東南隅を経て東流す。市街は城内及城外より成り、城は直經約半支里の小城にして四門を有し城壁は高さ約二丈の完全なる土壁なり。其周圍は濛を繞らし、四門には小橋を架す。城内に一座の關帝廟及五、六の商家並に官衙等あるのみなり。商街は城外にあり、而して東關最も繁盛にして長さ約一支里半に亘り、其兩側には雜貨舖糧棧等楡比し南關之に次ぎ、柳河々畔には多數の車店及兵營あり。其他西關及北關は主として農家の住宅地を成し、極めて閑散なり。尙ほ當地の飲料水は概して水質不良なるもの多し。

#### 四、官公衙其他の諸機關

海龍縣公署、警察所、地方審判廳、地方檢察廳、勸學所、稅局、郵便局、電報局、電話局、商務會、農務會、教育會、師範學校、中學校、男子、女子高等小學校、初等小學校、保衛團、監獄、巡警局、礦務局、工程局、工藝實習所、銀行及日本領事分館、滿鐵農事試作場等あり。

#### 五、一般產物及特產物

滿蒙の豊庫と云はるる東山地方の一部に屬し、穀類の集散頗る多く、就中大豆は移出品の大宗にして、木材(様子哨より來るもの)、煙草、麻、茸等亦豊富なり。

#### 六、商工業

(イ)、商業。當地は早くより商業繁盛なる地として其名を知らるるも、經濟的地位に於て遙に北山城子及朝陽鎮に劣り、政治的都市として今日の盛況を維持するものにして、商業範圍比較的狭く四周三、四十支里以内の村落に對する集散地たるに過ぎざるなり。

糧棧は大車店を兼ね糧棧と稱すれども其實他地方の糧車店にして普通糧棧に比すれば其規模甚だ小なり。而して糧棧又は大車店と稱するもの合計約十戸に過ぎざるも、油坊及雜貨舖にして之を兼ねるものを合すれば約三十戸を算す。又布疋、雜貨舖は約百戸なり。

移出品の主なるものは穀類、豆粕、山貨等にして布疋雜品等の移入は開原を經由し主として營口及大



連方面よりせらる。

今當市に於ける一箇年の雜貨移入額を示せば左の如し。

品名	數量	品名	數量	品名	數量	品名	數量
大尺布	八〇〇捆	粗布	一五〇捆	綾木綿	五〇個	細綾木綿	五〇捆
金巾	三〇個	套布	一〇捆	清水布	一〇個	綿絲	一五〇俵
砂糖	七〇〇包	石油	三、〇〇〇箱	燐寸	一、五〇〇箱	洋蠟	一、五〇〇箱
海紙	一、〇〇〇塊	窩紙	一、〇〇〇刀	粉連紙	六〇包	白官紙	一〇〇扛
卷煙草	七〇〇箱						

當市には集市ありて糧市柴市及牛馬市に區別せらる。糧市は河岸にありて冬季附近村落より糧車の集來するもの一日能く數十車乃至百車に及ぶ。

柴市は西門外に、牛馬市は南關に開かれ、牛馬市の最盛期は春季にして一日數十頭の來集を見、賣買には多く仲買人を介するを常とす。

(ロ)、工業。總て小規模の製造業にして殆ど見るべきものなく、現に燒鍋の如きも市内に存在せずして郊外に二戸あり。又油坊は市の内外を合せて十三戸あるも、凡て土法經營にして其年製造高は、豆粕

萬枚、豆油二十五萬斤内外に過ぎざるなり。

七、雜件

開海鐵道開通の曉ともならば、交通關係上必ずや面目を一新し頓に發達を見るならんも、然らざるに於ては地方の一小政治都市たるの外、商工業上有望の前途を有せざるなり。

(ロ)朝陽鎮

一、沿革及位置

當地も海龍と同性質の開放地にして、爾來或は馬賊の襲來を受け或は露兵及團匪の蹂躪に遭ひ或は祝融の見舞ふ所となりたる等屢々災厄に遭遇せしが、元來當市は四圍の狀況、交通の關係上等の點より正して、物資集散地として發達すべき素因を有するを以て、恢復迅速にして今や全く其痕跡なし。

奉天省の東北隅に於ける一大重鎮にして、海龍の東方三十五支里に位す。

二、戶數及人口

戶數約二千三百、人口二萬五千を算し、日人八戸十七名居住す。

三、市街の狀況

市は東北兩面には山を負ふも、西南一帶は土地廣く沃野連る、市街は主として中央大街、南街及北街の三條街より成り、周圍には東西約四支里南北約二支里の直徑を有する高さ丈餘の土壁を繞らし、東



北各二門、南西各一門を有す。最も熱鬧なるは中央大街にして、糧棧雜貨舖等大小の商舖櫛比し般賑を極む。南街は之に亞く市街にして、北街は行人少く閑靜なり。

四、官公衙其他の諸機關

巡警局、税局、郵便局、電報局、電話局、商務會、兵營、小學校及我警察官出張所あり。又夙た英人宣教師居住し、宏壯なる教會堂を建て、中學校、小學校、女學校及施藥を主旨とする病院を經營しつゝあり。

五、一般産物及特産物

穀類、葉煙草、木材、藥材、麻、監錠其他各種の山貨(人參、木耳、鹿角の類)等在り。

六、商工業

(イ)、商業。當地の商業範圍は頗る廣く、北は磐石縣及樺甸縣、東は輝南縣及濛江縣、南は柳河縣の東部を抱括し、此中黒石鎮、輝南及様子哨地方とは最も密接なる關係を有す。而して物資の集散地として總ての點に於て、縣内の大市場たる北山城子と概ね伯仲の間に在り。

主なる商店は雜貨舖約二百、内大なるもの二十五戸及糧棧二十戸(糧車店を含む)並に油坊、燒鍋、藥舖、木匠舖等なりとす。

産物の一たる穀物は大豆を主とし當地方一帶より、煙草は樺甸、輝南及濛江諸縣より、材木は赤松、

杉松、黒松及赤柏等にして輝南、濛江及柳河縣より、蕪菇(茸)は輝南及濛江諸縣より、藥材(主として人參)は輝南及柳河縣より、藍靛麻は東方諸縣より來集し、大豆は主として開原に、葉煙草は奉天に、材木は西方諸縣及蒙古地方に、蕪菇、藥材及藍靛、麻の類は奉天、營口、安東及芝罘等に移出せらる。而して此等一箇年の移出額は大約左の如し。

- 大 豆十萬石、高粱一萬石、小麥一萬石、玉蜀黍一萬石、
- 小 豆一萬石、葉煙草百萬斤、棺材五百櫬、板 五萬套、

移入品は北山城子に異なる所なきも其額は、綿糸布類は同地の約半にして雜貨は約八割と見て過ちなかるべし。

次に當地を中心とする主なる街道は次の如し。

- 海龍城街道 至海龍城西南方三十五支里
- 磨盤山街道 至磨盤山北方八十支里
- 黒石鎮街道 至黒石鎮東北方百十支里
- 輝南街道 至輝南東南方四十五支里
- 杉松崗及様子哨街道 至杉松崗南方七十支里
- 子哨街道 至様子哨南方八十支里



柳河街道

至柳河南方百三十支里

(ロ)、工業。工業としては焼鍋、油坊の二種にして、焼鍋は元と十餘戸ありしが、上記火災に累せられ現存するもの僅に四戸に過ぎず。油房は總て土法にして糧棧或は大雜貨舗の兼營する所たり。此外磨坊、紙坊、機布坊、磚窑等あれども小規模且つ土法にして特筆に値するものなし。此地には毎日午前粮市と牛馬市との二市ありて、何れも少からざる取引あり。

(ハ)、六八旦

六八旦は北山城子の東北六十支里に在りて、戸數百四十餘、人口千五百を有し巡警局、郵便局、税局、保衛團、初等小學校、蒙養小學校等あり。

商家は大小合せて約六十戸にして、其概要を示せば左の如し。

- 焼鍋 一、 木材 三、 銀細工 四、 肉舗 三、 油坊 一、
- 鍛冶 三、 雜貨舗 一〇、 烏拉舗 三、 理髮 二、 旅店 九、
- 藥店 五、 質屋 一、

産物は穀物及山貨の類にして移入雜貨と共に其取引關係地は主として北山城子とす。

當地の西南にして二八旦の東方なる二八旦溝の砂金採取は案外盛にして、最盛時には採取者五千人に達すと稱せらる。本砂金の始めて發見せられしは光緒三十四年にして、當時は盜探と爲し居りしが、

宣統元年税局を設置し、一人一箇月金二分(銀約二元)を徵收公許せしものなりと。

(ニ)、北山城子

一、沿革及位置

當地は北山城子又は山城鎮とも稱す、元と海龍と同じく清朝の獵區内なりしが、光緒七年(明治十四年)開放せられてより漸次發達を遂げ今日の盛況を見るに至りしものなり、而して當地は開原の東方約三百支里、大肚川の南方八十支里、海龍城に至る約百十支里の地點に位す。

二、戸數及人口

戸數約三千五百、人口二萬七千を算し内日本人十一戸二十八人、朝鮮人三十六戸百八十一人を除く他は總て支那人なり。

三、市街の狀況

當地は海龍縣下に於ては勿論東山地方に於ける有名なる商業市街にして、北に山城子山を負ひ西南は恒道河に面し西北方一帶は山脈起伏すれども、東南面は沃野連なり長さ約七支里に亘る大街は市街を東西に貫き大小商家其兩側に櫛比し頗る繁盛にして人馬の往來絶ゆることなし。

市内數個所に砲台の設けあり、之れ時々襲撃する馬賊に備ふるものとす、街路は廣けれども路盤軟弱なる上に毫も修理を加へざるより、解氷期及強雨時には所謂泥濘脚を没し今次視察せし時の如きも馬



車の通行すら困難なる箇所ありたり。  
當地は大正十二年一月二日大馬賊團の掠奪に遭ひ市街の西半焼失せられ市の發展上一大打撃を蒙りたるも其復興速にして、現在の市街は其後新に建築せられたるものなるが、一見其痕跡なく舊市街に異ならざるなり。

四、官公衙其他の諸機關

巡警局、税局、兵營、保衛團、郵便局、電報局、電話局、商務會、盛京時報支局、其他高等、初等小學校、私塾八、東三省官銀號支店、鮮人病院、基督教會堂、龍泉寺及日本領事館警察官吏出張所あり。

五、一般産物及特産物

當地の主たる産物は、農産品たる穀類にして就中大豆は其産額頗る多く爲めに大豆に關しては滿蒙に於ける屈指の大市場たり、高粱亦頗る多く其他穀類の集散少からず。

葉煙草、柞蚕、麻、藍靛及山貨の出廻も意外に多く尙ほ水稻米も最近來集するもの多く、其年額約一萬石に達すと云ふ、又人參の集散多く年額二萬斤内外を下らざるべし、此外家具類の産出に就ても多少其名を知らる。

六、商工業

(イ)、商業、當地は古來より商業地として知られ、其範圍極めて廣く海龍縣の西半部、東豐及西安縣の

南部開原縣の東部並に柳河縣の大部を包括し物資の集散額は遙かに縣城を凌駕し商業殷賑なり、商家は大小總て二千戸内外に達し主なるものは油坊、糧棧、當舖、布疋、雜貨舖、糧車店等なりとす。

糧棧は約二十戸にして其内大なるもの八戸、雜貨舖三百餘戸を算すれども内大なるものは十戸に過ぎず。

當舖の大なるもの五、六戸にして糧車店は小なる糧棧にして穀類の仲買をなし兼て大車店を營み其數約二十戸あり。

移出品は前記の如く大豆を以て大宗となす、其他の穀類は多く當地に於て消費せられ移出せらるるもの多からず、其集散額は年の豊凶により増減ありて一様に論ずるを得ざるも大要次の如し。

品目	集 額	散 額
大豆	一六〇、〇〇〇支石	一一〇、〇〇〇支石
高粱	三〇、〇〇〇々	—
小麥	二〇、〇〇〇々	五、〇〇〇々
粟	一〇、〇〇〇々	—
米	一〇、〇〇〇々(粳にて)	移出先は開原、撫順伯仲し、撫順へは主として 粳の儘移出せらる
小豆	三、〇〇〇々	二、〇〇〇支石



葉煙草	九〇〇、〇〇〇斤	五〇〇、〇〇〇斤
麻	三〇〇、〇〇〇斤	一五〇、〇〇〇斤
藍靛	五〇、〇〇〇斤	一五、〇〇〇斤
人參	二〇、〇〇〇斤	二〇、〇〇〇斤

(備考、當地の一石は我一石九斗、一支斤は我百四十五匁とす)

此等産物の移出先は開原を主とし鐵嶺之に次ぐ、元來當地は鐵嶺と密接なる關係を有し、穀物の大半は鐵嶺に移出せられたるが、近來開原驛の發達と共に該驛に發送せらるるもの多く、鐵嶺に出づるものは開原の約四分の一に過ぎざるに至れり、又葉煙草、山貨等は奉天に移出せらるるもの多し。

移入品の主なるものは綿糸布、麥粉、砂糖、石油、洋蠟、紙類、煙草、海産物、果實類、酒類等にして仕入先は元と錦州との關係淺からざりしが、近來は開原、營口、鐵嶺、奉天等を其主なるものとする。但し果實類は今も遠く直隸の昌黎地方より直接移入すること多し。而して此等移入物資中、従前日本製品は支那及外國品と伯仲せしが、近來支那品及外國品に壓倒せられ日本品は漸次同市場より驅逐せられつつあるは慨歎に堪へざるなり、譬へば煙草の如きも従來英米「トラスト」製品三分の二、東亞煙草會社製品三分の一の割合なりしが、現在に於ては英米「トラスト」製品の勢力益擴大せられ加ふるに南洋兄弟煙草公司の製品現はれ、東亞煙草公司の出張所は引上の止むなきに至りしものなり。當地に

於ける石炭は大疙疸炭にして、木炭は南山城子及白銀河方面より移入せらる。

(ロ)、工業。當地には電燈公司ありて市内に電力を供給す、株式組織にして我滿鐵も無關係者にあらずれども、現在に於ては營業不振なりと云ふ。

油坊は大小四十餘戸あり、主として糧棧、雜貨商等の兼營する所にして凡て土法なり内一碾を有するもの十五戸、二碾を有するもの二十五戸あり、一碾の製造高は一日豆粕四十枚、豆油百七十斤にして、二碾を有するものは之に倍す、而して其製造期間は冬季を主とし夏季は休業するを常とし其製品は當地方の需用を充すに過ぎずして移出せらるるもの殆どなし。

精米所は二箇所なるが何れも鮮人の經營に係り、一は資本金二萬元、其一日の製造能力約四十石にして、他は一萬元の資本を有し一日の製造能力約二十石なり。

其他家具製作所も數戸ありて相當製造しつつあり。

當地は水質悪しきが爲め燒鍋なく爲めに燒酒は様子稍より移入す。

## 七、雜件

### (イ)、交通

當地を中心とする道路及里程左の如し。

#### (一)、開原又は鐵嶺街道

至開原三百支里、至鐵嶺三百二十二支里